

<b>科目名</b>	宗教学の人間学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	福島 寛太郎			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。			
<b>達成目標</b>	「到達目標」 ・宗教学的”ものの見方”を理解する。 ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。			
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科 1年	<b>成績評価 方法</b>	試験成績（60点）出席状況（60%以上）・授業への理解度8割、台とする。	
<b>教科書</b>	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。			
<b>参考書</b>	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。			
<b>学生への要望</b>	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。	初回に当たり、とくになし 1.5
2	神中心の宗教	神に視点をおいてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神の宗教と無神の宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。	1.5
3	人間主義的宗教	人間に視点をおいてみると、宗教の中には、人間中心のものがあ、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれである。	1.5
4	神秘主義的宗教と預言者の宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。	1.5
5	汎神的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。	1.5
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。	1.5
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。	1.5
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。	1.5
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。	1.5
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。	1.5
11	救済の原理と価値観の転倒	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。	1.5
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。	1.5
13	宗教的人間（1）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。	1.5
14	宗教的人間（2）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。	1.5
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
16	期末試験	期末試験を行う	0

<b>科目名</b>	哲学的人間学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	関川 悦雄		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	本授業のねらいは、前期で哲学的人間論を講義したので それを基礎にしてにさらに思想的思索をを深めて行くことにあります。前期では、歴史上の哲学者が人間をどうとらえたか、たとえば「人間は考える葦」(パスカル)とか、人間は知性的に行動するとか、人間は自由意志をもつなどを取り上げました。本講義は、前期における「人間の理解」を基礎にして、さらに人間の尊厳と倫理的課題を追究し、そしてボルノアの著書を基にして、哲学的人間学の学的内容を解明することを中心に進めて行きます。		
<b>達成目標</b>	1 受講者は人間の尊厳と倫理的課題を把握することができたか。 2 受講者はボルノアの考え・思想の下にあって「人間をどうとらえたか」という人間像を把握できたか。 3 受講者はボルノア思想に関する講義を聴いて自身の「人間としての生き方やあり方」を述べることでできたか。		
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	毎回、ワーク・シートを活用し、ゼミ形式で発表する方法の中で評価する。評価内容は、事前調べ・レジュメ作成・発表・討議など、とする。これらの評価を含めて、学期末でまとめ作成で100点とする。
<b>教科書</b>	ボルノア著/峰島旭雄訳『実存哲学と教育学』（理想社、1966年、再版もあり）。この著書は学内の図書館にある。葛生栄二郎他共著『新・いのちの法と倫理』（改訂版、法律文化社、2017年9月を使用するが、この本は当方でコピー物で用意する。		
<b>参考書</b>	特になし		
<b>学生への要望</b>	講義への主体的、協力的な参加を要望する。専用のノートを準備すること。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜Ⅲ限（12:50～14:20）；同曜Ⅳ限（14:30～16:00）。随時、時間のあるときに相談に応じるので、下記のメール・アドレスで事前のアポをとること。ugg28553@m4.dion.ne.jp		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。少人数の受講者数の場合は、ゼミ形式（事前調べ・発表・質疑応答の一連の流れ）をとります。いずれにするかは、受講者の皆さんと相談の上、決定する。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
2	人間の尊厳と人権尊重・福祉理念	人間としての尊厳の考え方とその習得、人権思想・福祉理念の歴史的変遷とその意義、人権尊重・権利擁護の考え方とその習得。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
3	自立の概念	人間にとっての自立の意味、人間尊重の主体的保持、介護を要する人における自己決定の考え方とその理解。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
4	ボルノアの人物とその哲学	ボルノアという人物の紹介、教育学における人間学的見方。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
5	ディルタイの生の哲学と教育学	ディルタイの生涯と思想、ディルタイの哲学と教育学、ディルタイの思想と位置。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
6	ボルノアの実存哲学と教育学	序論—出発点としての実存哲学、二つの根本的な教育観、教育における非連続的形式の可能性。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
7	ボルノアにおける非連続的事象（1）	危機（1）—身体的・精神的発達における非連続的事象、危機の本質はなにか、病気における危機。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
8	ボルノアにおける非連続的事象（2）	危機（2）—道徳的危機、生における危機の位置、危機にたいする教育学態度。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
9	ボルノアにおける非連続的事象（3）	覚醒—教育学的概念としての覚醒、肉体的・感覚的事象、覚醒の教育学的側面。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
10	ボルノアにおける非連続的事象（4）	助言—生活における助言の役割、助言と決断、教育としての助言	予習・復習；レポートの作成と整理 60
11	ボルノアにおける非連続的事象（5）	出会い（1）—出会いの概念（出会い、あたらしい出会い概念の二つの段階、二つの出会い概念の相違、出会いの実存的概念）。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
12	ボルノアにおける非連続的事象（6）	出会い（2）—出会いの実存的概念、出会い概念の拡張、出会いの精神科学的概念。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
13	ボルノアにおける非連続的事象（7）	出会い（3）—教育学上の問題としての出会い（出会いと陶冶との対立、出会いと陶冶との補助関係、教師との出会い）。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
14	ボルノアにおける非連続的事象（8）	教育における冒険と挫折—教育の本質的契機としての冒険、試行・賭け・冒険、教育への転用、挫折。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
15	授業のまとめ	倫理やボルノア思想の学習を通して何を学んだかをまとめる。	予習・復習；レポートの作成と整理 60

<b>科目名</b>	人間発達学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	堀 琴美			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	人は生涯にわたって発達を続けます。成人後も老年期も、人間として成長し、円熟し、次の世代を育てて、いのちのバトンをつないでいきます。また、子どもの成長と発達は、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。担当教員の医療・福祉分野における心理臨床の実務経験を活かし、訓練用構成事例や視聴覚教材を駆使して子どもや大人の姿が目に見え、活発な質問や意見を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを多めに語り合ってください。 実務経験：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。			
<b>達成目標</b>	【達成目標】 ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。 ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。 ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など、重要な概念を理解する。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科 2年生 (生活総合コースは必修)	<b>成績評価 方法</b>	期末試験または期末レポート（80%） 発言内容・受講態度、普段のレポート（20%）	
<b>教科書</b>	授業でレジュメや資料を配布する。			
<b>参考書</b>	テーマ別に授業で紹介する。			
<b>学生への要望</b>	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることできるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れたと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜IV限、木曜I限、臨床心理学研究室。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。 発達心理学とは何か。	次回授業内容（発達理論）について、参考書等にあたり、キーワードを調べておく。	30
2	発達理論	代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	子どもの発達 I	発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。 赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	子どもの発達 I 乳児期（0～1歳）	はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。嘔吐力と離乳食など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	子どもの発達 II 幼児期（2～3歳）の発達	自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がり。「ごっこ」遊びなど。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	子どもの発達 III 幼児期（4～5歳）の発達	子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	子どもの発達 IV 児童期の発達	ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	子どもの発達 IV 子どもの道徳性の発達	コールバーグ、ギリガン、バンデューラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	青年期・成人期・高齢期の発達	アイデンティティの獲得、モラトリアム、青年期の心理的危機と精神疾患。 人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	愛着理論 I 愛着と基本的信頼	ボウルビイの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	愛着理論 II 愛着と共感する力	愛情ホルモンの機能と役割、物マナ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	愛着障害と虐待	反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	ネグレクトの影響	ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	発達のみづき	発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 30
15	まとめと補足	まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 30

<b>科目名</b>	生理学的人間学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建 築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	西山 慶治		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	人体を構成する基本的構造と機能を学ぶため、細胞、組織、器官並びに系統別レベルで学習する。それによりヒトが進化して現在の構造と機能を獲得する過程で、人体に具現された自然の法則を学ぶ。		
<b>達成目標</b>	人体について構造と機能を理解し、さらに人類の進化を学習することによりヒトを客観的に概説できる。		
<b>受講資格</b>	本学に在籍して、高等教育を積極的に学修する意欲があること。	<b>成績評価 方法</b>	理解度確認小テスト40%、期末試験60% 合計100%(100点)
<b>教科書</b>	講義プリントを配布して使用		
<b>参考書</b>	シンプル解剖生理学（河田光博、樋口隆：南江堂）、入門人体解剖学（藤田恒夫：南江堂）		
<b>学生への要望</b>	人体の構造と働きを学び、ヒトの存在について考える。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日と木曜日の放課後（5校時以降）に家政学館3階解剖学研究室において。 不在の時にはメモを残すこと。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	人体の構造と機能、総論	人体とは、自然の法則が人体を借りて具現化されたものである。その法則を人体の基本構造と機能から学ぶ。	人体の基本的な部位名と形状を復習する。
2	人類の進化と比較解剖・生理学	人類の進化と動物の比較から、機能の発達を学ぶ。	人類の進化からヒトの機能の発達を調べる。
3	組織・細胞学総論	人体を構成する上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織並びに細胞について学ぶ。	人体を構成する細胞、組織、器官についてまとめる。
4	運動器系	骨格と筋肉の形状と働きを学び、組織構造と機能、発生、経年変化からヒトの特徴を理解する。	運動器としての骨と筋肉の概略を知り、人体での役割を考える。
5	消化器系	消化器の構造と働きを学び、栄養の摂取と代謝について理解する。	消化に関わる臓器を復習して、それぞれの部位での役割をまとめる。
6	呼吸器系	呼吸器の構造と働きを学び、酸素の吸収と代謝について理解する。	呼吸に関わる器官を復習して、その働き方を調べる。
7	循環器系	循環器の構造並びに働きを学び、体液の循環とその意義を理解する。	循環器の構造と働きを学び、体液循環の役割を理解する。
8	泌尿・生殖器系	泌尿器と生殖器の構造、働き並びに性差について学ぶ。	泌尿器の排泄機構と生殖の周期的サイクルを学ぶ。
9	内分泌系と自律神経系	自律機能の調節にあずかる内分泌と自律神経の2つの系統の構造と機能、並びにそれらの協働機構を学ぶ。	人体の自律機能を預かる内分泌と自律神経の協働を学ぶ。
10	神経系	人体の機能を統括して調節を司る神経系の概略を理解して、ヒトの高次機能を学ぶ。	人体の機能の中心である神経系への情報の入力と出力を理解してまとめる。
11	感覚器系	人体の内外の情報を収集する器官を学び、その特徴を理解する。	感覚の入力と神経系の調節機構を学んで、ヒトの情報への対応力を学ぶ。
12	ヒトの発生	ヒト発生の過程を概説し、「個体発生は系統発生を繰り返す」(E. Haeckel)はどこまで正しいかを確かめよう。	ヒトの発生の過程を学び、人体の働きを担う形態形成をまとめる。
13	生と死、老化と寿命	発生の瞬間から死に向けての過程が始まる。老化と寿命、細胞死、再生、修復、尊厳死について学ぶ。	避けられない死に向かった過程は老化であること学修する。
14	大脳生理学、概日リズム	脳を中心とした日内リズム(概日リズム)を学び、人間生活のリズムを見つめてみよう。	人体の生存ではリズムが多々見られ、その意味を調べる。
15	授業の質疑応答、まとめ	進化の頂点にいと考えられるヒトの特長、ヒトが未だ進化過程と考えられる点、それらの複合体としての人体を客観的にみる。その中に自然の法則を見出す。	ヒトのこれまでの進化の過程を学び、未来への進化を想像する。

<b>科目名</b>	家政学原論Ⅰ		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	安田 純子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>家政学原論 (Principles Home Economics) は、家政学の領域において根本・基礎を学び、家政学関連科目における専門的各論の土台となる科目です。</p> <p>家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。家政学の歴史や発展、家政学の研究の目的・対象、研究の原理を学び、次いで家政学の理論を学びます。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。</p> <p>本授業では、人間を大切に考え、健全な（家庭）生活を求め、人間生活を総合的に捉え、生活上の課題に対する解決策をも考える家政学への誘いをし、専門的研究への道づけも目指します。</p> <p>履修カルテの評価項目：評価項目は、以下の3点です。</p> <p>①家政学の発祥と展開について、女性の生きる姿勢や勇気を学び、女性の教養観の葛藤や、その苦労や活躍を理解し、家政学の下地の理解につなげることができたか。</p> <p>②家政学の構造について問題を整理し理解できたか。</p> <p>③今日の（家庭）生活について見つめ直し、人間生活の真の豊かさとは何か、人間の成長にとって家庭の意義とは何かについて問題意識を深めることができたか。</p>			
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修 家政学部 食物栄養学科2年 2単位 必修	<b>成績評価 方法</b>	試験60%、レポートは40%	
<b>教科書</b>	日本家政学会 家政学原論部会編「やさしい家政学原論」建帛社（授業の準備や参照に使用する）			
<b>参考書</b>	関口富左編著「家政哲学」家政教育社 他授業中に参考書や資料名を挙げる。図書館にて参照。			
<b>学生への要望</b>	<p>学問的要望 授業は暗記ではない。考察できる力を養う。したがって、課題などに対して、図書館やインターネット等で調べ、常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深めて欲しい。</p> <p>日常的要望（守るべきこと） 授業態度については、学生としての本分を貫き、飲食等の行為、スマホを離さない態度、隣人とのおしゃべりなどは厳禁であり、授業に集中すること。レポートは指定された日程を守り提出すること。</p>			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日と木曜日の午後 場所は、創学館NO. 1 研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス 家政学への接近	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の構成と進め方</li> <li>・その他の説明、受講生の確認</li> <li>・授業への導入</li> </ul> 家政学とはどういう学問か	はじめての学問であり、基軸となる学問なので、授業の内容把握の復習をする。	30
2	家政学原論とは何か	1 家政学を知ること 家政学とは何か 家政+学 原論とは何か 2 家政学における原論の意味と必要性	テキストのp.83~p.90 p.91~p.98に目を通す。（読み込む必要はない。）復習をする。	60
3	家政学入門1 家政学の目的・対象・方法、定義	1 家政学の目的・対象・方法 2 家政学の定義	テキストのp.10~p.18の2.3.4.5.（授業内容に関連した項目）を読む。復習をする。定義の確認	60
4	家政学入門2 家政学の領域と独自性	1 家政学の領域 2 家政学の独自性	テキストのp.10~p.18の6.7.8.（授業内容に関連した項目）を読む。復習をする。	60
5	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程①)	1 家政学発祥の経緯 2 家政学の変遷	テキストのp.1ならびに第4章に目を通す。復習をする。	60
6	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程②)	家政学の変遷（胎動期から現在）	テキストの第4章を読む。復習をする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
7	学問研究と研究者たちの姿勢	学問研究と研究者たちの姿勢 先達から何を学ぶか (1) 松島千代野先生 (2) 亀高京子先生 * (3) 関口富左先生	本学の創始者である、故関口富左名誉学園長について、御著書「家政哲学」などをもとに調べる。 復習をする。	60
8	人間・福祉・自然を護る家政学	1 人間・福祉・自然を護る家政学 (1) 人間を護る家政学 (2) 福祉を護る家政学 (3) 自然を護る家政学	復習をする。 新聞などから生活に関する身近な諸問題を考える。	60
9	生活の学としての家政学	1 生活とは一生活のとらえ方 (1) 人はなぜ着るのか一衣服がもつ意味 (2) なぜ食べるのか一食物がもつ意味 (3) なぜ住むのか一住まいがもつ意味 (住むということ)	テキストp.50~p.56とp.83~p.90に目を通す。(読み込まなくてもよい。) 復習をする。 課題レポートのテーマについて考え始める。	60
10	家族と生活(1)	1 家族とは何か (1) 家政学がみる家族 2 家族の起源 (1) 家族の基本的概念	テキストp.66~p.82に目を通す。(読み込まなくてもよい。) 復習をする。	60
11	家族と生活(2)	1 日本社会における家族の変遷と諸問題 (1) 核家族の進行と少子化 (2) 家族構成の変化と高齢者世帯の増加 (3) 出生数の低下の問題 (4) 家庭における今日的不安定要因	テキストp.66~p.82に目を通す。(読み込まなくてもよい。) 復習をする。 課題レポートに取り掛かる。	60
12	家庭生活と社会生活(1)	1 生活のバランス (1) ライフコースの多様化 (2) 働くということ (3) 家庭内の仕事(家事)と社会的労働	ライフコースについて簡単に調べる。 復習をしながら自分の将来について考える。 課題レポート作成(途中)	60
13	家庭生活と社会生活(2)	1 ワーク・ライフ・バランス (1) 「仕事と生活の調和憲章」2007年 2 仕事と家庭経営 (1) 時間と空間 (2) 経済的自立 (3) 健康で豊かな生活(豊かさとは) (4) 多様な生き方・働き方	ワーク・ライフ・バランスについて調べる。 復習をしながら自分の生活について展望する。 課題レポート作成(途中)	60
14	家政学のこれから(1)	1 諸問題 (1) 家事の外部的問題 ・家庭における既製品利用の拡大と危険性について (2) 利便性と効率性に振り回される生活スタイル 2 社会貢献・復興と家政学 3 確認テストに向けての復習	テキスト第6章に目を通す(読み込まなくてもよい) 復習をする。 課題レポートを仕上げる。	90
15	家政学のこれから(2)	1 sustainability(持続可能性)と家政学 2 人間守護 人間が生きるということ 家政哲学へ 3 全体のまとめ 4 確認テストと解説	総復習をする。	120

<b>科目名</b>	家政学原論Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 彌			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	本講義は家政学の学問的基礎を確立するために、家政学を哲学的に究明し、家政哲学を樹立した。このことは、家族生活並びに個人の生活、即ち家政学の拠り所となる家政学原論を成立させる。従ってその重要性を捉え、家政学の本質を敷衍する。よって、この本質的視点より人々の生活の安定性へ寄与することを意図し且つ生活への還元を図る。			
<b>達成目標</b>	【履修カルテの評価項目】 ①家政学の定義が理解できたか。 ②家政学における空間性・時間性についてどのくらい理解できたか。 ③「住むとはどんなことか」について理解できたか。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科2年生 食物栄養学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	受講態度(10%)、テスト(90%)	
<b>教科書</b>	関口富左編『家政哲学』家政教育社			
<b>参考書</b>	関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 この参考書は 図書館にありますので、読んでください。			
<b>学生への要望</b>	予習、復習更に疑義等の解明について討議できるように種々の疑問点をず提起すること。			
<b>オフィスタイム</b>	(影山) 金曜日を除く昼休み(12:00~12:50) 創学館4階No.2研究室 (深谷) 火曜日(12:00~12:40)教務部			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	家政から家政学へ	家政学原論とは何か、家政学概論とは何か、原論と概論の違いについて意味内容の違いについて学びます。家政から家政学への歴史について学び、また、日本の大学で家政学部から名称変更になった大学とその理由について話します。 本学の家政哲学研究の歩みと東北北海道地区の家政学原論開講状況について話します。	60
2	家政学の定義	先学者の定義の比較と意味内容の検討をします。日本家政学会の定義、黒川喜太郎氏、松平友子氏、小池行松氏、中原賢次氏、林太郎氏、山本キク氏、林太郎氏、野口サキ氏、原田一氏の家政学の定義と関口富左氏の定義を比較します。そこから関口富左氏の定義は、個人や家族に視点があてられていること、また家政学は人間守護の学、という家政学の中心概念について理解します。	60
3	家庭生活と人間	文学作品、森鷗外『半日』における家庭を読み、主人公は家庭に何を望んでいるか、また家庭を存続させるには家庭には何が必要か、家族の役割を学びます。また夏目漱石『道草』における家庭を読み、その文学作品から、主人公は家庭に何を望んでいるか、また子どもは家庭に何をのぞみ、子どもが育つためには何が必要かを学びます。	60
4	ボルノーの被護性と本家政学における「人間守護」	本学家政学が、ボルノー哲学を拠り所として捉えた理由と、家政行為・技術の実態的内容の本質的意味について学びます。人間の生活の基本である住むことの哲学から、人間のよりどころとなる家庭や家族の本質を学び私たちの生活から人間を守護する方法を理解します。	60
5	ボルノーの住むことの意味について	ボルノーの住むことの意味について、「住むとは、世界のすべての道がそこから出。またそこに帰ってくるような一定の場所に属しており、そこから自分の世界を作り上げるといことで、簡単に言えば居住地と呼ぶ。この居住地は秩序ある世界の中心であり、人間が住むことのできる限りにおいてのみ、人間の世界は一つの中心とともに整理され多秩序をもつものである」という言葉から住むこととは何かを具体的に学びます。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
6	家政学と人間所在—居住空間の分析—	人間の体験的生活空間を「内部空間」と「外部空間」との二層に区切っている。内部空間は人間がそこへ帰り、その中で自分が安全だと観ずることができる休息と平和の空間であること、すなわち守護空間です。外部空間は労働と仕事の空間で敵意に満ちた緊張の中の空間であることを理解します。また、人間生活の健全さはこの、2つの領域の均衡が正しく保たれていることにかかっているというボルノーの言の意味について、実例をもって理解します。	講義資料について予習・復習する。 60
7	家政学と人間所在—時間的分析と日常—	生活とは一つの空間を所有することであるが、それと同時に、時間の経過の中に身を置くことでもあります。人間存在における時間性的の問題。主観・客観による時間の変化と日常生活の在り方を学びます。くつろいでいる時の時間は、可逆可能な時間、例えば回想・追憶・反省等々と時間をもどしたり、また静止させたりするなど自由な広がりを持つことができます。また、喜びに満たされている時の短いと感じる時間、苦痛を強いられている時の長いと感じる時間があり、これらの時間は主観的時間と言われます。他方、時計で計られる物理的な時間は客観的な時間と言い表すことについて理解します。	講義資料について予習・復習する。 60
8	家政学の独自性 — 二相性の解明 — 、家政学の研究方法論について	個人と家族、合理と非合理、内部空間と外部空間空間、主観的時間と客観的時間等々観点より捉え、これを実生活上より分析し、さらにその解明による実態確認をします。	講義資料について予習・復習する。 60
9	現代の科学の動向	19世紀後半、イギリスで誕生した新しい科学の特色、概要について講じます。	講義資料について予習・復習する。 60
10	現代の科学に対する警告	個別化、高度化を進めてきた、科学に対する科学者自身による反省と警告について解説をします。	講義資料について予習・復習する。 60
11	本学家政学のパラダイム (1)	本学家政学のパラダイムの概要を説明し、特に本学家政学の理念である「人間守護」について解説をします。	講義資料について予習・復習する。 60
12	本学家政学のパラダイム (2)	本学家政学の対象及び対象空間について説明をします。	講義資料について予習・復習する。 60
13	本学家政学のパラダイム (3)	本学家政学の方法論について説明をします。	講義資料について予習・復習する。 60
14	本学家政学の政策論 (1)	本学家政学における政策論として、シビル・ミニマムの思想について解説をします。	講義資料について予習・復習する。 60
15	本学家政学の政策論 (2)	シビル・ミニマムの内容が生活の充実を実現する条件であることを解説をします。	講義資料について予習・復習する。 60

<b>科目名</b>	生活学原論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建 築デザインコース 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 彌		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	政治、経済、社会のそれぞれにおける活動は、本来の目的である、豊かな生活を必ずしも達成してきたとはいいがたい。こうした中 で、ようやく昨今、生活や生活者の優先ということが言われるようになった。そこで、本講義では、生活に対する多面的な検討をとおし て、真に豊かな生活の実現に向けて探究することにする。		
<b>達成目標</b>	個人生活、家庭生活、地域生活、国民生活、国際生活など、多様な生活場面を理解するとともに、家庭および地域の生活がより重要で あることを認識できること。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科（生活総合コース・建築デザインコー ス）	<b>成績評価 方法</b>	受講態度（20%）、レポート（80%）
<b>教科書</b>	特になし。 授業内容に関する資料を配布する。		
<b>参考書</b>	川添登『生活学の誕生』ドメス出版		
<b>学生への要望</b>	授業目標を毎回確認すること。		
<b>オフィスタイム</b>	金曜日を除く昼休み（12:00～12:50） 創学館4階No.2研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	生活学における原論の意 味	原論が、その学問の学問としての要件を明らかにす るものであること、そしてその点から、生活学の学問 としての要件、すなわち、生活学の目的、対象、方 法、意義、などについて講義する。双方向型授業を 実施する。	講義資料について復習する。 60
2	生活という概念	生活学の対象である生活について、その概念を、 様々な見解から考えるとともに、(住むこと)、(生き ること)、(くらすこと)という、3つのポイントから とらえる。	講義資料について予習・復習する。 60
3	生活の範囲	生活が、個人、家庭、地域、国、世界とかかわりな がら展開されることを捉える。	講義資料について予習・復習する。 60
4	個人生活	個人生活が優勢になりつつある現状を捉え、その長 所と短所について考える。	講義資料について予習・復習する。 60
5	生活の外部化(1)	工業化の進展とともに、家庭生活が外部化されてい る現状を、子どもの育児、老親の介護その他を通して 捉えるとともに、その功罪について考える。	講義資料について予習・復習する。 60
6	生活の外部化(2)	男女平等をめざすスウェーデンにおける生活の外部 化の現状とその問題点について考える。	講義資料について予習・復習する。 60
7	生活の内部化	オランダにおける家庭の生活機能を護る取り組み、 特に「ワッセナーの合意」のもつ意義について理解す る。	講義資料について予習・復習する。 60
8	生活概念における(住む こと)の意味①	生活の概念における(住むこと)の重要性につい て、G. パシュラールの考えを理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
9	生活概念における(住む こと)の意味②	生活の概念における(住むこと)の重要性につい て、O.F. ボルノーの考えを理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
10	生活の自立(1)	政治及び企業による生活保障機能が弱体化してきた 今日、行政サービスや商品に過度に依存できないとい う現状の中で、生活の自立・自存が国民的課題になっ てきたことを考える。	講義資料について予習・復習する。 60
11	生活の自立(2)	これまでのように、行政サービスや商品に過度に依 存した生活が、逆生産性、シャドウワーク、行政管 理、公害といった諸問題につながることを考える。	講義資料について予習・復習する。 60
12	生活の自立(3)	生活の自立・自存を象徴するI. イリイチのいう 「ヴァナキュラーな生活様式」について理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
13	生活とコミュニティ	地域におけるヒューマンな人間関係を形成し、豊か な関わりをもつ地域生活を意味するコミュニティにつ いて理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
14	生活とシビル・ミニマム (1)	豊かな地域生活を支える経済的、物理的条件である シビル・ミニマム—社会保障、社会資本、社会保健— について理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
15	生活とシビル・ミニマム (2)	生活の豊かさについて、量的豊かさとは質的豊かさの 観点について理解する。	講義資料について予習・復習する。 60

<b>科目名</b>	家族関係学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	知野 愛		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。教職(家庭科)の必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。		
<b>達成目標</b>	①少子社会の定義や現状を理解している。②高齢社会の定義や現状を理解している。③5回の課題レポートを提出し、最終課題レポートをまとめて提出する。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科・食物栄養学科4年生、文化学専攻科1年生他	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート50点 ②筆記試験40点 ③ノート提出10点
<b>教科書</b>	資料を配布する		
<b>参考書</b>	適宜提示する		
<b>学生への要望</b>	資料はノートに貼り付けるなどして、自学自習はノートに記入し最終的に提出。課題レポート(宿題)の提出は5回ある。発表も積極的に行うこと。		
<b>オフィスタイム</b>	木曜Ⅳ限、金曜Ⅴ限、地域創成学科研究室N0.1		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家族の意義について考える。	120
2	家族と法律	結婚・婚約、婚姻の要件、結婚の効果、親子関係の成立等に関する法律的側面について理解する。明治民法と比較して考える。	120
3	戸籍と家族	戸籍という面から家族を考える。課題レポート①「婚姻届の提出について」レポート課題提出を確認し代表者が発表する。戸籍に見る人の一生、戸籍の様式や記載内容、様々な事例について学ぶ。	120
4	戦後日本の人口変動	戦後日本の合計特殊出生率の変化、生産年齢人口や高齢者人口割合の変化等に注目し、家族の変化について考える。戦後のベビーブーム、高度経済成長期の家電製品の普及と家族の変化について考える。	120
5	少子社会の現状	課題レポート②「少子社会とは何か」を提出確認し代表者が発表する。日本の少子化に関する統計資料を基に、少子化の定義、問題点等について焦点をあて、現代の家族の置かれている状況を考える。	120
6	中間振り返り・ポイント確認	家族の機能とは何かを考え、ここまで学んだ内容を振り返り、ポイントを確認する。	120
7	少子化と子育て支援	課題レポート③「郡山市の子育て支援」の提出確認し代表者が発表する。少子社会における子育て支援の具体的な事例を知り、子育て家庭の現状や家族の置かれている状況を考える。	120
8	地域における子育て	少子社会の背景の一つに母親の孤立ということが挙げられ、子育ての地域ネットワークづくりが重要である。子育て支援策を欧米諸国の事例から学ぶ。	120
9	家族が抱える諸問題(1)	経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待の問題等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。	120
10	家族が抱える諸問題(2)	各自が作成した課題レポート④「現代の家族が抱える諸問題」のレポートについて、全員が発表し全体で質疑応答する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	中間振り返り・ポイント確認	少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題という、ここまでの授業内容の確認と補足を行い、ポイントを確認する。	120
12	高齢化と世帯の変化	国勢調査の結果から、人口減少と世帯数の増加、世帯構造の変化に注目する。様々な事例を読み、高齢者とそれを取り巻く家族の様子を知る。	120
13	諸外国の高齢者について(発表)	課題レポート⑤「諸外国での高齢者の暮らしと家族について」のレポートについて各自が発表し全体で討議する。後半では諸外国の高齢者の生活を概観した資料を読みまとめる。	120
14	戦後日本の家族の変化と高齢者の生活の変化	戦後日本における家族の変化と高齢者の生活の変化に注目する。また、現在の要介護高齢者と家族を取り巻く社会状況の変化に着目する。最終レポートのテーマは「現代家族が抱える諸問題」(副題は各自が決めて焦点を絞ること)。	120
15	まとめ・振り返り	この授業を通して学んだ事項を振り返りまとめとする。家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題、高齢社会の現状、高齢者の生活、高齢者介護と家族について、内容を確認・補足し、筆記試験を行う。	120

<b>科目名</b>	生活経営学Ⅰ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	大泉 由美, 深谷 笑子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>本授業では、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究をも駆使し、健全な生活を築くために多面的な考え方を学ぶ。</p> <p>「人間守護」の理念に基づく家庭（内部空間）と社会（外部空間）の調和ある生活は、価値観の多様化傾向が時間の経過とともに広がる現代社会には不可欠な課題である。そこで、生活経営の基本的要因である「人・物・財貨（金）・時間」を中心に家庭・社会の両空間の調和ある望ましい生活経営の在り方を考える。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>履修カルテ</p> <p>①内部空間と外部空間が密接不離であることが理解できる。 ②私たちは、組織の中にいることが理解できる。 ③家庭経済の仕組みが理解できる。</p>			
<b>受講資格</b>	人間生活学科 2年生以上	<b>成績評価 方法</b>	テスト70%、課題・発表30%	
<b>教科書</b>	必要に応じて資料を配付する。			
<b>参考書</b>	『新しい生活経営学』関口富左・関口修共著家政教育社出版 『家政哲学』関口富左編著 家政教育社 『組織の中の人間行動』三村敏子他著 有斐閣 『人間と空間』O.Fポルノー著 大塚恵一訳 せりか書房 その他適宜授業中に紹介する。			
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞やニュースなどで情報を収集を採取しながら、社会の状況に興味・関心を持ってください。</li> <li>・多くの生活体験を通し、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むんでください。</li> </ul>			
<b>オフィスタイム</b>	深谷 月曜日12時30分～12時45分（教務部） 大泉 火曜日2限 木曜日1限 （創学館4階No.3研究室）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
2	人間の生活する空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・人間が生活するためには家庭（内部空間）と社会（外部空間）は密接不離な関係にあること、両者の関係が如何に重要な関係にあるかを理解するとともに、両者の均衡を保つために必要なことは何かをディスカッションする。</li> </ul>	講義資料の予習をしておくこと。講義内容の復習をする。
3	組織体①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・組織体とは何かということを経史的経過を踏まえ理解する。</li> </ul>	組織とは何かについて予め調べておくこと。講義内容の復習をする。
4	組織体②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・組織体の管理・運営方法、その基本的な要因を内部空間の健全なる発展に活用することを前提として、組織体の管理・運営を学び、併せて外部空間の組織的構成についてもその意義を考える。</li> </ul>	一般企業や学校等の組織図を調べておくこと。講義資料の復習をする。
5	組織体③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・組織体の管理・運営の方法を具体的に学習し、生活への活用について理解を深める。</li> </ul>	組織に関するニュースを調べておくこと。第2～5回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。
6	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・計画とは何かを具体的に知ることは、家庭（内部空間）の安定確保と更なる発展を図るためにも不可欠である。計画の基本的な内容（意義）について学び、計画の中には長期計画と短期計画があることを理解する。</li> </ul>	計画と予定の違いを調べておくこと。講義内容の復習をする。
7	計画の限界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・ここでは計画の限界を知り、如何にして計画を是正するかを考えると共に計画を内部空間の管理・運営に活用するかについてディスカッションをおこなう。</li> </ul>	なぜ情報を持っていることが大切なのかを考えておくこと。講義内容の復習をする。
8	統制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・人間は常に何らかの自己統制（管理）を行い周囲の人々との調和を図りつつ生活をしているが、組織体の健全な運営のためには意識的（規則・規程）に統制（管理）を行わなければならない。内部空間にあっても理性的な自己規制をはじめとして約束事（規則・規程）がある。人間が集団化し何らかの行為を行うには統制を定めることになる。統制について基礎的な知識を理解し活用できる。</li> </ul>	統制とは、どのようなものか調べておくこと。講義内容について復習する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	経営の要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・経営の要因である「人・物・財貨（金）・時間」について統制の在り方を項目別及び総合的に学ぶ。</li> </ul>	第6～9回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。 120
10	指導・リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・生活に必要な指導とは、リーダーシップとは何かとすることを学ぶ。現代社会での指導的役割を果たすリーダーの重要性について考える。講義内容を踏まえて自分が考える理想のリーダーについてプレゼンテーションをおこなう。</li> </ul>	リーダーに必要な要素、影響力について考えをまとめておくこと。講義内容の復習をする。 60
11	人間と時間、生活と時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・私たちにとって、時間は何物にもかえがたいほどの関わりがあるが、それにもかかわらず重要視されていないのは何故か。人間と時間、生活と時間について考える。生活時間調査から考える生活の課題についてディスカッションをおこなう。</li> </ul>	配布されたプリントに生活時間調査をおこなってくる。講義内容を復習する。 60
12	家庭経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・家庭経済と経済社会、家庭経済に影響を及ぼす経済動向について理解を深める。</li> </ul>	経済に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をすること。 60
13	家計の構成・家計簿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・生活経営と家計、家計の構造（収入・支出・貯蓄）、家計の個別化について理解する。ライフステージに合わせて家計の課題も変わっていくことを理解する、</li> </ul>	総務省『家計調査』データの資料を基に、家計の変化について考えておくこと。講義内容の復習をする。 60
14	消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・現代の消費生活や消費問題に理解を深める。</li> <li>・経済の高度成長と大量消費生活、「消費者」の登場と消費者保護、消費のサービス化と情報革命等について学び、生活者としてよりよい生活の在り方を考える。消費者を取り巻く問題を取り上げ（新聞記事等）、ディスカッションをおこなう。</li> </ul>	消費生活に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をする。 60
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの発表。</li> <li>・講義内容の総括</li> </ul>	講義内容をまとめ、定期試験に備える。 60

<b>科目名</b>	消費生活論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建 築デザインコース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	長谷川 貴弘		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。 また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。 なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。 ○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。		
<b>達成目標</b>	1. 消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。 2. 日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。 3. 政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。		
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科生活総合コース、建築デザインコース 3年生	<b>成績評価 方法</b>	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（消費者問題に関するレポート）70点
<b>教科書</b>	プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他		
<b>学生への要望</b>	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。 ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。 ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）し、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者の権利と責任	消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	自立した消費者を目指して ①契約とは	契約の意味、未成年者契約、契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	自立した消費者を目指して ②経済	消費者契約法・特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して ③食	食品の安全・安心、新しい食品表示制度について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して ④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60
9	消費生活と環境～循環型社会のための法制度	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30
10	企業による消費者問題への対応	お客様相談室の役割について、いくつかの実例をもとに学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30
11	行政による消費者問題への対応	消費生活センターと消費者トラブルの現状と課題について学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30
12	消費者教育・啓発活動①	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用してまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	消費者教育・啓発活動②	学校・地域においてどのような消費者教育が行われているか学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、問題にチャレンジする。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。

<b>科目名</b>	社会調査法		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	長谷川 貴弘			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	<p>社会調査というもの何の目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。</p> <p>なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。</p> <p>○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。</p>			
<b>達成目標</b>	社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。			
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 3年生 短期大学部 専攻科 1年生	<b>成績評価 方法</b>	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
<b>教科書</b>	プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
<b>学生への要望</b>	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
14	調査報告とデータの管理	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

<b>科目名</b>	保育学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	岡本 宏二			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探究する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。  ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。  ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探究する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。  ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。  ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
<b>受講資格</b>	教職（中学・家庭科）履修者及び上記対象学生。	<b>成績評価 方法</b>	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。	
<b>教科書</b>	指定なし。授業毎に資料配布。			
<b>参考書</b>	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名			
<b>学生への要望</b>	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。			
<b>オフィスタイム</b>	授業開始前：教室 授業終了後			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。		0
2	保育を考える	1) 未熟な状態で生まれるヒト ※保育の必要性を他の動物の生誕と比較して考える。		0
3	保育を考える	1) 文化の中の人間 ※ヒトは文化的環境の中で成長していくことを野生児の事例から学ぶ。		0
4	子どもの発達①	1) 母体の健康管理と子どもの誕生 2) 乳幼児の生理機能 ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。 3) 子どもの心身の発育・発達 ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。		0
5	子どもの発達②	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割 ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。 3) 子どもの言語・知能の発達 ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。		0
6	子どもの発達③	1) 子どもの運動について ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことにより引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。 2) 子どもの睡眠と成長について ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、休養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について学ぶ。		0
7	子どもの発達④	1) 子どもの発達課題の理解 ※子どもの発達を理解し、同時に発達に伴う課題について学ぶ。		0
8	子どものこころとからだについて①	1) 子どもの病気と対処法 ※子どもの主な病気と、家庭における子どもの症状に対する対処法を学ぶ。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	子どものころをからだについて②	1) 子どもを取り巻く環境について ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。 2) 保育体験学習の事前指導。 ※子どもを観察して、子どもについて身近に考えて見ましょう。	0
10	保育体験学習	1) 「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。	0
11	日本の幼稚園の始まり	東京女子師範学校付属幼稚園について知る。	0
12	日本の保育の始まり	倉橋惣三の保育論を学ぶ。	0
13	保育所の始まり	子守学校について知る。	0
14	子どもとのかかわり	1) 子どもの遊びについて ※子どもの遊びを通して、発達にあわせた遊びとはどのようなものか考えていく。1) 子どものタイプと対応方法について ※近年研究が進められている子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。1) 保育実習 ※保育体験学習を通して、子どもについて理解を深める。	0
15	子育て支援と様々なタイプについて、保育学のまとめ	1) 児童福祉について 2) 子育て支援について ※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。 3) これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。	0

<b>科目名</b>	保育学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	岡本 宏二			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探究する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探究する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
<b>受講資格</b>	教職（中学・家庭科）履修者。	<b>成績評価 方法</b>	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。	
<b>教科書</b>	指定なし。授業毎に資料配布。			
<b>参考書</b>	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名			
<b>学生への要望</b>	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。			
<b>オフィスタイム</b>	授業開始前：教室 授業終了後			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。	0
2	保育を学ぶ	1) 保育とは何か ※保育を学ぶ意義や必要性について理解し、自分の子ども時代を振り返りながら人間の発達について考えていく。	0
3	子どもの発達①	1) 母体の健康管理と子どもの誕生 2) 乳幼児の生理機能 ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。	0
4	子どもの発達②	1) 子どもの心身の発育・発達 ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。	0
5	子どもの発達③	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割 ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。	0
6	子どもの発達④	1) 子どもの言語・知能の発達 ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。	0
7	子どもの心とからだについて①	1) 子どもを取り巻く環境について ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	子どもの心とからだについて②	1) 子どもの睡眠と成長について ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、 休養面からアプローチして考えていく。とくに、近年 の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、ま た、対策などについて学習する。睡眠の必要性につ て、研究事例を取り上げて解説する。		0
9	子どもの心とからだについて③	1) 子どもの食事摂取について ※子どもの成長に合わせて必要とされる栄養について 献立から考えていく。		0
10	子どもの心とからだについて④	1) 子どもの運動について ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故に より戸外で活動が制限されたことによって引き起こさ れた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動につ いて考えていく。		0
11	子どもとのふれあい	「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深 める。		0
12	子どものあそび	1) 子どもの遊びについて ※子どもの遊びを通して、有効的な遊具の制作体験を する。		0
13	様々なタイプについて	1) 子どものタイプと対応方法について ※近年研究が進められている、子どものタイプにつ いて理解を深め、対応方法などを検討する。		0
14	子育て支援	1) 児童福祉について 2) 子育て支援について ※近年の日本の実態や今後の課題について考えてい く。		0
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。		0

<b>科目名</b>	海外生活実習	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	諸外国を訪問して様々な文化に触れるとともに、衣・食・住・福祉・経営・情報などの生活に関わる施設や研修先を訪れ、見聞を広げる。事前研修において、各自与えられた内容を調べ発表しながら、渡航地の歴史、文化、について学びを深める。		
<b>達成目標</b>	諸外国を訪問し、訪問国の文化の理解を深めることを目的とする。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科 3年生	<b>成績評価 方法</b>	①訪問前調査20% ②訪問時の観察・交流・行動50% ③レポート30%
<b>教科書</b>	なし		
<b>参考書</b>	関係資料の配布		
<b>学生への要望</b>	訪問国や訪問先について調べ、疑問点を明らかにしておくこと。 また、訪問国の生活や文化について調べておくこと。		
<b>オフィスタイム</b>	被服学研究室 前期：火曜日Ⅰ、Ⅱコマ、水曜日Ⅳコマ 後期：水曜日Ⅳコマ 金曜日Ⅲコマ		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	海外生活実習の目的および訪問時期の説明を行う。 またこれまでの海外生活実習の訪問国を提示する。	シラバスを確認する	30
2	オリエンテーション	海外生活実習の訪問国や訪問地域の候補を提示する。 また視察先の例を示し、これまでの実習先での様子を学ぶ。	希望渡航地を確認する。受講生による 担当分野の発表用PP作成	30
3	手続き方法	旅行会社による積立や手続き方法の説明会を実施する。 また海外生活実習を行うための予備調査として参加希望調査・訪問希望地域調査を行う。	発表用PP作成	30
4	訪問国の選定	訪問希望調査結果を提示する。 初回の調査で訪問希望地域が多岐にわたっている場合には、初回の希望調査結果の上位2か国ないしは3か国に限定した希望調査を行う。	発表用PP作成	30
5	事前学習	旅行会社による説明会を実施する。 訪問予定国の気候・文化・政治などを学び、訪問予定国に関する理解を深める。	発表者の内容をまとめる	30
6	渡航の意義	渡航に向けての手続きに関する説明会を行い、訪問日程などを確認する。 ビザやパスポートの役割などを理解し、その意味と重要性を認識することとする。 また電圧などが国ごとに違うことを理解し、国ごとに違いがあることを理解する。	発表者の内容をまとめる	30
7	訪問国の理解 1	渡航直前の説明会を行う。 国際的にどのような問題が発生しているか国際状況を理解する。また訪問地域と日本の文化・気候等の違いを再度確認する。これらの確認により、日本が世界の中でどのように位置づけられているか理解を図る。	事前学習内容をノートにまとめる	60
8	訪問国の理解 2	渡航に際し、これまでの説明会や訪問国・訪問先について調べたことから生じ疑問をまとめる。また出国時と入国時における手続きの違いや為替などについて学ぶ。	事前学習内容をノートにまとめる	60
9	海外生活実習 1	車窓から町並み等を観察することで、建築物や道路などの施設の違いを確認する。とくに日本の建造物と訪問国の建造物の差に注意を払い確認をする。	研修地レポート作成	60
10	海外実習 2	宿泊ホテル周辺を散策しスーパーマーケットなどで買い物をしてみることで、販売されているもの、購入方法、通貨の違いを理解する。訪問国の生活について実体験を通して学ぶこととする。	研修地レポート作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	海外実習 3	食文化の違いを理解するため、訪問国のマーケットを訪れ特産品や販売方法を確認する。日本の食文化と比較することで、国ごとに特色があることを学ぶ。また販売されている衣料品を観察し、日本との販売方法の違いや商品の違いが何か学ぶ。	研修地レポート作成 60
12	海外実習 4	福祉施設を訪問し、施設の状況や施設周囲の環境がどのようなものか学ぶ。また施設の職員から制度や問題点について説明を受けて日本との制度の違いを学び、日本での改善を行うための一助とする。	研修地レポート作成 60
13	海外実習 5	宗教と関わる施設（寺院など）を訪れ、建築物としての機能性を確認する。またこれらの建造物を通して、宗教が文化や習慣及ぼす影響を確認する。	研修地レポート作成 60
14	海外実習まとめ 1	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。	報告会PP作成と提出用ノート作成 180
15	海外実習まとめ 2	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。	研修のまとめと報告書作成 120

<b>科目名</b>	衣生活概論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	武井 玲子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、衣生活に関わる諸問題への対処が可能となる。また、企業における企画開発や研究開発部門での勤務経験を活かして、被服の汚れや洗浄、家庭用品の安全性の考え方、などの講義を行う。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
<b>達成目標</b>	1. 被服の持つ機能・役割について理解できた。 2. 繊維の種類と特徴を理解できた。 3. 被服着用時における安全性上のリスクについて理解できた。		
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
<b>教科書</b>	配布資料		
<b>参考書</b>	「衣生活論」、小林茂雄他、(株)アイ・ケイ・コーポレーション(2008)他、(N02被服学研究室所蔵図書)		
<b>学生への要望</b>	自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。授業を受けるにあたっては、身近な毎日の衣生活に関心を持つことが大切であること、そうすることで、講義内容の理解が深まること、などを解説する。	30
2	被服着用の目的と機能	主要な被服着用目的は、①生理的・物理的目的、②美的・心理的目的、③社会的目的、である。これらの被服着用品目的と具体的な被服の着用事例とを結び付けて理解を深める。	30
3	衣生活実態調査の実施	各自の衣生活実態調査の課題を課すにあたり、調査目的と実施方法の説明を行う。調査は、①所有被服枚数、②死蔵被服枚数(1年間着用しなかった被服)、③保管状況、④衣生活実態についての自己評価点とその理由、の各項目について実施する。実態調査をするにあたり、被服の保管の目的や方法を説明する。	120
4	実態調査結果の報告と問題点・課題の抽出	各自の衣生活実態調査結果を発表すると共に、他の学生の調査結果を聞き、各自の実態とを比較しながら、自分自身の問題点と課題を考える。	60
5	衣生活(被服)と環境(1)	死蔵被服を減少するという課題解決のために、被服と環境との関わりについて、ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方から考察する。繊維、布や被服の製造と流通、生活者の被服購入、着用、手入れ・洗濯、保管、廃棄・リサイクルという被服のライフサイクル全体における環境との関わり(資源、エネルギーの消費と炭酸ガス他廃棄物排出)について学び、現在の自分の衣生活について考察し、環境負荷低減に向けた衣生活のあり方をまとめる。	60
6	衣生活(被服)と環境(2)	前回の授業内容を更に実生活に即して学ぶ。死蔵衣服や繊維原料の資源問題、廃棄とリサイクルなどの現状を考えながら、環境負荷低減を目指した衣生活行動を、5R(Reduce, Recycle, Reuse, Remake, Repair)の視点から考察し、具体的な実践行動を抽出する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	被服の生理的・物理的機能	人体生理、被服内気候、被服圧などから被服の快適性の意味を理解する。恒温動物の人間がどのような生理機能で恒温を保つか、そこにおける被服の役割を認識する。さらに、人体の形状と運動変形における動き易い被服の条件、被服圧について理解する。また、高齢者や乳幼児、身障者の被服、スポーツ・労働用・農業・消防用、などの機能服の被服要件を学ぶ。	配布資料を参考にしながら、本日の講義内容についてまとめる。
8	被服着用と安全性	被服は第二の皮膚といわれるように皮膚と直接接触するために、皮膚刺激やアレルギー等の皮膚障害上の安全性問題が存在する。さらに、被服の人体に対する安全性としては、静電気障害・燃焼障害やヒモ等の付属品による事故発生のリスクがあり、これらの発生原因とその対策を学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
9	被服の心理的・社会的機能	被服の心理的機能には、美しく装いたい、流行の服を着たいという装身の機能が考えられる。一方、社会的機能としては服装のシンボルとしての象徴性や風俗・習慣・道徳などの社会的規範による容儀の機能が存在する。それぞれについて意味を知り、被服着用目的を再確認する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
10	被服の素材の種類と特徴	被服を構成する素材（繊維、糸、布）の種類と機能や特徴を学ぶ。実際に映像を見たり、布サンプルを手にとりながら理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。自分の所蔵衣服の素材について調査する。
11	被服の製造・流通・購入（市場調査）	被服・繊維の製造・流通の歴史を学び、現状を把握し問題点を考察する。特に、現在の様々な流通経路を通じての被服購入のメリットやデメリットを明らかにする。さらに、市場調査を実施し、被服に付けられている標示のわかりやすさや見やすさなどを生活者視点で評価し、問題点や課題を抽出する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。市場調査結果についてまとめ、レポートを作成する。
12	被服の着用による汚れ付着	被服着用による被服に付着する汚れの種類や付着状態、汚れの身体や被服への影響を学ぶ。また、汚れたままにしておいた場合のニオイ発生メカニズムを学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
13	汚れ除去メカニズム	被服に付着した汚れの除去方法として、現在実施されている家庭洗濯とドライクリーニング洗濯の違いを学ぶ。より理解を深めるために実験、映像を用いる。期末レポートの課題を提示する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。期末レポート対応。
14	汚れ除去と被服の快適性を付与する剤の種類と特徴（市場調査）	現在市販されている洗剤類、繊維・布・被服の機能を回復し快適性を付与する柔軟剤、糊剤、漂白剤などの種類と特徴、効果的な使い方を知る。また、市場調査で店頭に並べられている洗剤類を見ながら、理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、自宅の洗濯機や使用洗剤・関連品について実態を把握する。期末レポート対応。
15	総括	ヒト（生活者）とモノ（被服）、それを取り巻く環境との関係から健康・快適、安全・安心、環境負荷低減型衣生活をデザインするための要点をまとめ、望ましい衣生活のあり方をまとめる。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、自分自身の望ましい衣生活のあり方を考え、実践していく。

<b>科目名</b>	被服管理学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	武井 玲子		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。また、企業における企画・研究開発部門の勤務経験を活かし、被服管理の要件(汚れと洗浄や保管方法、など)や人体・環境安全性に関して講義する。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
<b>達成目標</b>	①被服の生産段階における日本と世界の現状を理解する。 ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ③被服の保管時の問題点を理解している。		
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
<b>教科書</b>	配布プリント		
<b>参考書</b>	「被服整理学」(社)日本衣料管理協会(平成20年)、「衣服管理の科学」片山倫子編(建帛社、平成14年)、N02被服学研究室の所蔵図書		
<b>学生への要望</b>	日常の衣生活を問題意識をもってみつめること。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	繊維・被服の生産・流通	世界的にみた繊維の生産状況を知る。ファストファッションの生産、流通の現状を把握し、考察する。ファストファッションの製造国での状況を映像で確認する。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
3	被服の選択と購入	被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。前回のファストファッションに続き、ベトナムモン族の民族衣装や日本のゆかたの着装を映像で見ることにより、スローファッションのメリット・デメリットを考える。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自分自身の被服購入方法と失敗経験などについてまとめ、次回の講義に備える。	30
4	購入方法に関する事例研究	各個人の被服購入経験の失敗事例を発表する。これらの失敗事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。衣料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利、消費者苦情の重要性を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
5	着用と汚れ	着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶ。また、汚れの人体と繊維に及ぼす影響を考える。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
6	着用とニオイ	汚れがどのようにニオイに変化するのかその発生原因を学ぶ。ニオイと香りの科学を学び、最近の香りフームやスメルハラメント等の問題点と課題に関して議論し理解する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。さらに、自分や家庭の中のニオイについて考えてみる。	60
7	被服の色と変化、色の基本とカラーユニバーサルデザイン	染色の歴史と科学を学ぶ。被服の色は、着用や洗濯、保管時において色落ち、色移り、色泣きなどの変退色の変化が見られる。そのメカニズムを把握し、防止・予防方法を確認する。また、色の基本やカラーユニバーサルデザインについても理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
8	日本の染織文化(映像)	前回の講義内容をより理解し深めるために、日本の染織文化に関する映像を鑑賞し、感想を発表する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
9	被服の手入れ 家庭洗濯とドライクリーニング	家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の被服の手入れ実態について調査する。	30
10	洗剤の科学	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史的変遷を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅に保管されている洗剤など被服の手入れに関する家庭用品について調査する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
11	仕上げ剤の種類と特徴	洗濯後、繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている。代表的なものは漂白剤、柔軟剤、糊剤等である。これらの製品の成分、種類、使用方法を実物を手にしながら学ぶ。 ①漂白剤：種類と特徴、漂白のメカニズム、使用方法、蛍光増白との違い、しみぬきの原理と方法 ②柔軟剤：種類と特徴、効果・機能（柔軟効果、静電気防止、香りなど）の変化、使用方法 ③洗濯糊：種類と特徴、使用方法	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
12	被服の保管 (市場調査)	保管の目的、保管中の衣料の性能変化の原因、防虫・防かび、抗菌のための保管用具、防虫剤、乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。さらに、市場調査により理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の市場調査結果についてまとめ、次回発表用とする。	60
13		日常使用しているタオルの望ましい管理について学ぶ。 タオルの製造と種類、購入時の注意点、使用時の問題点、手入れと洗濯、保管の項目について各自が調査をして結果を発表する。タオルの望ましい管理についてまとめる。期末レポートの課題を提示する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自宅に保管されているタオルについて調査し、その種類や問題点・課題や抽出する。期末レポート対応。	120
14	被服管理の事例研究(2)	市場調査結果について報告する。履物の望ましい管理について学ぶ。履物が足に合わないための外反母趾などの足の被害状況、履物の購入時の問題点や課題、着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し、望ましい履物管理についてまとめる。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の履物をチェックし、問題点を抽出する。期末レポート対応。	120
15	総括・まとめ	本講義のまとめを行う。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30

<b>科目名</b>	衣造形学演習	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 快適な衣生活を創造し実践できるよう生活空間の中での衣生活を見つめていく。また、実習制作を通しより良い衣生活の創成をするために必要なものは何か考えていく。特に、本時では平面構成（和裁）とは何かという基本理念にふれながら、実習を通してその衣服の機能や形態を考察し、現在ほとんど着用されなくなった和服の存在について理解を深める。更に、これからの衣生活を構築する人材の育成を計るため、確実な技術の修得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 和服の基本理念にふれながら、和裁技法を取り入れた基礎縫い制作及び大裁女物単衣長着（浴衣）の制作を行う。実習を通して和服について理解を深め、確実な技術の修得を目指す。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>①生活の中の衣生活が果たす大きな役割を理解することができたか。 ②平面構成（和服）とは何かを理解することができたか。 ③和服の機能や形態を理解して制作し、その技術を修得することができたか。</p>		
<b>受講資格</b>	教職（家庭科）履修学生及び上記対象学生。	<b>成績評価 方法</b>	①授業に取り組む姿勢20点 ②途中課題（基礎縫い、袖）20点 ③完成作品（基礎縫い、浴衣）30点 ④課題（レポート、テスト）30点 ①から④の総合評価60点以上で合格となる。
<b>教科書</b>	被服構成実習（平面構成）担当者作成資料の配布。		
<b>参考書</b>	授業内で随時紹介。		
<b>学生への要望</b>	1. 遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え完成できるように心掛けること。		
<b>オフィスタイム</b>	火（Ⅰ、Ⅱコマ）、水（Ⅳコマ）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	演習内容と留意事項	1) 生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。 2) 本時、平面構成（和服）について 3) 実習計画の提示 4) 必要材料・用具について説明 5) 平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ	30
2	演習内容と留意事項	1) 生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。平面構成について理解を深めるために、グループで話し合いながら作るこの意味を理解する。 2) 本時、平面構成（和服）について 3) 実習計画の提示 4) 必要材料・用具について説明 5) 平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ	30
3	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、運針の仕方及び縫い方の実習。 b、くけ方。 ※針のもち方、縫い方の基本を修得する。	30
4	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、運針の仕方及び縫い方の実習。 b、くけ方。 ※針のもち方、縫い方の基本を修得する。	30
5	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、しつけのかけ方。 b、糸のとめ方、つぎ方など基本的な技法を学ぶ。	30
6	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、しつけのかけ方。 b、糸のとめ方、つぎ方など基本的な技法を学ぶ。	30
7	大裁女物単衣長着製作	1) 沿革 2) 各部名称及び寸法について 3) 仕立て上がり寸法の決め方 4) 材料・用尺について 5) 裁つ前の準備 ※日本の民族衣装である着物について、お互いに話しあいながら理解を深められるようグループワークを実施する。	30
8	大裁女物単衣長着製作	1) 沿革 2) 各部名称及び寸法について 3) 仕立て上がり寸法の決め方 4) 材料・用尺について 5) 裁つ前の準備 ※日本の民族衣装である着物について、理解を深め伝えていける人材の育成を目指す。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
9	大裁女物単衣長着裁断	1) 裁ち方(柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。) a、糸じるし、キズや染むらの確認。b、裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖4枚、身頃4枚、裁ち切り衿2枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受け裁断。※一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。	裁ち方をプリントで事前確認し、イメージをつかむ。	30
10	大裁女物単衣長着裁断	1) 裁ち方(柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。) a、糸じるし、キズや染むらの確認。b、裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖4枚、身頃4枚、裁ち切り衿2枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受け裁断。※一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。	裁ち方をプリントで事前確認し、イメージをつかむ。	30
11	製作(背縫い、袖)	1) 身頃背縫い 柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。 2) 袖の柄合わせ 背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ(アイロン)を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。 ※着物の柄あわせ方法を学び、美しい着物の制作を目指す。	縫い方の名称を確認する。授業後は、縫い方を再確認する。	30
12	製作(背縫い、袖)	1) 身頃背縫い 柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。 2) 袖の柄合わせ 背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ(アイロン)を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。 ※着物の柄あわせ方法を学び、美しい着物の制作を目指す。	縫い方の名称を確認する。授業後は、縫い方を再確認する。	30
13	製作(袖完成及び提出)	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方(同じ袖を作らないよう注意)。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。授業後は、縫い方を再確認する。	30
14	製作(袖完成及び提出)	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方(同じ袖を作らないよう注意)。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。授業後は、縫い方を再確認する。	30
15	製作(身頃印付け、肩当て、居数当て)	1) 身頃の内揚げ 和服独自の仕立て方法を学ぶ。(内揚げとくりこしとは。) 2) 身頃の印つけ 身丈、肩幅、袖付け、身八ツ、後ろ幅の印をつけ、揚げ、襟肩明きの構成を学ぶ。 3) 肩当て、居数当作り 折り伏せ縫い方法を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
16	製作(身頃印付け、肩当て、居数当て)	1) 身頃の内揚げ 和服独自の仕立て方法を学ぶ。(内揚げとくりこしとは。) 2) 身頃の印つけ 身丈、肩幅、袖付け、身八ツ、後ろ幅の印をつけ、揚げ、襟肩明きの構成を学ぶ。 3) 肩当て、居数当作り 折り伏せ縫い方法を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
17	製作(衿印つけ及びつけ)	1) 肩当て、居数当て付け 肩当て、居数当てを付ける意味を学ぶ。 2) 衿作り 衿の柄合わせをし、上前、下前を決め躰けをかけ、襟下を三つ折りぐけする。 ※前身頃と衿の柄あわせ方法をしっかりと身につける。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
18	製作（衿印つけ及びつけ）	1) 肩当て、居敷当て付け 肩当て、居敷当てを付ける意味を学ぶ。 2) 衿作り 衿の柄合わせをし、上前、下前を決め襷掛けをかけ、襟下を三つ折りぐけする。 ※前身頃と衿の柄合わせ方法をしっかりと身につける。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
19	製作（衿始末・襟付け準備）	1) 衿つけ、衿の始末をし、衿製作を学ぶ。 2) 衿つけの準備 a、上前の柄合わせをして、共衿と衿のしるしをつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
20	製作（衿始末・襟付け準備）	1) 衿つけ、衿の始末をし、衿製作を学ぶ。 2) 衿つけの準備 a、上前の柄合わせをして、共衿と衿のしるしをつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
21	製作（襟の印付け及びつけ）	1) 襟つけ a、襟つけのつけ方を理解し、まち針の打ち方を学ぶ。まち針の打ち方、つり合いを教員に確認後製作。 2) 襟の整え a、三つ襟芯を入れる（三つ襟芯を入れる意味を知る）	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
22	製作（襟の印付け及びつけ）	1) 襟つけ a、襟つけのつけ方を理解し、まち針の打ち方を学ぶ。まち針の打ち方、つり合いを教員に確認後製作。 2) 襟の整え a、三つ襟芯を入れる（三つ襟芯を入れる意味を知る）	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
23	製作（襟の整え、脇縫い）	1) 襟先整え（襟先留めを学ぶ） a、左右襟先の整え b、襟寸法を整え本ぐけ技法を用いて襟を留める。 2) 脇縫い a、脇縫いの後、脇の始末をする。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
24	製作（襟の整え、脇縫い）	1) 襟先整え（襟先留めを学ぶ） a、左右襟先の整え b、襟寸法を整え本ぐけ技法を用いて襟を留める。 2) 脇縫い a、脇縫いの後、脇の始末をする。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
25	製作（脇始末）	1) 脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
26	製作（脇始末）	1) 脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
27	製作（裾作り、袖付け）	1) 裾の始末 a、裾を整え三つ折りぐけ。 b、裾のつま先角の作り方。 2) 袖つけ a、左右の袖確認後つける。 b、袖の縫い代と肩当ての始末。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
28	製作（裾作り、袖付け）	1) 裾の始末 a、裾を整え三つ折りぐけ。 b、裾のつま先角の作り方。 2) 袖つけ a、左右の袖確認後つける。 b、袖の縫い代と肩当ての始末。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
29	着装実習及び評価	1) 着装実習 着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。お互いに着付けすることを通して、美しい装いについて考える。また、和服の成り立ちの意味を発表する。 2) 評価 a、仕上げ。 b、畳み方を学ぶ。 c、寸法確認後レポートを作成する。 ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。	着装方法を事前に確認する。着装実習後、1人で着用が可能になるように練習する。	30
30	着装実習及び評価	1) 着装実習 着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。 2) 評価 a、仕上げ。 b、畳み方を学ぶ。 c、寸法確認後レポートを作成する。 ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。	着装方法を事前に確認する。着装実習後、1人で着用が可能になるように練習する。	30

<b>科目名</b>	衣造形学演習	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 立体構成（洋裁）学を基に、平面裁断と立体裁断における裁断方法の違いを学び、作品完成の違いについての理解を深める。また、文化式原型、新文化式原型の製図方法を習得することにより、体型変化を理解し、機能にあった快適な着心地の良い作品作り、及び生活空間における衣の重要性を学ぶ。介護福祉士として快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成対策として、立体構成の基本知識を深め、応用能力、多くの技術修得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 立体構成と平面構成の違いを理解する。人体の理解を深め、製図方法を学ぶ。ブラウス・女兒服の製作を通し技術の修得及び、快適な衣生活を創造提案できるようにする。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>①立体構成（洋裁）とは何かを理解できたか。 ②体の機能や形態を理解できたか。 ③立体構成（洋裁）技術の修得から、衣生活の新たな提案が可能となったか。</p>		
<b>受講資格</b>	上記対象学生及び教職履修、介護福祉士履修学生は必修	<b>成績評価 方法</b>	①授業への取り組みなど 20点 ②途中課題（袖、衿）20点 ③完成作品（ブラウス、女兒服、刺繍）30点 ④課題（レポートやまめテストなど）30点 ①～④の総合評価60点以上で合格となる。
<b>教科書</b>	『立体構成（洋裁）』など随時プリント配布。		
<b>参考書</b>	『文化ファッション大系2』文化服装学院、他授業内で随時提示。		
<b>学生への要望</b>	1. 遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え、完了できるように心掛けること。		
<b>オフィスタイム</b>	月（Ⅲコマ）、木（Ⅱ、Ⅲコマ）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	実習内容と留意事項について	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する 15
2	実習内容と留意事項について	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する 15
3	原型製図—文化式、新文化式—	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）	採寸方法について事前に調べる。 20
4	原型製図—文化式、新文化式—	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）	採寸方法について事前に調べる。 20
5	旧文化式原型	1) 旧文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ	原型とは何か調べノードに記入する 20
6	旧文化式原型	1) 旧文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ	原型とは何か調べノードに記入する 20
7	新文化式原型	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ	新旧文化式原型の違いをノートに記入する 20
8	新文化式原型	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ	新旧文化式原型の違いをノートに記入する 20
9	ブラウスパターン作図	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する 20
10	ブラウスパターン作図	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する 20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ	20
12	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ	20
13	ブラウス製作②ー仮縫いー	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 躰系について b. ぐし縫いについて※仮縫いが出来上がりを左右することを実習を通して学ぶ。	20
14	ブラウス製作②ー仮縫いー	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 躰系について b. ぐし縫いについて※仮縫いが出来上がりを左右することを実習を通して学ぶ。	20
15	ブラウス製作③ー本縫いー	1) 仮縫い後試着しベアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a、仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。b、ロックミシン c、端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り（袖、衿に名札を付けて提出）	20
16	ブラウス製作③ー本縫いー	1) 仮縫い後試着しベアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a、仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。b、ロックミシン c、端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り（袖、衿に名札を付けて提出）	20
17	ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、躰のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ	20
18	ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、躰のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ	20
19	ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタンー	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。	20
20	ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタンー	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。	20
21	ブラウス製作⑥ー相互評価ー	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出	20
22	ブラウス製作⑥ー相互評価ー	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
23	刺繍を学ぶ	1) 刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍系の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりがイメージが変化することを学ぶ。	刺繍の活用を調べるノートに整理する 20
24	刺繍を学ぶ	1) 刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍系の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりがイメージが変化することを学ぶ。	刺繍の活用を調べるノートに整理する 20
25	刺繍を学ぶ	1) 刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、技法について※ 装飾方法や装飾場所により出来上がりがイメージが変化することを学ぶ。	刺繍以外の装飾方法を調べてノートに整理する 20
26	刺繍を学ぶ	1) 刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、技法について※ 装飾方法や装飾場所により出来上がりがイメージが変化することを学ぶ。	刺繍以外の装飾方法を調べてノートに整理する 20
27	刺繍を学ぶ	1) 刺繍、装飾の方法を学ぶ a、始末方法を学ぶ※ 成形の方法を学ぶ。	形の整え方を調べ、ノートに整理する 20
28	刺繍を学ぶ	1) 刺繍、装飾の方法を学ぶ a、始末方法を学ぶ※ 成形の方法を学ぶ。	形の整え方を調べ、ノートに整理する 20
29	総合評価	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	快適な衣生活とはどのようなことか、ノートにまとめる 30
30	総合評価	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	快適な衣生活とはどのようなことか、ノートにまとめる 30

<b>科目名</b>	食生活概論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	鍛野 信子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	望ましい食生活とは、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などの複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って、「健康」かつ「安全」で「満足」できるような食生活の質の向上を構築することが重要である。本授業では「食」に関わる周辺を包括して学ぶ。			
<b>達成目標</b>	<p>「食生活」の重要性を認識するとともに、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につけること、および、【履修カルテの評価項目】を達成することを目標とする。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。          ②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。          ③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 1年	<b>成績評価 方法</b>	①ノートまとめ20% ②課題30% ③期末試験50%	
<b>教科書</b>	①指定の資料を各自コピーして持参する。 ②指示したホームページをダウンロードして、各自印刷して持参する。			
<b>参考書</b>	①必要に応じて、授業内で案内する。			
<b>学生への要望</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。</li> <li>各省庁のホームページを検索する場合があります。パソコンを持参してください。</li> <li>ノートをしっかりとして下さい。</li> <li>体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。</li> <li>食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。</li> </ol>			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日3時限および木曜日3時限目のNo.1食品学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	授業の目的	「食生活概論」は、「食」に関わる周辺や、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことが目的であることを理解する。併せて、授業の導入として、食品の定義について説明し、「食品」とは何かを理解する。	30
2	消費者庁と食品表示の目的	食品表示は、食品の履歴書・保証書であることから、「食品表示」の情報を正確に読み取ることが安心・安全な食品を選択するために重要である。ここでは食品表示は消費者庁が一元化して掌握していることを理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	60
3	JAS法に基づく食品表示関係の制度	JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	60
4	食品衛生法による食品表示	食品衛生法による食品表示の法体系と表示内容、および食物アレルギーの表示制度について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	60
5	健康増進法による食品表示	特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	60
6	食の安全について	食の安全性の考え方について説明し、食品の安全確保には、食品の加工および保存技術の発展が重要であること、および、食の安全については客観的な判断が必要であることを理解する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	おいしさの基本理念	「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、価格や商品名などの情報は、心理的においしさに影響を及ぼすことについて学習し、理解する。	60
8	食嗜好の形成	食物の認知や好き嫌いは、脳の第2次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。	60
9	食生活と健康	我が国において、食生活と健康維持・管理に係る取り組みとして2013年度から開始している「第4次国民健康づくり対策：健康日本21（第2次）」について解説し、生活の質の向上と社会環境の質の向上について理解する。	60
10	日本人の食事摂取基準（2015）	日本人の食事摂取基準は、健康な個人並びに集団を対象として、国民の健康の保持・増進、生活習慣病の予防のために2015年4月より実施する「日本人の食事摂取基準（2015）」について、その概要と改正のポイントについて理解する。	60
11	食料と環境問題	「快適な環境」、「魅力ある環境」を目指すために、フード・マイルージの低減、食料自給率、地産地消、食べ残しや食品廃棄の低減への取り組み方について理解する。	60
12	照射食品の安全性とその利用	我が国では、ジャガイモの芽止めのみ、放射線照射が許可されている。放射線照射食品との関連から、放射性物質による食品への移行と健康への影響について考え方を理解する。	60
13	食空間の基礎	食空間は、人間・時間・空間の3要素を相互作用させて創造しなければならない。色は食空間のイメージを決定づけたたり、色の持つ力を意識的に使って料理をおいしく見せたり、食卓を楽しく演出することが出来る。ここでは、色の基本、色と料理のおいしさの関係、色とテーブル・コーディネートについて、理解する。	60
14	店舗、飲食店、キッチンの食空間	食空間は、食物を売るデパート・スーパーマーケット・街の洋菓子店など小売店の売場と、食物を食べる家庭の食卓や飲食店の客席などの食事空間と、調理するキッチンに区別できる。ここでは、いかに分かりやすく楽しく買物できるか、いかに満足し心地よく食事できるか、いかに効率よく環境衛生に即して調理できるかを念頭においた食空間について理解する。	60
15	授業の総括：確認と授業評価	本授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、「アメニティ」と「ホスピタリティ」の精神が、「安全」かつ「健康」で「満足」できるような食生活の質の向上の構築につながることを再確認し、理解する。あわせて、本授業に対し、学生より評価を得る。	60

平成31年度

<b>科目名</b>	食品栄養学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	高橋 徹		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	この講義では、健康な生活を送るために重要な栄養学の基礎を学ぶ。 ヒトが身体を維持して生命活動を営んで行くために必要とする栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）が、どのような役割を果たしているかを理解するため、各栄養素の消化・吸収、代謝（体内での分解や合成）とその調節機構について学ぶ。		
<b>達成目標</b>	生活の中で必要な栄養学の考え方を養う。		
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 選択	<b>成績評価 方法</b>	レポート（60%）、出席および授業態度（40%）の総合評価
<b>教科書</b>	なし		
<b>参考書</b>	知っておきたい！ 栄養の基本がわかる本（発行：一般社団法人栄養検定協会）		
<b>学生への要望</b>	食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。		
<b>オフィスタイトム</b>	火曜日のIII限および月曜IV限、その他適宜対応します。 No.1栄養学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	栄養の概念	栄養の定義、栄養素の種類と働き、栄養学の歴史	講義内容の振り返り 60
2	エネルギーについて	エネルギーの定義、ヒトのエネルギー、エネルギーとATP	講義内容の振り返り 60
3	エネルギーと栄養素	エネルギーと栄養素の関係	講義内容の振り返り 60
4	体の大きさとエネルギー	体の大きさと維持エネルギーの関係、食べ物の質と体の大きさの関係	講義内容の振り返り 60
5	糖質の栄養	エネルギーと糖	講義内容の振り返り 60
6	たんぱく質の栄養	たんぱく質とアミノ酸、食後・食間のたんぱく質・アミノ酸の代謝、アミノ酸の代謝	講義内容の振り返り 60
7	脂質の栄養	脂質の種類、脂肪酸の種類、脂肪酸の代謝経路	講義内容の振り返り 60
8	消化・吸収と血糖値	消化・吸収の機序、食後血糖の調節	講義内容の振り返り 60
9	消化・吸収が悪い食べ物	食物繊維の機能性、消化・吸収が悪い食べ物の機能性	講義内容の振り返り 60
10	水とタンパク質	カンガルーネズミ、イルカ、ラクダの水代謝	講義内容の振り返り 60
11	コレステロールに対する考え方の変遷	コレステロールの考え方は時代による変遷、コレステロールで儲ける仕組み	講義内容の振り返り 60
12	消化管の形態と食餌戦略	食べ物の質と消化管形態、体の大きさと消化管形態	講義内容の振り返り 60
13	体の大きさを表す指標	BMIが意味するもの、体型を示す指標、無単位の意味、体型指標の作成方法	講義内容の振り返り 60
14	栄養学の複雑さの表現	グラフ理論、一般線形理論、バックヤード理論	講義内容の振り返り 60
15	まとめ	栄養学についての振り返り、レポート作成	講義内容の振り返り 60

<b>科目名</b>	調理学演習		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	武井 玲子, 大泉 由美			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	調理の基本的な知識と技術を修得するために、高校家庭科教科書で採用されている料理レシピやスローフード視点から選択した世界各国の代表的な料理をグループワークで演習する。15回の演習を通じて、調理学の基本的な知識と技術の修得と共に食材の栄養価や色・形・味などの調理による変化とその理由を五感で理解する。さらに、レポートを作成することにより、演習・実習の観察力と科学的レポート作成の基本を身につけるとともに、自宅での実践で応用力を身につける。 また、企業における企画開発や研究開発部門での勤務経験を活かして、食品容器や食品の安全性、食生活全般の清潔衛生に関する講義を行う。実務経歴：衣食住生活に関連する家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。			
<b>達成目標</b>	中高校の家庭科教師としての指導力や家庭での調理を実践するための基本的な知識や技術を修得することを目標とする。 ①代表的な野菜・果物、魚・肉などの食材に対する調理技術を修得し、指導することができる。 ②代表的な和洋中華料理の基本を修得し、教えることができる。 ③調理上必須となる食品衛生、環境負荷削減の知識を修得し、行動できる。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	①授業態度：30点 ②実技：30点 ③レポート：40点	
<b>教科書</b>	プリント配布			
<b>参考書</b>	No2被服学研究室所蔵図書			
<b>学生への要望</b>	準備から後片付けまでが調理学演習の一環と考え、積極的に取り組むこと。 また、豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日（Ⅱ時限）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ・切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオにて学ぶ。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。	30
2	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ・切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオにて学ぶ。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。	30
3	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方や洗浄方法の基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめ、次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で行う。	60
4	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方や洗浄方法の基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめ、次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。	60
5	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、ブランジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方、米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴	本日の演習内容結果をレポートにまとめ、次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
6	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、フランジエの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類と作り方、米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
7	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、プレーンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーの代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①パイヨンの取り方 ②オムレツの作り方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
8	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、プレーンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーの代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①パイヨンの取り方 ②オムレツの作り方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
9	日本料理 旬の素材であるたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめのみそ汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラの作り方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理用 ②味付け飯の種類と作り方 ③煮干し出しのとり方、みその種類とみそ汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣の作り方と揚げ方 ⑤カステラの作り方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
10	日本料理 旬の素材であるたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめのみそ汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラの作り方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理用 ②味付け飯の種類と作り方 ③煮干し出しのとり方、みその種類とみそ汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣の作り方と揚げ方 ⑤カステラの作り方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
11	中国料理 代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆、ジャスミン茶の代表的な中国料理の作り方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
12	中国料理 代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆、ジャスミン茶の代表的な中国料理の作り方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
13	イタリア料理 代表的なイタリア料理	ペンネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理の作り方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザの作り方 ③デザート(パンナコッタ)の作り方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
14	イタリア料理 代表的なイタリア料理	ペンネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理のつくり方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザのつくり方 ③デザート（パンナコッタ）のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
15	調理理論 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と予防	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
16	調理理論 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と予防	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
17	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルコギ、チャプチェ、キムチチゲ、チャプサルバブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
18	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルコギ、チャプチェ、キムチチゲ、チャプサルバブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
19	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
20	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
21	中国料理 日本で好まれる中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープのつくり方 ④中国の代表的な菓子のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
22	中国料理 日本で好まれる中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープのつくり方 ④中国の代表的な菓子のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
23	日本食 旬のいわしの手開き、同じ素材でおかずとお澄しつくり	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、キュウイ寒のつくり方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と料理方法 ②卵の花の炒り煮のつくり方 ③寒天の使い方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。今回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
24	日本食 旬のいわしの手開き、同じ 素材でおかずとお澄しつく り	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、 キュウイ寒のつくり方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と料理方法 ②卵の花の炒り煮のつくり方 ③寒天の使い方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。
25	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮(ラタトウユ)、手羽中の香り揚げ、 フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピ で夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。次回の自由課題に対して、グループでレシピの作成から食材の買い出しなどの準備を行う。
26	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮(ラタトウユ)、手羽中の香り揚げ、 フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピ で夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。次回の自由課題に対して、グループでレシピの作成から食材の買い出しなどの準備を行う。
27	自由課題(米料理)	米料理をテーマとした夕食献立を実践する。 予算(350円/人)内で献立を作成から材料の購 入、調理までをグループで実施、実践力を身につけ る。	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。
28	自由課題(米料理)	米料理をテーマとした夕食献立を実践する。 予算(350円/人)内で献立を作成から材料の購 入、調理までをグループで実施、実践力を身につけ る。	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。
29	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん(付け合せ:野菜かき揚げ、酒蒸し 鶏、薬味)のつくり方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理 ②野菜の天ぷら(かきあげ)のつくり方 ③和菓子(ずんだ)のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。
30	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん(付け合せ:野菜かき揚げ、酒蒸し 鶏、薬味)のつくり方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理 ②野菜の天ぷら(かきあげ)のつくり方 ③和菓子(ずんだ)のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。

<b>科目名</b>	住生活概論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。			
<b>達成目標</b>	①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。 ②家族と間取りとの関連について考察する。 ③UD住宅の在り方について理解する。 ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科	<b>成績評価 方法</b>	①定期試験 70% ②提出図面 30%	
<b>教科書</b>	豊かな住生活を考える一住居学（彰国社） 小澤紀美子編 小澤紀美子・荒川千恵子・川島平七郎・渡辺彩子著			
<b>参考書</b>	「住宅の計画学入門」鹿島出版会 「ダイニングキッチンはどうして誕生した」技報堂出版			
<b>学生への要望</b>	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。			
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜IV時限（14：30～16：00） 水曜IV時限（14：30～16：00）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明する。また、私たちの住生活をとりにくく問題について考える。	新聞等に目を通し、日頃から住生活における問題に目を向ける。	60
2	住生活と諸問題	多様化する住生活について理解し、様々な住生活の諸問題について考える。	住生活の諸問題を取りあげ、自分の考えをまとめておく。	60
3	住生活と住まいの変遷	日本の風土的特徴を踏まえながら、気候風土と住まいの形態及び地域性と住まいについて確認する。	日本の気候風土、地域性についてまとめる。	60
4	家族と住まいの変遷	現在の住まいの構造や形式は非常に多様であるが、住まいの変遷を辿ると各時代の家族観がその平面構成に反映されていることを確認する。	住まいの変遷と平面構成の変化を確認する。	60
5	高齢者と住環境	高齢者の身体的特徴を踏まえながら、住居内での事故を防止するための手すりや段差解消の方法について学ぶ。また、現代社会における基礎的問題として、介護保険制度について理解し、高齢者の自立促進及び介護者の負担軽減を目的とした居住環境整備について考える。	介護保険制度を踏まえながら、住居内の事故防止のための方策についてまとめる。	60
6	間取りの重要性 1	本来最も安心して過ごすべき住まいが子供の犯罪行為の場となった事例から、住まいにおける子供空間の位置付けについて考察する。	子どもの自立と子ども部屋の関係について調べる。	60
7	間取りの重要性 2	間取り（空間構成）と家族問題とを関連付けながら、心（ワト）と住まい（ノド）との関係が皆無ではないこと、さらには両面から人間を守護しなければならないことを確認する。	家族の問題と間取りの重要性について考えをまとめる。	60
8	住宅と衛生	換気と結露（表面結露・内部結露）との関連について理解し、結露を発生させない住まい方を考える。	住まいの衛生について考え、住まい方を考察する。	60
9	住宅設計製図の基礎	模範住宅の図面から、設計に用いる開口部などの記号について説明します。次に、設計製図における線の引き方の基礎を学びます。	設計製図における線の引き方を練習する。	60
10	線の引き方、製図文字の練習	前授業に引き続き、線の引き方と、製図文字を練習する。次にダイヤモンドリング作成について説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180
11	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、ダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180
12	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、引き続きダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成した後、住宅図面トレースについて説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	60
13	住宅図面のトレース 1	模範住宅の図面をトレースすることにより、設計図の描き方の基礎を学ぶ。本授業では、平面・配置図を完成させることを目的とする。	平面図・配置図をトレースする。	180
14	住宅図面のトレース 2	前授業に引き続き、2階平面図、立面図を完成させる。	2階平面図と立面図のトレースを完成させる。	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	住宅図面のトレース3	前授業に引き続き、トレースを完成させることにより、図面を読む基礎的知識を習得する。	製図記号等の基礎的知識を理解し、トレースを完成させる。 180

<b>科目名</b>	建築計画Ⅰ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	設計は空間の捉え方、人間行動、法的数値、心理、構造等さまざまな知的要素を有機的に連携させて創造するものである。本科目では住宅や各種建築における基礎的知識を得るとともに、建築設計に応用する力を養うことを目的としている。			
<b>達成目標</b>	①細部計画・各部計画の要点を把握する。 ②独立住宅における諸室の機能的つながりと計画上の要点について理解する。 ③集合住宅の様々なタイプの特徴およびその長所・短所を理解する。 ④各種建築物の計画上の留意点を把握する。			
<b>受講資格</b>	建築デザインコース1年生	<b>成績評価 方法</b>	①期末試験50% ②確認テスト30% ③レポート提出20%	
<b>教科書</b>	『やさしい建築計画』深水浩著、学芸出版社			
<b>参考書</b>	『設計に活かす建築計画』内藤和彦他著、学芸出版社 『第3版コンパクト建築設計資料集成』日本建築学会編、丸善株式会社			
<b>学生への要望</b>	建築物に興味関心を持ち、実際に足を運んで観察するよう心掛けること。			
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜Ⅳ時限（14：30～16：00） 水曜Ⅳ時限（14：30～16：00）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	ガイダンス、住宅の分類	これからの授業のすすめ方について説明する。 住宅の分類及びそれぞれの長所短所について説明し、住宅の建築設計における位置づけ（重要性）について、家族問題や社会問題、歴史的背景と関連させて講義する。	住宅の分類と長所短所について整理し、歴史的背景や諸問題について考察する。
2	住宅のゾーニングについて	住宅におけるゾーニング及び動線の意味とテクニック、事例を説明する。また、収納の面積や最小限住宅の事例を話し、空間利用の魅力や手法について講義する。	住宅におけるゾーニングおよび動線計画について事例をもとに考察する。
3	住宅における各室の設計ポイント	寝室や老人室、居間、台所等の各室における基礎的面積、家具配置、出入りの注意点について説明する。	住宅設計の留意点について理解する。
4	住宅の事例研究 1	住宅展示場を見学し、各諸室のつながりや構造、材料、収納、インテリア等について近年の動向を把握する。	住宅の各諸室のつながりについて近年の動向を調べる。
5	住宅の設計手法、プランニング演習	食寝分離、公私室型、ダイニングキッチン、続き間等の設計の手法、その理論を解説する。これらの知識から、小住宅のプランニングをし、エスキスのテクニックを学ぶ。	住宅の設計手法を理解する。
6	集合住宅の歴史、分類	わが国とヨーロッパの集合住宅を比較し、わが国の特質を明らかにする。また、近年の動向を郡山市を例として解説し、集合住宅の分類を高さ及びアクセス方法の両面から講義する。	集合住宅の分類について理解し、長所と短所を整理する。
7	集合住宅の住戸計画	鉄筋コンクリートや鉄骨造における経済的スパン及びスパンに住戸を収めるという考え方について説明する。さらに一住戸をプランニング演習する。	集合住宅の住戸計画について理解する。
8	集合住宅の事例	わが国における戦前からの集合住宅の事例、海外の事例を説明する。このことにより、多彩な計画法を学ぶ。	集合住宅の事例をもとに様々な計画法について理解を深める。
9	学校建築の計画	小学校の運営方式や所要諸室について、配置計画上の要点をふまえながら、近年の多様な教育プログラムに対応できる空間構成について考える。	学校建築の留意点についてまとめる。
10	幼稚園・保育所の計画	幼稚園・保育所における所要諸室とその機能的つながりをふまえながら、幼児や乳児の人体スケールに配慮した各部の計画について学ぶ。	所要諸室の必要性と人体スケールについて理解する。
11	図書館の計画	一般的な地域図書館における必要諸室とそのゾーニング及び機能的つながりについて考える。また、図書館に関する基本用語を理解し、閲覧室の座席レイアウトおよび書架の配置と収納能力について学ぶ。	ゾーニングと機能的つながりについて事例をもとに考察する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	美術館の計画	一般的な美術館における、必要諸室とそのゾーニング及び機能的つながりについて考える。また、美術館に関する基本用語や来館者の巡回形式、展示室の採光・照明計画について学ぶ。	美術館計画の留意点について理解し、事例をもとに考察する。
13	建築物の事例研究Ⅰ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。	有名建築家の作品を事例として設計趣旨、時代背景等をまとめ、パワーポイントを作成する。
14	建築物の事例研究Ⅱ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。	有名建築家の作品を事例として設計趣旨、時代背景等をまとめ、パワーポイントを作成する。
15	建築物の事例研究Ⅲ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。	有名建築家の作品を事例として設計趣旨、時代背景等をまとめ、パワーポイントを作成する。

<b>科目名</b>	建築計画Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	長田 城治		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	建築計画Ⅰの授業で習得した建築計画の基本手法に基づき、大規模建築物における建築計画の特徴、最低限知っておかなければならない計画方法を理解することを目的とする。ここでは、建築計画Ⅰに引き続き、美術館・劇場・事務所・病院・商業施設等について学ぶ。		
<b>達成目標</b>	①各種施設に必要な設計計画上の重要な要素を理解できたか。 ②スケール感を身につけ、各種施設に必要な大きさや長さなどを理解することができたか。 ③計画上のポイントを大学校舎や商業施設などの実際の建物で確認し、問題点を抽出することができたか。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	定期試験80%、提出課題20%
<b>教科書</b>	図説やさしい建築計画 学芸出版社		
<b>参考書</b>	コンパクト建築設計資料集成 日本建築学会		
<b>学生への要望</b>	本授業は、建築設計製図Ⅱの課題で取りあげる建物について学修するため、両者関連づけて受講すること。また、空き時間や休日を利用して授業内で取り上げた各種施設に実際に訪れることを強く勧める。講義で得た知識と建物の実際の状況（計画）を照らし合わせてみることで、問題点や改善点を把握すること。		
<b>オフィスタイト</b>	月曜日8:50~10:20 水曜日14:30~16:00 本館1F No.2 住居学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス	建築計画を学ぶ重要性と住まいには精神面と物理面それぞれの役割があることを理解します。	建築計画Ⅰで学修した内容を見返し、章末問題に取り組んで、住宅や学校などの基本的な計画とスケールを習得します。	60
2	劇場の計画1	劇場の構成やゾーニング、分類を学修し、具体的な実例を基に劇場設計の基本を学びます。	身近な劇場を訪れ、建築計画や空間の特徴を感じ取ります。授業で学修した内容を復習し、ノート等でまとめ直します。	30
3	劇場の計画2	劇場計画に関する重要事項を整理し、巡回形式や採光・照明計画などを学修します。また、優れた劇場の実例から、設計意図や特徴を読み取ります。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
4	事務所の計画1	事務所を計画する際の基本的な事項について学び、人体モジュールにそった配置計画ができるよう学修します。	事務所の基本事項について復習します。	30
5	事務所の計画2	コアプランや机の配置計画など、事務所特有の計画留意事項を学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
6	計ってみよう1	大学内の講堂・図書館などを用いて、これまで学修した建築計画に沿った設計が行われているのか、実際に見て、計測することで判断し、改善点を考察します。	授業で使用した資料を見返し、大学施設を建築計画の視点から評価します。	30
7	ホテルの計画1	ホテルの構成やゾーニング、種類を学修し、具体的な実例を基にホテル設計の基本を学びます。	ホテルの基本事項について復習します。	30
8	ホテルの計画2	ホテルの構成やゾーニング、種類を学修し、具体的な実例を基にホテル設計の基本を学びます。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
9	病院・診療所の計画	病院や診療料所の構成や配置計画を学修し、使用者動線を加味した平面計画を行い病院ならではの計画上の留意事項を学びます。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
10	商業建築の計画	商業建築を計画する際の基本的な事項について学修し、人体モジュールにそった配置計画ができるよう学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
11	高齢者福祉施設の計画	高齢者福祉施設に関連する施設の種類や形態を学修し、高齢者に配慮した設計計画を行えるよう、バリアフリーやユニバーサルデザインについて学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
12	駐車場や各種施設	駐車場・駐輪場の計画を概要とスポーツ施設やコミュニティー施設、庁舎や空港など、特別な形態・機能を持つ建物について学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
13	高齢者・障がい者に配慮した建築計画	ノーマライゼーションの普及と展開の変遷を理解し、高齢者・障がい者に配慮した建築計画の要点を学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	計ってみよう2	大学内の教室・駐車場・駐輪場などを用いて、これまで学修した建築計画に沿った設計が行われているのか、実際に見て、計測することで判断し、改善点を考察します。	授業で使用した資料を見返し、大学施設を建築計画の視点から評価します。 30
15	まとめと建築士試験対策	建築計画Ⅱで学んだ内容について復習し、建築を設計する上で基本となるプランニングの重要性を再確認します。また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築計画Ⅱの試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。	授業で配布する建築士試験対策問題に取り組み、定期試験の学修に繋がります。 90

<b>科目名</b>	建築史	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	長田 城治		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>本授業は、日本ならびに世界の建築の歴史を原始から近代まで概観するものです。過去の名建築を様式や歴史から学ぶのではなく、名建築を正しく評価する力を身につけることを目的とします。そのためには、単に意匠や平面の遷り変わりという歴史的な変遷だけでなく、その建築が、誰が、どのように、何のために造りだされたのか、なぜその形や意匠が選ばれ、何を表現しようとしたのかなど、建築の背景にある事実を考えることが大切です。本授業は、建築の歴史を学ぶことで建築に対する視野を広げると共に、建築を考える上での基礎的なスキルを身につけることを目標とします。また、実際の歴史的建造物を見学し、授業内で学修したことを確認し、自身の視点で建物を評価する能力を養います。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>①日本建築と西洋建築の時代ごとの特徴的な建物について年代順に時系列で捉えることが出来たか。 ②建物の変化の要因を当時の時代背景や社会構造などと共に理解することができたか。 ③建築の見方を学修し、自身の基準で建物を評価することが出来るようになったか。</p>		
<b>受講資格</b>	家政学部人間生活学科建築デザインコース2年	<b>成績評価 方法</b>	<p>①授業中に出题する小課題（20%） ②見学会レポート（30%） ③プレゼン（50%） を総合して評価する。レポートおよびプレゼン発表の条件・評価基準を出题時に説明するので、十分理解の上で提出すること。</p>
<b>教科書</b>	特になし 必要に応じてプリントを配布		
<b>参考書</b>	『カラー版図説建築の歴史』西田雅嗣他著、学芸出版社		
<b>学生への要望</b>	<p>授業で紹介した建築を現地に赴いて見学し、その空間を体験することをすすめると共に、足を運ぶ積極性を求める。現地で感じた自身の感性に基づき、建物の評価を行う習慣を身につけること。 また、授業後は授業内で取り上げた時代を代表する建物について自身で調べ、日本および西洋の建築物を時系列に沿ってノートなどにまとめておくこと。</p>		
<b>オフィスタイム</b>	<p>月曜日12:50～14:20 木曜日8:50～10:20 本館1F No.2 住居学研究室</p>		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	建築史を学ぶ意義について述べます。	授業内容の復習 日本の古い建築を調べる 60
2	原始住居と環濠集落	原始時代の住居についてユカとドマに注目して住生活の特徴を学びます。	授業テキストで復習 60
3	古代住居とその変容	貴族の住宅である寝殿造と平安京から当時の住宅様式を学び、公私の空間の捉え方や住まい方における現代との相違を考えます。	授業テキストで復習 60
4	中世住居のオモテとオク	中世に初めて導入されたオモテとオクの考え方について、座敷飾りや書院造の定型化と考え合わせて学習します。	授業テキストで復習 60
5	近世住居と地域色	書院造と相反する数寄屋造の建物について、当時の「数寄」にという感性と共に理解します。また、庶民住宅である民家や町家の特徴とその地域色について、気候・風土だけでなく、当時の社会背景を踏まえて学びます。	授業テキストで復習 60
6	社寺建築のウチとソト	神社建築と寺院建築の違いを理解し、内部空間と外部空間に分けて、様式の特徴と様式が導入された背景を学習します。	授業テキストで復習 60
7	政務の空間、遊びの空間	日本独自の建築である城郭と茶室について、形成された理由や進化の過程を利用者の使い方の視点から学びます。	授業テキストで復習 60
8	近代建築の発展にみる和風と洋風	日本建築の概要を解説します。仏教伝来以前の神社建築の成り立ち、様式別の神社形式を理解することにより、日本人の建築に対する考え方、勝れた点を学びます。仏教伝来以前と以降の建築を比較し、奈良時代の建築の特徴を把握します。	授業テキストで復習 60
9	歴史的建造物見学	歴史的建造物を実際に見学して建物の特徴を把握し、地域や年代・設計者などの背景を考察してレポートを提出します。	見学会レポート作成 90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	古代（エジプト・ギリシャ）建築の普遍性	エジプト建築の特徴と後世への影響について解説します。ギリシャ建築のオーダーやパルテノンの黄金比・曲線の多用・バランス等の普遍的な美について学びます。また、アゴラの計画から西洋人の都市における公空間の考え方について学びます。	授業テキストで復習 60
11	古代（ローマ）建築、中世（ビザンチン）建築とキリスト教	ローマ建築の規模・構造について学びます。また、ギリシャ建築との比較やキリスト教建築との関連も同時に学習します。ビザンチン建築の特徴を、東西ローマ帝国の成り立ちやカトリック、ギリシャ正教と関連付けて解説します。	授業テキストで復習 60
12	中世（ロマネスク・ゴシック）建築の構造美	ロマネスク建築とゴシック建築の特徴を、両者を比較しながら解説します。また、この頃から国の特徴、国民性が建築形態に影響してきたことを学習します。 【プレゼン課題発表】	授業テキストで復習 プレゼンテーション作成 120
13	近世（ルネサンス・バロック・ロココ）建築と絶対王政	近代建築の特徴といえる機能主義の考え方、ワーグナーの建築哲学等を理解します。さらに、機能主義に反発して起こった建築運動、いわゆる反機能主義の建築について学びます。	授業テキストで復習 プレゼンテーション作成 120
14	稀代の建築家とポストモダニズム	コルビジェ・ミース・ライトなど近代建築の巨匠と称された建築家の作品を解説します。その時代背景や構造、材料等の特徴を学びます。また、ポストモダニズムの時代に至った背景や特徴等を学び、現在の建築の位置づけについて考えます。	授業テキストで復習 プレゼンテーション作成 120
15	プレゼン発表と建築士試験対策	広く建築に関心を持つことを目的に、課題の趣旨を理解して、学生それぞれが興味のある建築についてスライドを用いて解説・発表します。また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築史の試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。	プレゼンテーション作成 国家試験対策問題 150

<b>科目名</b>	インテリアデザイン		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建 築デザインコース 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	インテリアデザインに必要な専門知識及びその関連知識として、「インテリアデザイン史・論」「インテリア計画・インテリアデザイン基礎」「インテリア材料・構造生産」「インテリア装飾・装飾」の4領域について学び、インテリアに関わる専門知識と技術を養うことを目標とする。			
<b>達成目標</b>	①日本及び西洋のデザイン史について理解し、主要な家具・調度品、様式の特徴を把握する。 ②インテリアエレメントの種類や特徴を理解する。 ③インテリアの材料及び構造について理解し、それらの特徴を把握する。 ④人体の寸法、物の大きさ等、スケール感を身に付ける。 ⑤インテリアの表現技法を習得する。			
<b>受講資格</b>	人間生活学科 生活総合コース 建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	①提出作品30% ②レポート・小テスト20% ③期末試験50%	
<b>教科書</b>	日本インテリア設計士協会テキスト インテリア産業協会テキスト			
<b>参考書</b>	インテリア関連書籍をその都度提示する。			
<b>学生への要望</b>	授業目標を理解し、授業に臨むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス	これからの授業の進め方やインテリアデザインに必要な専門知識や技術について説明する。	インテリアデザインに必要な専門知識や技術について理解する。	60
2	インテリアデザイン史 I	西洋のインテリアと家具の歴史を学ぶ。	西洋のインテリアの歴史と家具の変遷について整理して理解する。	60
3	インテリアデザイン史 II	日本の住宅とインテリア、家具の歴史を学ぶ。	日本の住宅の変遷と家具の歴史について整理して理解する。	60
4	インテリアデザイン基礎	形と空間構成・色彩・インテリアの表現技法を学ぶ。	インテリアデザインの基礎として表現技法について理解する。	60
5	インテリア計画	人間の生理や心理をふまえた視点から計画するための知識を養う。	インテリア計画の知識について理解を深める。	60
6	インテリア材料	材料の持つ特質を知り、快適で安らぎのある空間について考察する。	インテリアの材料の特質を整理する。	60
7	インテリア構造・生産	インテリアの構法、室内構造と各部の名称等について学ぶ。	インテリアの室内構造について理解を深める。	60
8	室内装飾・装飾 I	カーペット・壁と天井の仕上げ・ウインドウトリートメントについて学ぶ。	室内装飾・装飾について事例をもとに理解を深める。	60
9	室内装飾・装飾 II	台所・洗面・浴室等の設備機器等について学ぶ。	室内の設備機器について理解する。	60
10	室内パース I	インテリア関連の各資格に対応したパースの書き方を理解する。与条件を十分に理解し、課題の主旨に応じた室内パースを描く。	室内パースの書き方を理解しパースを製作する。	120
11	室内パース II	前授業に引き続き、室内パースを製作する。描き方のプロセス・テクニックを十分に理解し、室内パースを制作する。	室内パースの書き方を理解しパースを製作する。	120
12	室内パース III	前授業に引き続き、室内パースを製作する。描き方のプロセス・テクニックを十分に理解し、室内パースを完成させる。	室内パースの書き方を理解しパースを製作する。	120
13	インテリアデザイン	室内空間をCADを使用して3Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3Dで表現する技術を習得する。	CADを使用した表現技術を習得する。	180
14	インテリアデザイン	前授業に引き続き、室内空間をCADを使用して3Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3Dで表現する技術を習得する。	理想の室内空間を表現する。	180
15	プレゼンテーション	製作した作品のプレゼンテーションを行う。学生間でそれぞれ評価し合い、ディスカッションを行う。	ディスカッションを通して、作品を評価する。	60

<b>科目名</b>	地域防災計画	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	地域特性を考慮した地域防災計画の策定は、防災計画に重要な位置づけにある。建築物の構造体としての安全性とともに、災害時の安全かつ速やかな避難計画は、地域防災計画との関係が大きい。福島県においても過去の大規模災害の経験を基に、地震、風水害、雪害等自然災害に対処する地域防災計画が策定されている。授業では建築防災計画および地域防災計画について解説し、地域特性を考慮した総合的な防災計画の必要性を理解することを目的とする。		
<b>達成目標</b>	①自然災害の種類と特性を理解できたか。 ②地域防災計画策定に必要な項目を明確にすることができるか。 ③福島県の防災計画に留意する項目を明確にすることができたか。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	小テスト50%、レポート提出30%、プレゼンテーション20%
<b>教科書</b>	雪と建築（技報堂出版）		
<b>参考書</b>	防災基本計画（中央防災会議）		
<b>学生への要望</b>	建築物単体での防災対策とともに、地域や都市という広域的な防災対策についても身近に感ずるように心がけて欲しい。また、地震、風水害、雪害等、福島県の地域特性を理解し、これらの対策の現状を認識して欲しい。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50～14:20、14:30～14:00 住居学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス、防災計画の概要	防災計画の概念について説明し、科目の導入とする。	授業内容をテキストで復習	45
2	防災基本計画の構成	防災基本計画の構成を解説し、災害の種類を把握するとともに、その特徴について理解を深めさせる。	授業内容をテキストで復習	45
3	自然災害の対策1	自然災害の種別毎の対策について解説する。当回では震災対策、火山災害対策における災害発生概要・災害対策の現状について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
4	自然災害の対策2	当回では、風水災害対策、雪害対策における災害発生概要・災害対策の現状について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
5	日本の気候	日本の気候からくる気象災害について解説する。ここでは、日本の気候の特徴と自然災害の関係について理解させる。	レポート準備	60
6	地域防災計画の特徴	防災基本計画と地域防災計画の特徴について解説する。特に地域防災計画の基本的な考え方、防災理念が理解できるように解説する。	授業内容をテキストで復習	45
7	防災上の地域特性1	防災上の福島県の地域特性について解説する。特に福島県の災害履歴を把握する。	授業内容をテキストで復習	45
8	防災上の地域特性2	当回では福島県の地域特性について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
9	地域防災計画	福島県地域防災計画の特徴を解説し、今後考慮すべき課題について考察する。	レポート準備	60
10	雪害	福島県の雪害に関する状況を解説し、雪害という現象を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
11	雪氷防災計画	地域防災計画上の雪氷防災計画について解説し、雪氷防災計画策定の重要性を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
12	避難計画1	災害時における避難計画の概要を解説し、建築物での避難計画を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
13	避難計画2	災害時における避難計画を住区、地区、地域の観点から解説し、さらに複合災害時の避難行動について理解させる。	プレゼン準備	90
14	都市計画・地域計画上の防災対策	都市・地域の防災システムならびに都市構造の防災ポテンシャルについて解説し、中領域での防災対策について理解させる。	プレゼン準備	90
15	総まとめ	地域防災計画上の理念を総括する。	授業内容をテキストで復習	45

<b>科目名</b>	家族建築学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、人間にとって家族とは何か、家族の機能、家族の変化等を中心に考える。特に、家族内における高齢者、子ども、人権尊重を主題とし、福祉社会における家族のあり方を様々な視点から学ぶことを目的とする。なお、教職（家庭・栄養）を目指す人にとっては必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。		
<b>達成目標</b>	①家族の機能について様々な視点から考察したか。 ②家族の時代的変遷について考察したか。 ③高齢者や子どもと家族全体との関わり方の変化について考察したか。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科4年生、食物栄養学科4年生 文化学専攻科1年生	<b>成績評価 方法</b>	授業内容の理解度8割以上を合格。レポート80%、授業中の提出物20%
<b>教科書</b>	適宜プリント及び資料配付		
<b>参考書</b>	その都度紹介します		
<b>学生への要望</b>	授業中に各自の意見を書いて提出することを数回求めます。その日のテーマをよく考え、私語を控えましょう。		
<b>オフィスタイト</b>	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00 住居学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	授業ガイダンス	これからの授業の進め方について説明する。これまで学んだ建築学の専門科目からの視点とは異なり、生活者としての視点から建築を捉える。その上で、建築家としての使命や自分自身の方向性について考える。	授業内容を復習
2	家族の意味	家族の意味について、これまで学んだ家政学を基盤とした上で「家族と法」の視点から考察する。	授業内容を復習
3	現代の家族生活	今日、われわれが経験している現代の家族生活を旧来の家族生活と比較し、特質づけている点について考察することから、現代の家族生活の意義について理解を深める。	授業内容を復習
4	夫婦と親子	夫婦について婚姻の成立と効果、親子関係の発生とその効果について「家族と法」の視点から考察し、住生活における位置づけについて理解する。	授業内容を復習
5	親族扶養について	親族関係の意義と扶養の意味について理解する。それに基づき社会福祉的観点から、建築に求められている空間の創造または空間構成について考察し、これまで学んだ住宅の設計概念と結びつけて理解する。	授業内容を復習
6	家族と住空間	家族関係からの視点で住空間を創造する手法について学ぶ。まずは立体創造の手法の一つとして、大小のボックスを組み合わせることによる、コアシステムやスケルトンインフィルの概念を理解する。	レポート準備
7	立体続き間の創造	日本古来の続き間を、「サヴォワ邸」や「塔の家」を事例として立体的に捉え、空間構成を考える。	授業内容を復習
8	円形プラン（円柱の立体）・六角形プラン（六角柱）の試作	ガウディの「カサ・ミラ」の室を事例に、木造建築での円形や六角形の室の可能性について、機能面と心理面から追及する。また、デッドスペースの利用について検討する。	授業内容を復習
9	球型・半球型住宅の可能性	手塚治虫が描いた未来都市の建築物は、矩形はほとんど見られず、極めて変化に富んだ形態が多い。21世紀の今日、彼が描いたものが現実化している事例が少なくない。そこで、球や半球の住まいや街並みデザインの可能性について考え、その是非について討論する。	授業内容を復習
10	屋根型の理解	建築物の外観は屋根によって決まる、と言っても過言ではない。その屋根型の基本を復習し、球や半球等にかける屋根について検討し屋根方の違いによる空間について理解する。	授業内容を復習
11	段差の敷地に建つ住宅	「積み木の家」の概念を応用して、段差のある敷地に建つ住宅を設計する。	レポート準備
12	ふくしまの家	福島らしい家とは何か。気候風土や嗜好性をどう捉えるかを学ぶ。流行と風土性、建築家のエゴについて考える。	授業内容を復習
13	都市・街並みの創造 1	これまで学んだ形態の住宅のプランと模型を複数完成させ、住宅街を創造する。	授業内容を復習

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	都市・街並みの創造 2	前授業に引き続き、模型を複数完成させ、住宅街を創造する。	レポート準備 60
15	自分自身の建築の方向性と卒業設計	建築とは人間のための空間創造である。住宅は建築並びに生活者の原点である。戦後、わが国の建築家たちは快適性ばかりを追求してきたが、東日本大震災を契機に、この姿勢に疑問符が投げかけられている。本授業では、形態を主に住宅を捉えてきたが、自分自身の建築の方向性を建築家としてのポリシーと形態（デザイン）との両面模索することを最終の授業の目的とする。さらに、自分の方向性と卒業設計とを関連付けて卒業設計のテーマを発表する。	授業内容を復習 45

<b>科目名</b>	建築環境工学 I	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、工学的視点から自然現象を捉える。さらに健康で快適な住居について、空気・湿気・温熱環境などの側面から考える力を養う。		
<b>達成目標</b>	①空気環境について、通風と換気の目的と換気システムについて理解する。 ②湿気環境について、結露発生メカニズムとその防止法を理解し、湿り空気線図を読み取る。 ③居住者の温かさ、寒さを表す温熱環境について考察し、快適な温熱環境について理解する。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科 建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	①期末試験 70% ②確認テスト 30%
<b>教科書</b>	建築環境工学（第三版）：市ヶ谷出版社		
<b>参考書</b>	その都度提示する。		
<b>学生への要望</b>	快適な室内環境を形成するために、授業で学んだことを建築計画に活かすこと。		
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜Ⅳ時限（14：30～16：00） 水曜Ⅳ時限（14：30～16：00）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス	これからの授業についての説明及び室内環境の概略を説明する。	室内環境を決定づける要因について理解する。	60
2	住まいと気候	わが国の気候（日本の風、気温、湿度等）と建築との関連について学ぶ。	日本の気候と建築との関連について整理する。	60
3	空気環境と空気汚染 1	換気と通風の目的とその重要性について理解します。また、換気量・換気回数・必要換気量の求め方を学ぶ。	換気と通風の目的を明確にし、その必要性について理解する。	60
4	空気環境と空気汚染 2	室内から発生する空気汚染物質とその許容量について学ぶ。	室内汚染物質の要因について理解する。	60
5	換気計画	換気方式による特徴と用途について学ぶ。	換気方式の違いについて整理する。	60
6	温熱要素について	気温・湿度・風速・放射熱など、体感に影響を与える要因について学ぶ。	温熱要因について理解を深める。	60
7	温熱感覚の指標	有効温度・修正有効温度・不快指数等を計算し、室内の快適性を評価する。	温熱感覚の指標について理解する。	60
8	伝熱理論 1	壁体の熱の伝わり方と主要建築材料の熱伝導率について理解する。	熱の伝わり方について理解する。	60
9	伝熱理論 2	熱伝導抵抗・熱貫流率・熱貫流抵抗・熱貫流量の求め方を理解する。	熱伝導抵抗・熱貫流率・熱貫流抵抗・熱貫流量の求め方を復習する。	60
10	住宅と結露	結露現象について理解し、空気線図の読み取り方を学ぶ。また、表面結露と内部結露の防止対策について理解する。	空気線図の読み取り方について理解を深める。	60
11	断熱について	中空層の断熱効果について理解し、断熱工法とその違いについて学ぶ。また、断熱性能と省エネルギーについて考察する。	模型を用いて行った断熱実験をレポートにまとめる。	60
12	外界気象について	気温や相対湿度の変動をクリモグラフとデグリーデーから読み取る。	クリモグラフとデグリーデーの読み取り方を復習する。	60
13	都市環境と地球環境 1	ヒートアイランド現象、ビル風、その他の都市環境問題について考察する。また、地球温暖化原因や地球温暖化防止のための建築的取り組みについて学ぶ。	地球環境の問題点について調べ、建築的取り組みを整理する。	120
14	都市環境と地球環境 2	環境問題と建築の取り組みについてディスカッションを行なう。	環境問題と建築的取り組みについて整理し、考察する。	120
15	まとめ	これまで学んだ視点から、健康で快適な住環境について考察・説明し、ペーパーテストを行う。またペーパーテストの解説も行う。	授業で学んだ内容についてまとめ、健康で快適な住環境について考察する。	120

平成31年度

<b>科目名</b>	建築環境工学Ⅱ	<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	長田 城治		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、工学的視点から自然現象を捉えます。前期に学習した内容を基に、健康で快適な住居について、日射、光、色彩、音などの環境と建築の関係について学習し、考える力を養います。		
<b>達成目標</b>	①建築と環境の関係について理解することができたか。 ②日射、光、色彩、音などの特性が理解できたか。 ③建築環境工学の基本的な事項を学習し、設計製図などの課題において自身の設計に役立てることができたか。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	期末試験80%・授業内提出課題20%
<b>教科書</b>	『建築環境工学』市ヶ谷出版社		
<b>参考書</b>	その都度提示します		
<b>学生への要望</b>	授業で学んだことを建築計画に生かし、快適な室内環境形成に役立てて下さい。		
<b>オフィスタイトム</b>	月曜日8:50~10:20 木曜日8:50~10:20 本館1F No.2 住居学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	授業ガイダンス	これからの授業についての説明及び室内環境の概略を説明し、授業のねらいや達成目標を理解する。	建築工学Ⅰで学修した内容を見返し、要点を復習する。
2	太陽の位置	日本における太陽の動きを理解し、日照と建築との関連を確認する。	太陽位置図やその求め方を理解し、授業内課題を用いて復習する。
3	日照と日影	日影図の描き方を学び、終日日影や永久日影をCGを用いて学ぶ。	日影図や日影時間図を作成する。
4	日射について	日射の有効性と害及び日照計算、日照調節の方法について学ぶ。	日射の仕組みを復習し、授業内課題を復習する。
5	光環境について	測光量について学び、基礎的な照明計算の方法を習得する。	照明計算を解く。
6	明視環境について	明視条件やグレア、照度の基準を学ぶ。	自宅の照度を測定し、データをまとめる。
7	明視環境と採光について	自宅の照度データから住環境を評価し、発表する。採光、天空率、昼光率等の意味を理解する。	授業の要点を復習する。
8	照明について	人工照明の種類と建築における今後の照明の在り方を考える。	身の回りにおける人工照明の種類を把握し、授業で学修した内容を復習する。
9	採光について	採光、天空率、昼光率等の求め方を学修する。	授業の要点を復習し、章末問題を解く。
10	色彩環境について	色彩の表し方について色の属性や表色系の種類を学ぶ。	授業の要点を復習する。
11	色彩計画について	色彩の人への効果を学習し、それを活かした建築計画を学ぶ。	授業の要点を復習する。
12	音環境について	音の性質やその単位について学ぶ。	授業の要点を復習する。
13	騒音と遮音について	騒音レベルや遮音の仕組みを学び、騒音を防止する設計方法を習得する。	授業の要点を復習する。
14	音響について	吸音や残響について学ぶ。	授業の要点を復習し、章末問題を解く。
15	まとめと建築士試験対策	これまで学んだ視点から、健康で快適な住環境を考察する。また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築環境工学Ⅱの試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習する。	配布した資料を参考に、本授業で学修した内容を整理し、建築士対策問題を解き、理解を深める。

<b>科目名</b>	建築設備	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	藤田 延幸		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	授業の到達目標及びテーマ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。 [履修カルテの評価項目] ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について 授業の概要 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
<b>達成目標</b>	授業の到達目標及びテーマ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。 [履修カルテの評価項目] ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について 授業の概要 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科建築デザインコース4年生	<b>成績評価 方法</b>	定期試験により評価します。
<b>教科書</b>	「初学者の建築講座 建築設備（第二版）」著：大塚雅之 市ヶ谷出版社		
<b>参考書</b>	配付資料を使用します。		
<b>学生への要望</b>	積極的に授業に参加すること。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	授業の概要説明	授業の概要説明	授業内容を整理する。 30
2	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	給排水設備について	給排水設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	事務所ビルの給排水設備の計画について	事務所ビルの給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	事務所ビルの空調システムについて	事務所ビルの空調システムについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	住宅の電気設備計画について	住宅の電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	事務所ビルの電気設備計画について	事務所ビルの電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	防災設備について	防災設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	建築物のライフサイクルからLCEやLCCO2について	建築物のライフサイクルからLCEやLCCO2について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	太陽エネルギー利用について	太陽エネルギー利用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

<b>科目名</b>	建築法規Ⅰ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	佐久間 保一			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。			
<b>達成目標</b>	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。			
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	定期試験	
<b>教科書</b>	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
<b>参考書</b>	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
<b>学生への要望</b>	建築士試験問題を解くこと。実生活の中で法律を意識すること。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス、建築法規の成り立ち	これからの授業の進め方及び、建築法規を学ぶことの意義について、建築に携わる者の倫理面から講義します。次に基準法、政令、条例、告示等の法の成り立ち、及び法規上の接続詞や数量の読み方について解説します。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	建築法令集の活用法	建築関連法令集に、建築基準法、建築士法、都市計画法、建設業法、等の各法規及び各項目のインデックスを貼ります。このことにより法令集の概要及び成り立ちを理解します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	用語の定義1	建築で用いる用語（居室、新築、修繕、軒の高さ等）の定義について学びます。建築法規のみならず、実務においても基礎となる用語であることから、正しい理解が求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	用語の定義2	延焼の恐れのある部分、建築物の高さの定義、及び算出方法を学びます。このことから人間の生命を守る建築を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	敷地面積、建築面積、延面積の計算	敷地面積について、道路との関連について学びます。地下や軒の出がある場合の建築面積、延面積について、定義及び算出方法を学びます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	一般構造1	単体規定のあらましについて解説します。次に換気的重要性及び定義について学びます。天井の高さの定義及び算出方法について学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	一般構造2	居室における採光の重要性について学びます。次に有効採光面積の定義、及び算出方法について居室の定義を復習しながら学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	一般構造3	防火に関する用語（耐火構造、準耐火構造）の他、防火地域や準防火地域等のついて等について学びます。それぞれの相違をよく理解することが必要です。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	用途地域1	集団規定のあらましについて解説します。次に都市計画地域、市街化区域、市街化調整区域、用途地域等、さらに用途制限の考え方について説明します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	用途地域2	引き続き用途地域による用途制限について学びます。法令集の用途制限に関する別表をよく理解することが求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建蔽率の定義及び計算	用途地域、建蔽率の定義、及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	容積率の定義及び計算	容積率の定義及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	高さ制限1	建築物の高さを制限する道路斜線、隣地斜線、北側斜線について説明します。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	高さ制限2	引き続き道路斜線、隣地斜線北側斜線についての定義、及び計算方法について学びます。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	避難経路について	建築物における避難経路の確保のしかた及び二方向非難等の避難経路について解説します。このことから、人間の生命を守る建築物を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

<b>科目名</b>	建築法規Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	佐久間 保一		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
<b>達成目標</b>	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	定期試験
<b>教科書</b>	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」		
<b>参考書</b>	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」		
<b>学生への要望</b>	建築士試験問題を解くこと		
<b>オフィスタイム</b>	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス 建築法規Ⅰの復習	授業の進め方の説明。建築法規Ⅰにおいて、理解が不十分であった項目を重点的に復習する。 最近の建築法令の動き。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	構造強度（木造）1	木造建築の構造強度に関する基準法、及び同施行令について理解する。 柱や梁で構成された木造在来工法についても復習する。 * 建築物の高さについて復習する。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造強度（木造）2	施行令40～45条の地震や風圧に耐える木造住宅の意味を理解し、軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	構造強度（木造）3	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	構造強度（木造）4	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を学び、告示による建築端部の壁量計算方法を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	構造強度（木造）5 組石造	壁量計算の小テストにより、理解したことを確認する。施行令54条の組石造についての関連法規を学ぶ。併せて、組石造について理解する。	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	構造強度 補強コンクリートブロック造 鉄筋コンクリート造	施行令62条等の補強コンクリートブロック造についての関連法規を学ぶ。併せて、補強コンクリートブロック造について理解する。また、施行令72条等鉄筋コンクリートにおける関連法規を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	構造強度 鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造における、かぶり厚さ、柱の径等についてのポイントを学ぶ。併せて、鉄筋コンクリート造の構造について学ぶ。	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	構造強度 荷重と外力	固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力等の荷重と外力が、法規によってどのように記載されているか、その意味を理解する（（施行令84条～）	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	防火と内装制限	屋根や外壁、防火壁等の防火に関わる関連法規及び、室内の内装制限を受ける建物について学び、安心安全な建築設計について考える（施行令112条他）	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
11	建築士法	建築士でなければ設計できない建築、建築士事務所の仕事について、建築士法に則りながら理解する。建築士の責務の重要性を学ぶ。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
12	都市計画法	都市計画法における、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、開発行為について学ぶ。また用途地域について復習し、建築基準法との関連を確認する。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
13	建設業法 ハートビル法 消防法、品格法等	建設業法、ハートビル法、消防法、品格法等の関連法規の概要を学び、建築がたくさんの法律によって規制されていることを理解する。福島県条例と地域の景観条例の説明。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
14	復習 1	建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。
15	復習 2	前授業に引き続き、建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。

平成31年度

<b>科目名</b>	建築構造 I	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	建築物を形作る建築工法には多くの種類があり、それぞれの特徴を持っている。本授業では、建築構造のあらましと、「木構造」の軸組や仕上げの構成について理解することを目的としている。		
<b>達成目標</b>	①木構造の軸組が理解できているか。 ②木構造の内外仕上げ材の特性を理解できているか。 ③木構造の矩形図・各伏図の詳細について理解しているか。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	定期試験80%、課題提出20%
<b>教科書</b>	やさしい構造力学 学芸出版社		
<b>参考書</b>	適宜紹介する		
<b>学生への要望</b>	不明な点は放置せず、直ちに質問すること。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50~14:20 ・14:30~16:00 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	60
1	授業ガイダンス、建築構造概論	建築物はどのような部分からなりたっているか理解させ、科目の導入とする	授業内容をテキストで復習	60
2	建築構造のなりたちと歴史的発達について	社会的変化や科学技術の進歩、発展等と合わせて理解させる	授業内容をテキストで復習	60
3	建築構造の分類、建築物にはたらく力	主体構造の材料・工法・形式別分類について把握させ、外力の種類・部材に生ずる各種の力について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
4	木構造の特徴と構造形式について	木構造の一般的な特徴を把握させ、現在用いられている構造形式とその特徴について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
5	木材の性質と接合方法	継手や仕口の種類と使用箇所、接合金物の種類、接合の注意点について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
6	基礎	基礎のあらまし、地業・基礎の形式について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
7	軸組 1	軸組のあらまし、土台・柱の配置、慣用的な断面寸法等を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
8	軸組 2	胴差・桁・梁・火打梁・筋かい・耐力壁・貫・間柱の配置、慣用的な断面寸法、接合方法等を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
9	小屋組	屋根の種類と小屋組・和小屋・洋小屋について把握し、小屋伏図が作成できるよう理解させる	授業内容をテキストで復習	60
10	床組、階段、開口部	各部詳細の把握と、納まりを理解させる	授業内容をテキストで復習	60
11	外部仕上げ	屋根・軒天井・庇・樋・外壁の形式と詳細について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
12	内部仕上げ 1	内部仕上げのあらまし・床・内壁・天井について部座州の名称、働きについて理解させる	授業内容をテキストで復習	60
13	内部仕上げ 2	床の間・棚・書院・押入・縁側について各部の納まりと名称を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
14	木造枠組壁構法	枠組壁工法の特徴・構造材・主体構造の構成を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
15	総まとめ	木構造について総括する	授業内容をテキストで復習	60

平成31年度

<b>科目名</b>	建築構造Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	建築物を形作る建築工法には多くの種類があり、それぞれの特徴を持っている。本授業では、建築構造Ⅰに続き、「鉄筋コンクリート構造」、「鋼構造」の骨組みや仕上げの構成について理解することを目的としている。		
<b>達成目標</b>	【履修カルテの評価項目】 ①鉄筋コンクリート構造、鋼構造の基本的骨組みについて理解できたか。 ②木構造と鉄筋コンクリート構造、鋼構造の設計上の違いについて明確に理解できているか。 ③鉄筋コンクリート構造、鋼構造の経済スパン並びに適正スパンを理解し、適切なプランニングができるか。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	小テスト50%、レポート30%、課題提出20%
<b>教科書</b>	建築構造 実教出版		
<b>参考書</b>	適宜紹介		
<b>学生への要望</b>	積極的に建築物を見学することや多くの建築雑誌に目を通して、建築構造を身近に感じよう心がけること。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	授業ガイダンス	建築構造の概要説明。建築構造Ⅱで扱う範囲について説明し、受講上の留意点について確認する。	授業内容をテキストで復習
2	鉄筋コンクリート構造の特徴と構造形式	鉄筋コンクリート構造の一般的な特徴を把握させ一般的に用いられている構造形式を理解させる。	授業内容をテキストで復習
3	鉄筋の種類や規格	鉄筋の種類による形状・規格・表示方法を理解させる。	授業内容をテキストで復習
4	コンクリートの種類と性能	コンクリートのあらまし、特徴、種類を理解させる。	授業内容をテキストで復習
5	基礎の形式	地盤の性質、基礎各部の構成と種類、設計上の留意点について理解させる	授業内容をテキストで復習
6	主体構造	ラーメンを中心に、部材構成・断面の大きさのめやす・鉄筋の役割・組み方の基本、基準等について理解させる。	授業内容をテキストで復習
7	外部仕上げ	外部仕上げについて、各部位の要求性能に合った材料を適切に選択できるように理解させる。	授業内容をテキストで復習
8	内部仕上げ	内部仕上げについて、各部位の要求性能に合った材料を適切に選択できるように理解させる。	授業内容をテキストで復習
9	壁式構造、プレストレスコンクリート構造	壁式構造、プレストレスコンクリート構造の構造形式の概略について理解させる。	レポート準備
10	鋼構造の特徴と構造形式	鋼構造の一般的な特徴を把握させ、一般的に用いられている構造形式を理解させる。	授業内容をテキストで復習
11	鋼と鋼材、鋼材の接合	鋼の特性、鋼材の規格、接合の種類・方法を理解させる。	授業内容をテキストで復習
12	基礎の形式	鋼構造に適した基礎の種類・形式について理解させる。	授業内容をテキストで復習
13	骨組の構成と部材1	ラーメン構造の特徴と部材構成、名称、働きについて理解させる。	授業内容をテキストで復習
14	骨組の構成と部材2	トラス構造の特徴と部材構成、名称、働きについて理解させる。	レポート準備
15	外部仕上げ、内部仕上げ	鋼構造の外部・内部仕上げについて、各部位の要求性能に合った材料を適切に選択できるように理解させる。	授業内容をテキストで復習

平成31年度

<b>科目名</b>	構造力学Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。		
<b>達成目標</b>	①力の釣り合いについて十分理解できたか。 ②各モデルの反力を求めることができるか。 ③M図、N図、Q図を正確に求めることができたか。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	定期試験80%、課題提出20%
<b>教科書</b>	やさしい構造力学 学芸出版社		
<b>参考書</b>	適宜紹介する		
<b>学生への要望</b>	不明な点は放置せず、直ちに質問すること。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50~14:20 ・14:30~16:00 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス・力学概論	構造力学の授業計画についての説明。 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
2	力の基礎1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
3	力の基礎2・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
4	力の基礎3・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
5	力の基礎4・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をとまなう力の釣り合いの問題演習を行う。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
7	反力1・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。反力とは何か、反力数と何かについて問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
8	反力2・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
9	反力3・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
10	反力4・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力）について問題演習を行う。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
12	単純梁に生じる力1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
13	単純梁に生じる力2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
14	片持ち梁に生じる力1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
15	片持ち梁に生じる力2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。まとめとして、力学Ⅰの分野における建築士国家試験の対応箇所と要点に関する解説する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60

平成31年度

<b>科目名</b>	構造力学Ⅰ演習	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。構造力学Ⅰの講義で得た知識を、問題演習及び実験を通して定着させる。		
<b>達成目標</b>	①力の釣り合い式を用いて未知数を求めることができたか。 ②各モデルの反力を求めることができるか。 ③M図、N図、Q図を正確に図示することができたか。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	課題提出80%、授業姿勢20%
<b>教科書</b>	やさしい構造力学 学芸出版社		
<b>参考書</b>	適宜紹介する		
<b>学生への要望</b>	予習・復習により、多くの問題を解くこと。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス・力学概論	演習についての説明。 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。	授業で扱った問題の復習	60
2	力の基礎1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。	授業で扱った問題の復習	60
3	力の基礎2・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。	授業で扱った問題の復習	60
4	力の基礎3・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。	授業で扱った問題の復習	60
5	力の基礎4・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。	授業で扱った問題の復習	60
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をとまなう力の釣り合いの問題演習を行う。	授業で扱った問題の復習	60
7	反力1・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。反力とは何か、反力数と何かについて問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
8	反力2・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
9	反力3・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
10	反力4・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。	授業で扱った問題の復習	60
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力）について問題演習を行う。	授業で扱った問題の復習	60
12	単純梁に生じる力1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。	授業で扱った問題の復習	60
13	単純梁に生じる力2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
14	片持ち梁に生じる力1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
15	片持ち梁に生じる力2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60

<b>科目名</b>	構造力学Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	濱尾 博文		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	2年前期で学んだ構造力学Ⅰの基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務める。		
<b>達成目標</b>	2年前期で学んだ構造力学Ⅰの基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科 2年建築コースの学生	<b>成績評価 方法</b>	試験100%
<b>教科書</b>	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
<b>参考書</b>	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
<b>学生への要望</b>	予習、復習を必ず行うこと		
<b>オフィスタイム</b>	木曜日授業開始前、授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	イントロダクション	「建築構造設計とは」建築設計との位置づけと社会的役割	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	構造計算モデル1	応用解析に用いる解析用モデルの作り方、基礎的ルール	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造計算モデル2	実物から解析可能なまでに単純化されたモデルの作り方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	荷重と変形1	単純な架構モデルに力が加わった時の変形と曲げのモーメント	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	荷重と変形2	単純な架構モデルの応力図における釣り合いと反力	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	荷重と変形3	やや複雑な架構モデルの応力の求め方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	荷重の考え方	建築設計で想定される荷重の種類と考え方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	応用解析1	解析モデルの入力の方法	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	応用解析2	モデルの応力解析と結果の検証	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	応用解析3	実例に近いモデルの応力解析と結果の検証	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	断面算定1	応力度、断面に関する数値（断面2次モーメント）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	断面算定2	応力度、断面に関する数値（断面係数）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	座屈	座屈とは、座屈を起こすしくみ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	たわみ	たわみが起こる仕組み、たわみ量と荷重の関係	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	保有水平耐力	保有水平耐力を求める意味と、必要保有水平耐力の決め方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

平成31年度

<b>科目名</b>	構造力学Ⅱ演習	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	濱尾 博文		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	構造力学が実際の建物でどのように利用されているのか、また建築デザインにおいて空間、構成部材の美しさを演出する上で、いかに構造デザインが重要なものか、演習を通して体感しながら学んでいく。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務める。		
<b>達成目標</b>	構造力学が実際の建物でどのように利用されているのか、また建築デザインにおいて空間、構成部材の美しさを演出する上で、いかに構造デザインが重要なものか、演習を通して体感しながら学んでいく。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科 2年建築コースの学生	<b>成績評価 方法</b>	試験100%
<b>教科書</b>	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
<b>参考書</b>	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
<b>学生への要望</b>	予習、復習を必ず行うこと		
<b>オフィスタイム</b>	木曜日授業開始前、授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	イントロダクション	世界の名建築家の設計した建物の構造	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 30
2	構造計算モデル4	イスの応用解析モデルの作成	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	構造計算モデル5	楽器の応力解析モデルの作成	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	荷重と変形4	建築士過去の問題集の解答と解説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	荷重と変形5	建築士過去の問題集の解答と解説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	荷重と変形6	建築士過去の問題集の解答と解説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	荷重の考え方	構造設計用荷重表の作成	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	応用解析4	解析モデルの入力と実行	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	応用解析5	解析モデルの入力と実行（検証）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	応用解析6	解析モデルの入力と実行（検証）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	断面算定3	断面3次モーメントの算定	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	断面算定4	断面係数の算定	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	座屈	座屈長さの算定、座屈を防ぐ方法	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	たわみ	たわみ量の求め方、たわみを小さくする方法	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	保有水平耐力	保有水平耐力を求め方、必要保有水平耐力の求め方	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

<b>科目名</b>	建築材料学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	長田 城治			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	建築を理解する上で必要な材料の知識を身につけることを目標とします。建築物に一般的に使用されている材料の性質を分類し、木造、鉄筋コンクリート造、鋼構造等の構造部材の特徴、使用法について理解し、設計する上でどの材料を用いるべきか、従業を通して材料を選択する能力を養うこと目指します。これらの主要構造材に加え、外装材料や内装材料、屋根材料など建物の仕様に関わる材料特性を理解することを目標とします。			
<b>達成目標</b>	①木材やコンクリート、鉄骨などの建築材料について基本的な性能を理解することができたか。 ②材種別に材料特性の長所や短所を把握することができたか。 ③建物の規模や形式、用途によって建築材料の使い分けが出来るようになったか。			
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	定期試験70%、授業内課題（小テスト、小レポートなど）30%	
<b>教科書</b>	『やさしい建築材料』学芸出版社			
<b>参考書</b>	授業内で適宜紹介する			
<b>学生への要望</b>	定期試験以外に授業内で実施するレポート提出を課すため、欠席がないように注意すること。また、住宅や商業施設などの身の回りの建物で使用する建築材料に注視するように心がけること。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日8:50~10:20 水曜日14:30~16:00 本館1F No.2 住居学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス、建築材料の概要	授業ガイダンス、建築材料学の意味について説明し、科目の導入とします。	シラバスを確認し、本講義のねらいと達成目標を理解します。	30
2	木材の種類と特徴	日本建築と木材についての関わりを把握し、木材の種類・特徴について理解を深めます。	授業で配布した資料と教科書を参考に木材の種類と特徴について復習します。	60
3	木材の強度と構造	構造部材としての木材について、その強度および構造について理解します。また、木取り・規格・等級について解説します。	木材の材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	120
4	コンクリートの性質	コンクリートの歴史、用途、特徴について把握し、コンクリートの性質について理解します。	授業で配布した資料と教科書を参考にコンクリート性質や種類について復習します。	60
5	コンクリートの種類と調合設計	コンクリートの種類と調合設計について学習します。また、木材とコンクリートに関する小テストを実施し、それぞれの材料が持つ長所や短所を再確認します。	コンクリートの材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。また、小テストの結果を基に復習し、知識を定着させます。	120
6	鋼材の特徴と製鋼の工程	鋼材の歴史的背景、鉄と鋼の違い、鋼材の特徴と製鋼の工程について整理し、理解を深めます。	授業で配布した資料と教科書を参考に鋼材の種類と製作を工程について復習します。	60
7	鋼材の種類、性質と規格	鋼材の種類とその特徴、用途を整理し、建築の構造用に使われる鋼材の性質を明確に理解します。	鋼材の材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	120
8	焼成品1	タイル・煉瓦の歴史、特徴、種類、形状について学習します。	タイルの種類を調べ、次回の授業で特性について発表します。	60
9	焼成品2	瓦・衛生陶器の歴史、特徴、種類、形状について学びます。	焼成品の材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	60
10	ガラスの特徴と種類、石材の特徴と分類	ガラス・石材の歴史、特徴、種類を把握し、その用途と施工法を学習します。また、鋼材や修正品、ガラスに関する小テストを実施し、それぞれの材料が持つ長所や短所を再確認します。	小テストの結果を基に復習し、知識を定着させます。	120
11	左官の特徴と種類	左官の起源と定義、特徴と種類を理解します。また、左官の仕事に関する動画視聴し、どのような仕事なのかを理解します。	授業で視聴した動画に関する内容について、感想をまとめ、現代における左官の仕事を理解します。	60
12	プラスチック材料、塗料	プラスチック・塗料の特徴と種類を把握し、その用途と施工法を学びます。	ガラス・左官・プラスチックの材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	60
13	部位別・性能別材料	床・壁・天井仕上材の要求性能を、使用例を示し、設計する上での材料選択の要因を学びます。	設計製図で使用した二級建築士製図試験問題を確認し、授業で学修した材料がどのような部位に利用されているのかを把握します。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	部位別・性能別材料	防水・防火・耐火・断熱・防音・吸音材の要求性能を使用例を基に学習します。	設計製図で使用した二級建築士製図試験問題を確認し、授業で学修した材料がどのような部位に利用されているのかを把握します。 60
15	まとめと建築士試験対策	構造部材、外装材料、内装材料、屋根材料の材料特性を総まとめし、建築における材料学の位置付けの確認をします。また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築材料学の試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。	配布した資料を参考に、建築材料学で学修した内容を整理し、建築士対策問題を解き、理解を深めます。 120

平成31年度

<b>科目名</b>	建築施工	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	堀井 勝典		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	(1) 施工法の基礎的知識の理解 (2) 実際の建物(設計図・OHP・ビデオ)の紹介 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務める。		
<b>達成目標</b>	(1) 施工法の基礎的知識の理解 (2) 実際の建物(設計図・OHP・ビデオ)の紹介		
<b>受講資格</b>	人間生活学科建築デザインコース3年	<b>成績評価 方法</b>	出席(50%) 試験(50%)
<b>教科書</b>	建築施工教科書		
<b>参考書</b>	特に指定しないが、資料を配付する。		
<b>学生への要望</b>	とにかく授業に出ること		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日授業開始前(創学館2階教務部内非常勤講師室)、授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	序説	建築施工のあらまし、施工法の変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	契約と見積	建築の見積・契約等の流れについて	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	工事計画・管理	工事計画・管理等の説明	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	仮設工事	何も作らない工事としての認識	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	基礎工事	土工事、山留工事、基礎工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	鉄筋コンクリート工事	鉄筋工事、型枠工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	鉄筋コンクリート工事	コンクリートの性質、調合について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	鉄筋コンクリート工事	コンクリート工事の検査体制	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	鉄筋コンクリート工事	施工、各種コンクリート工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	鉄骨工事	工事作業、現場作業のあらまし	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	木工事	現場施工、各種工法の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について(その1)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について(その2)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	付帯設備工事	生活に必要な設備工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	まとめ	施工法のまとめ。補足説明。	授業内容、配付資料を整理し、ノートにまとめる。 60

<b>科目名</b>	統計学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	石原 正道			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	製品は一定の規格を満たすよう生産される。しかし個々の製品は基準値からのずれを有する。これらのずれを管理し一定の品質で供給するには統計学の知識が必要となる。また実社会で生じる様々な問題の原因を探索し解決する際には多変量解析などの手法が有効である。本講義では統計学を理解するための数学に始まり、基本的な統計処理や多変量解析について学ぶ。			
<b>達成目標</b>	本講義では、実際に統計学の手法を適用できるようになることを目的とする。具体的な目標は（１）統計学で必要な数学を理解すること、（２）生産管理で用いられる統計学の考え方を理解すること、（３）統計処理ソフトを用いて基本的な仮説検定や適合度の検定を行うことができること、である。			
<b>受講資格</b>	情報処理科目を履修してあることが望ましい。	<b>成績評価 方法</b>	成績評価はレポートと理解度確認ペーパーにより行う。レポートにより成績の80%を評価し、理解度確認ペーパーの提出により成績の20%を評価する。	
<b>教科書</b>	テキストを PDF として Web 上で配信する(同PDFの印刷物を授業時に配布する)。			
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村上 征勝, 工業統計学, 朝倉書店</li> <li>・前野 昌弘, 三國 彰, 図解でわかる統計解析, 日本実業出版社</li> <li>・涌井 良幸, 涌井 貞美, 図解でわかる多変量解析, 日本実業出版社</li> </ul>			
<b>学生への要望</b>	事前に配布資料に目を通しておき、理解できない部分を確認しておくこと。自ら参考書等にあたり、筆算による確認や統計処理を行ってほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	20
1	イントロダクション	本講義で行う目的・内容・単位数・成績評価方法など説明を行う。また次回以降の講義に向けて、単位と次元について学ぶ。	20
2	統計数学基礎 I (指数関数・数列と極限・和と和の記号)	統計処理を理解するには、基礎的な数学を理解しておく必要がある。正規分布を理解する上で必要な指数関数と指数法則、および多数のデータを扱う上で必要な数列と和について学ぶ。	45
3	統計数学基礎 II (確率)	統計の基礎には確率概念がある。確率の概念を理解するために、まず場合の数(順列と組合せ)を学ぶ。次に確率変数と確率の考え方を理解する。	90
4	統計数学基礎 III	基本的な統計量として平均値や標準偏差がある。これまで学んだ確率変数や確率の概念を用い、平均値の計算方法を学ぶ。さらに統計処理で重要な分散と標準偏差を理解し、具体的な計算方法を学ぶ。	90
5	統計数学基礎 IV (ベクトルと行列)	実際の統計処理ではデータをベクトルや行列により表現することが多い。統計処理を正しく行うためには、ベクトルや行列についての基礎事項を理解しておく必要がある。本時ではベクトルおよび行列の基礎事項について学ぶ。	90
6	統計数学基礎 V (行列の演算・逆行列・固有ベクトル・固有値)	行列の形式で表現されたデータからの特徴量などを抽出するために、行列の対角化が行われることが多い。対角化を理解するためには固有値や固有ベクトルの理解が欠かせない。そこで本時では、行列の演算に必要な逆行列および固有ベクトルと固有値について、これらの量がどのような意味を有するのか学ぶ。	90
7	統計処理ソフト	現在の統計処理では大量のデータを扱うため、コンピュータを用いてデータ処理を行う。これらの統計処理を行うソフトウェアは多々あるが、本講義では近年用いられていることの多い統計処理ソフトRを採用し、統計処理ソフトの使い方を学ぶ。ここではデータ処理を行う上で必須である、データの読み込みや特定行の取り出しなどの基礎的な扱いを学ぶ。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	データの種類と統計量	データには定性的なものや定量的なものがある。これらの区別(尺度水準)について学ぶ。また多くのデータがある場合に、データの特徴を掴む方法として計算によって得られる数値を利用する方法がある。良く用いられる数値に最頻値・中央値・平均値などがあり、これらの量は要約統計量と呼ばれている。ここでは複数の要約統計量の特徴を学び、要約統計量を算出する方法を学ぶ。さらに統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータの要約統計量を算出する。	本時の復習として、尺度水準と要約統計量の整理を行うこと。また統計処理ソフトウェアを用いて、サンプルデータの要約統計量を再計算してみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
9	不偏標準偏差・相関係数	中心極限定理から、統計学において正規分布は特別な意味をもつ。正規分布を特徴付ける平均値と標準偏差は、データからはデータの平均値と不偏標準偏差を計算することによって得られる。ここでは不偏標準偏差の意味とその算出方法を学ぶ。また分散を拡張した共分散を学び、さらに関係性の指標として重要な相関係数を学ぶ。また統計処理ソフトウェアを用いて、実際に要約統計量を算出してみることにする。	本時の復習として、不変標準偏差および共分散の定義を確認すること。またサンプルデータから相関係数を再計算してみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
10	ヒストグラム・散布図	数値データは直感的に分かりにくいことが多い。グラフを作成することでデータの内容を捉えやすくなる。ここでは統計処理ソフトウェアを用いてヒストグラムおよび(対)散布図の作成方法について学ぶ。また作成した図の保存方法なども学ぶ。	本時の復習として、統計処理ソフトウェアによりヒストグラムおよび散布図を再描画してみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
11	回帰	二つの変量間において関係があるか否かを知りたいことは多い。この関係を調べる際に用いられる方法が最小二乗法である。ここでは最小二乗法とはどのような考えに基づく方法であるのか、また使用する際の注意点はなにか学ぶ。さらに統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータに最小二乗法を適用し、回帰直線を求めることにする。	最小二乗法の考え方を復習し、統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータに最小二乗法を適用してみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
12	検定	仮説検定は統計学の中でも中心的な位置を占める。ここでは検定の考え方を学び、帰無仮説や有意水準の概念を理解する。仮説検定では正規分布が重要な役割を担うため、正規分布の形状はどのように定まっていたか復習する。また実際のデータで正規分布に基づく仮説検定を行う際に行うべき正規性のチェック方法を学ぶ。また統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータが正規分布に従うか確認する。	本時の復習として、帰無仮説および有意水準の考え方を再確認すること。またサンプルデータで正規性の確認を行ってみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
13	平均値の検定(パラメトリック検定)	データを得た場合に二つの群での平均値が一致しているか否かが問題となることが多い。しかし例え同一の集団から得られるデータであっても、データから得られる平均値は一致しない。このため二つの群の平均値が一致しているのか検討する必要がある。ここでは平均値の検定のうちパラメトリックな検定をデータに適用し、平均値の検定の仕方を学ぶ。実際に統計処理ソフトウェアを用いて平均値の検定を行うことにする。	本時の復習として、授業で行った検定を、再度自分で行い結果を確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
14	適合度の検定	理論と実験結果が一致しているか、あるいは二つの変量に相関があるかなどを知りたいことは多い。この際に用いられる方法が適合度の検定および独立性の検定である。ここでは適合度・独立性の検定の基礎的な考え方や、実際のデータへの適用の仕方を学ぶ。本時では、実際に統計処理ソフトウェアを用いて適合度の検定を行うことにする。	本時の復習として、適合度の検定の考え方を確認し、授業で行った検定を再度自分で行ってみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
15	統計処理結果の記述方法	統計処理を行った場合、どのような処理を行ったか、その結果どうであったかを適切に記述しなければならない。適切な情報伝達ができるように、統計処理に伴う文章の記述の仕方について学ぶ。また本時においてレポート課題を課す。	授業内容に則し、課題を実施しレポートとしてまとめること。

<b>科目名</b>	家庭電気・機械	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	石原 正道		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができている。しかし、これらの機器は利便性を与えるだけでなく、時には危険性も与える。そこで機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理および構造を学ぶ。		
<b>達成目標</b>	本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2) 機械の動作原理の理解すること、(3) 家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。		
<b>受講資格</b>	なし。	<b>成績評価 方法</b>	課題(理解度の確認) 2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。成績評価の観点から、1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。
<b>教科書</b>	適宜プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996)</li> <li>小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002)</li> <li>横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版 (1993)</li> </ul>		
<b>学生への要望</b>	基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 火曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	15
1	イントロダクション	講義の目的と内容・成績評価の方法などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習する。	15
2	基礎物理	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。状態の記述に必要な位置・速度・加速度の概念を復習したのち、運動の記述に必要な力や、保存則と関係する運動量・角運動量の基礎事項を学ぶ。	30
3	基礎物理および機械の構成要素	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。モーメント・仕事・仕事率・エネルギー・エネルギー保存則の基礎事項を学ぶ。これらの基礎事項を学んだのちに、機械の構成要素(道具やリンク機構)を学ぶ。本時では様々な道具を実際に触ることで道具への理解を深めることとする。またノギスやマイクロメーターを用いて様々な物体の長さ・厚さ・深さを測り、道具の使用方法を学ぶ。	60
4	機械の構成要素	機械の構成要素としてベルト・チェーン・歯車・軸などを学ぶ。また回転とモーメントの関係や仕事の原理とシーソーやギアなどの機構の関係を学ぶ。	30
5	熱力学基礎	人間は有限温度中で生活し、実生活では熱を扱う機会が多い。そのため機器でも熱を扱うものが多い。ここでは熱や温度とは何かを復習し、動作原理を理解するための基礎となる理想気体の状態方程式を理解することとする。また熱に関する基本的な法則である熱力学第一法則・第二法則についても概略を学ぶ。	60
6	熱を利用した機器	燃焼に関係する器具や機関について学ぶ。バーナーやヒーターといった気体や液体燃料を利用する燃焼器具、内燃機関と外燃機関の違い、内燃機関であるエンジンの基本動作などについて学ぶ。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	ヒートポンプ	実生活では温度を適切に調整することが必要な場合がある。ここでは熱力学の観点からヒートポンプの原理を理解し、ヒートポンプの特徴を学ぶ。とくに効率の観点からヒートポンプの優位性を理解し、ヒートポンプの利用例を知ることとする。	本時の復習として、ヒートポンプのサイクルにおける各過程での熱の出入り及び温度の高低を再確認すること。またヒートポンプの特徴を再確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
8	冷蔵庫	現代の家庭では、冷蔵庫は必須の電気機器である。冷蔵庫はヒートポンプを応用した冷蔵庫のほか、様々なタイプの冷蔵庫があることを学ぶ。また、それぞれの冷蔵庫の冷却原理について学び、どのような特徴があり、どのような場所で使用されているのか学ぶ。	復習として、冷却方法を整理すること。また電気冷蔵庫の冷却方法とヒートポンプのサイクルにおける過程を対応をまとめてみる。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
9	課題 1	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。
10	電磁気の基礎	日常機器の殆どは電気を利用して動作する。このため日常機器の動作を理解するには電磁気的基本的な性質を理解しておく必要がある。ここでは電気・磁気・電磁波などの電磁気の基礎的な概念や性質を学ぶ。	本時の復習として、電気と磁気の関係や電磁気学における各種法則について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
11	電力生成	電気エネルギーは便利なエネルギー形態である。しかし現在の技術では、多くの電気によるエネルギーを蓄えておくことは容易でない。このため、必要に応じて他のエネルギーを電気エネルギー(電力)に変換する必要がある。電力は発電所で作られていると考えがちであるが、家庭でも電力を生成することがある。電気を利用した機器を理解するため、ここでは電力の生成方法について学ぶ。	本時の予習として、本授業の前半で学んだエネルギー保存則を確認しておくこと。本時の復習として、電力生成を電磁気学の基本法則で説明できるよう、電力生成の原理を確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
12	電磁気を利用した調理システム	家庭における電磁気を利用した器具に調理器がある。ここでは電気あるいは磁気を利用した調理器である、電磁調理器(IH)・電気炊飯器・電子レンジの動作原理を学ぶ。動作原理を知ること、これらの機器の危険な面も理解することとする。	本時の復習として、誘導加熱と誘電加熱の原理を確認すること。また両加熱方法の違いを確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
13	電気を利用した発光システム	現代社会において灯りは必須のものである。ここでは光を供給する電球・蛍光灯および近年使用されることの多い、Light Emitting Diode(LED)の仕組みを学ぶ。それぞれの製品の特徴を掴み、適切な使用ができるよう理解をはかる。本時では圧電素子や電子レンジを利用して蛍光灯を光らせる簡易実験を行い、蛍光灯の発光原理を理解する。また本簡易実験により、前回の授業で学んだ電子レンジの加熱原理を確認する。	本時の復習として、発光原理とエネルギーの利用効率について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
14	液晶と情報の記録	液晶が実用化されたことで、ディスプレイなどの厚さは極めて薄くなり取り扱いが簡単になった。ここでは広く用いられている液晶の原理を学び、液晶がどのような機器に用いられているか学ぶ。また、これまで情報を記録するには紙媒体が使用されてきたが、コンピュータの普及に伴い、情報を電子媒体に記録されることが増えてきている。ここでは情報の記録方法について、機械と磁気の観点から学ぶこととする。	本時の復習として、本時で説明したデータ保存用の機器の実物を、Webなどで確認すること。またその際に示されている接頭辞を確認すること(接頭辞は本授業当初の説明事項である)。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
15	課題2	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。

<b>科目名</b>	人間環境学		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 志保			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	生命の維持には空気・水・食品の摂取が必須であることから、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。具体的な環境汚染例としては、ダイオキシン等の有機塩素系化合物や、水俣病の原因物質であるメチル水銀、そして発がん性マイコトキシンであるアフラトキシン、催奇形性でよく知られた医薬品のサリドマイドを事例として、毒性物質の作用機序について、栄養素の代謝などと比較して、学んでいく。			
<b>達成目標</b>	この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて実生活にあてはめ考えていくことを目標としている。			
<b>受講資格</b>	特になし	<b>成績評価 方法</b>	①期末試験100点	
<b>教科書</b>	印刷資料提供			
<b>参考書</b>	薬理学関係の書物			
<b>学生への要望</b>	健康生活に必須である生活環境と食品の問題点について学び、実生活中に生かしてもらいたい。			
<b>オフィスタイト</b>	火曜日のIコマ目からIVコマ目 食品衛生学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	金属元素	食品汚染が問題となった公害として、水俣病・新潟水俣病（メチル水銀）、イタイイタイ病（カドミウム）、ヒ素ミルク事件（ヒ素）がある。環境問題の原点である水俣病の記録映像をまじえて、公害問題について学ぶ。	日本の公害問題にどのようなものがあるのか調べる。
2	食品と金属元素	栄養金属元素（K, Na, P, Cl）、毒性金属元素（Hg, As, Cd, pb）、重金属の生体内挙動、食品に含まれる金属とその量、TDI（耐用一日摂取量について学ぶ。	特に日本の環境問題の原点である水俣病と、特に毒性金属元素と人体影響について調べる。
3	有機塩素系芳香族化合物	農薬の人体傷害である殺虫剤（DDT, BHC）、除草剤（PCP, 2, 4, 5-T, GNP）、殺菌剤（クロルフェノール）とPCB、ダイオキシンで知られている有機塩素系芳香族化合物による人体傷害について学び、問題点について考える。	農薬の中の有機塩素系芳香族化合物と人体障害性や問題点について調べる。
4	食品と有機塩素系芳香族化合物	化学物質の特徴、塩素化による化学変化、有機塩素系芳香族化合物の生体内挙動、多様な毒性、食品中に含有する有機塩素系化学物質とその量について学ぶ。	有機塩素系芳香族化合物の塩素化による化学変化、生体内挙動、毒性、食品中に含有する有機塩素系芳香族化合物の量について調べる。
5	大量使用による化合物汚染	人間生活で大量に使用されている化学物質の環境と人体への影響について、大気・水質・土壌汚染の具体的な事例から問題点を学ぶ。	生活の中で多用されている化学物質と環境影響について調べる。
6	免疫機構と食物アレルギー	免疫機構（免疫組織、T細胞、体液性免疫、細胞性免疫、樹状細胞）と食物アレルギーについて学ぶ。	食物アレルギーとヒトの免疫機構について調べる。
7	食品への健康影響	食品の空気酸化（果物の褐変、魚肉の黒ずみ、高度不飽和脂肪酸の過酸化、小麦の酸化と食品添加物の酸化防止剤）と野菜と土壌肥料（野菜栽培上の要素欠乏と過剰）について学ぶ。	食品の空気酸化について調べる。
8	水と調理1	上水道の役割と問題点、原水浄化法、塩素消毒による発ガン性化合物トリハロメタンについて学ぶ。	自分たちが日常使用している上水道の水源と水源とその地域の産業の問題、原水を塩素処理する時の問題点について調べる。
9	水と調理2	水道水の製造、トリハロメタンの発生機構と除去方法、生活排水と下水処理について学ぶ。	水道水の製造時に発生する発ガン性化合物のトリハロメタンについて調べる。
10	サリドマイド1	サリドマイドベビーに関するスウェーデンの記録映像から、催奇形とその発現機構について詳細に学ぶ。	催奇形について調べる。
11	サリドマイド2	胎盤血管閉門に関する知識を身につけ、各種化学物質の催奇形性に関する資料を参考に妊娠と医薬品について考える。	妊娠期と医薬品について、投薬時の留意点やどんな問題があるのか調べる。
12	内分泌攪乱化学物質	ペプチドホルモンと低分子ホルモン（甲状腺ホルモン・ステロイドホルモン）、それらのホルモンの情報伝達方法、低分子ホルモンの類似物質である内分泌攪乱化学物質について学ぶ。	ホルモンの働き、内分泌かく乱がなぜ起こるのか調べる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	遺伝子操作作物と狂牛病	遺伝子操作作物（GMO）の実態と食品表示、GMOが生産したタンパク質が問題となる理由について学ぶ。また、狂牛病の病原物質である病原物質プリオンについて学ぶ。	遺伝子組み換え作物の現状、食品表示のルールを調べる。また、狂牛病について調べる。
14	生体と化学物質1（毒素）	毒素の作用機構、受容体での結合、毒素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。	毒素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。
15	生体と化学物質2（栄養素）	栄養素の作用機構、受容体での結合、栄養素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。	栄養素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。

科目名	人間環境学実験	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 1単位 選択
担当教員	影山 志保		
開講期	前期		
授業概要	人間の生命の維持には空気・食品・水の摂取が必須であり、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。この実験では生活環境の測定と評価、水の分析、体に付着している微生物、放射線の問題および食品腐敗微生物といった様々なテーマから人間環境を相対的に考えていく。		
達成目標	この実験では私たちと私たちを取り巻く環境を実際に測定し、対象に対する理解を深め、問題点を明らかにし、解決法を考え提案することを目標としている。		
受講資格	なし	成績評価 方法	①レポート20点 ②プレゼンテーション80点
教科書	印刷資料配布		
参考書	①水の分析 日本分析化学会北海道支部編（化学同人） ②環境微生物の測定と評価 山崎省二編（オーム社） ③カラーアトラス環境微生物 山崎省二編（オーム社）		
学生への要望	分析機器類、薬品やガス、環境中の微生物や毒性物質を取り扱うため、白衣を着用し機敏な行動をしてもらいたい。なお、実習にはPCを持参すること。実習室内には実習に使用しない物品などは持ち込まない。実習室での飲食は禁止する。実習終了後は実習室の清掃をお願いしたい。		
オフィスタイム	火曜日 I コマ目からIVコマ目 食品衛生学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	人間環境学実験では生活環境である空気・水・土壌、食品と人に注目し、生活環境を汚染している環境汚染物質や食品が人間の健康にどのような問題を起こすのかについて、実際の測定を通して考えていく。ガイダンスでは授業内容の説明、実験方法の説明、機器使用方法の説明、成績評価方法についての説明を行う。	30
2	生活環境の測定と評価-1 (空中・土中微生物採取と培養、粉塵測定、放射線測定)	環境中には細菌、真菌、ウイルスなどの多種多様な微生物が存在しており、空気中浮遊粉じんの吸入では肺の病気や細菌感染症、ぜんそくや気管支炎、花粉症が生じることがあることから、私たちの生活環境中の粉塵の測定と、どんな微生物が生息しているかについて調べる。併せて放射線量についても測定する。まずこの時間は空中・土中微生物の採取の培養を行う。採取した土壌は風乾し、放射線測定の試料とする。測定項目についてその測定意義と分析値についてはその都度説明する。	30
3	生活環境の測定と評価-2 (空中・土中微生物採取と培養、粉塵測定、放射線測定)	前回採取した粉塵や土壌の放射線量の測定を行う。まず、風乾土壌を0.5 μmの篩でふるい、ゲルマニウム半導体検出器で放射線測定を行う。測定項目についてその測定意義と分析値についてはその都度説明する。	30
4	生活環境の測定と評価-3 (空中・土中微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	30
5	生活環境の測定と評価-4 (空中・土中微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	30
6	生活環境の測定と評価-5 (空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の評価)	空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の結果を解析し、その関連性について考える。	30
7	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う	30
8	発表会	空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の結果を中心にプレゼンテーションを行う。	30
9	水-1 (水の分析)	水は我々の生活に欠かせない物質であり、生活用水、工業用水、農業および漁業などの多方面にわたって利用されている。我々が利用する水は循環しており、その中には天然水、排水および下水も含まれることから、私たちは水質について十分に知っておく必要がある。身近な水を採取し、物理的性質（pH、水温、透視度、濁度、電気伝導率、溶存酸素、塩分濃度）、化学的性質（COD、アンモニア窒素、亜硝酸イオン、硝酸イオン、リン酸イオン）、一般細菌および大腸菌数の計測について行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	水-2 (水の分析)	引き続き採取した水の物理的性質 (pH、水温、透視度、濁度、電気伝導率、溶存酸素、塩分濃度)、化学的性質 (COD、アンモニア窒素、亜硝酸イオン、硝酸イオン、リン酸イオン)、一般細菌および大腸菌数の計測について行う。	30
11	水-3 (水中微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。	30
12	水-4 (水虫微生物の観察)	微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。	30
13	水-5 (水の評価)	水分析の結果と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。	30
14	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う	30
15	発表会	水と水中微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。	30
16	人体付着微生物-1 (付着微生物の採取と培養)	人体や衣類に付着している微生物 (細菌・かび) を培養するにあたり、トリプチケースソイブrosを作成する。ここでは器具や培地を無菌的に作るために、無菌操作や滅菌の手法について学ぶ。また、人体や衣類に付着している微生物 (細菌・かび) をスタンプ法により採取し培養する。	30
17	人体付着微生物-2 (付着微生物の採取と培養)	人体や衣類に付着している微生物 (細菌・かび) をスタンプ法により採取し培養する。	30
18	人体付着微生物-3 (付着微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。	30
19	人体付着微生物-2 (付着微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。	30
20	人体付着微生物-3 (付着微生物の評価)	人体付着微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。	30
21	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う	30
22	発表会	人体付着微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。	30
23	食品腐敗微生物-1 (食品中の微生物の培養)	食品中の生菌数は食中毒と品質劣化 (腐敗) の重要な指標となる。食中毒は、微生物が食品中で増殖または毒素を生産した食品を人が摂食することで起こるが、汚染され病原微生物の中には、少ない菌数で食中毒を引き起こす食中毒菌もある。この実験授業では、腐敗した食品を0.9%滅菌生理食塩水中に懸濁したあと、懸濁液1mlをトリプトソーヤ寒天培地中に混釈し、37°C 48時間培養後、食品中の生菌数を計測する。	30
24	食品腐敗微生物-2 (食品中の微生物の培養)	腐敗した食品を0.9%滅菌生理食塩水中に懸濁したあと、懸濁液1mlをトリプトソーヤ寒天培地中に混釈し、37°C 48時間培養する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
25	食品腐敗微生物-3 (食品腐敗微生物数の計測と観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。	30
26	食品腐敗微生物-4 (食品腐敗微生物の観察)	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定 (グラム染色、顕微鏡観察) を行う。	30
27	食品腐敗微生物-5 (食品腐敗微生物の評価)	食品中の微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。	30
28	食品腐敗微生物-6 (食品腐敗微生物の評価)	食品中の微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。	30
29	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う	30
30	発表会	食品腐敗微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。	30

<b>科目名</b>	色彩学	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	松田 理香		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目的・ねらい】 色彩の基礎を学びます。物理的側面と心理的、生理的側面を概観しながら、日常生活における色彩の役割について学びます。</p> <p>【授業の概要】 色が見えるとは、色の役割、色の分類や名前、心理効果、配色などについて解説します。毎授業の最後に簡単な確認問題に取り組みます。また色相やトーン体系を理解するために、色材を使った混色演習や、配色カードを用いた課題に取り組むとともに、色覚弱者についても学びます。</p>		
<b>達成目標</b>	色彩に関する知識（検定試験3級程度）を身につけることを目標とします。		
<b>受講資格</b>	地域創成学科 1年生	<b>成績評価 方法</b>	確認問題(60点)、演習課題(40点)で総合的に評価しますが、講義内容の7割程度の理解を期待します。
<b>教科書</b>	ありません。 各單元ごとに資料を配布します。		
<b>参考書</b>	<p>○演習課題で使用する資料 (資料についてのガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本色彩研究所監修 ①新基本色表シリーズ4 (PCCS) ②新配色カード199a</li> </ul> <p>○参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩学概説(千々岩英彰著:東京大学出版)</li> <li>・カラーマスターベーシック(NPO法人アデック出版局/色彩士検定参考書)他</li> </ul>		
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で色彩が果たす役割について考えてください。</li> <li>・演習課題で使用する筆や絵具、カッター、のりなどは各自で準備してください。(画材のガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します)</li> </ul>		
<b>オフィスタイム</b>	<p>月曜日 II～IVコマ 木曜日 IIコマ 金曜日 I・II・IVコマ 場所: No.1生芸研究室(名称変更の場合あり)</p>		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	1. 授業の目的と進行について説明する。 2. 色を見るとはどういうことか、色の役割などについて考える。	ガイダンスで配布された資料をもとに生活の中にある色の役割を考える。 30
2	講義: 色のなりたち(1)	1. 色を感じる経路 2. 光 3. 物体の色	色が見える仕組みや光とは何かについての理解を深める。 60
3	講義: 色のなりたち(2)	4. 色を見るための光源 5. 色の分類 6. 目の構造と視細胞 ※確認問題	目の構造について配布資料や確認問題を参考にして理解を深める。 60
4	講義: 混色	1. 混色と等色 2. 三原色 3. 加法混色 4. 減法混色	混色について配布資料や確認問題を参考にして理解を深める。 60
5	講義: 色の表示方法(1)	1. 表示方法の分類 2. 色名による表示	色の表示方法について配布資料を参考にして理解を深める。特に、色名による表示と表色系についての学習を行う。 60
6	講義: 色の表示方法(2)	3. PCCS(日本色研配色体系) 4. マンセルシステム	色の表示方法について配布資料を参考にして理解を深める。特に、PCCSやマンセルシステムなど、色彩を体系的に捉えて学習する。 60
7	演習: 課題1(1)	【課題1】色材の混色と着色(1) ※不透明絵具、マスキングテープを使用	色材や作業道具の特性を知り、混色についての理解を深める。 120
8	演習: 課題1(2)	【課題1】色材の混色と着色(2) ※不透明絵具、マスキングテープを使用	色材や作業道具の特性を知り、混色についての理解を深める。 120
9	講義: 色の心理効果	1. 色の感情効果 2. 色のイメージ(心象) 3. 色の意味的作用/連想 ※確認問題	色の感情効果について配布資料や確認問題も参考にして理解を深める。 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	講義：色彩調和 (1)	1. 配色と色彩調和 2. 色彩調和の原理 3. 色彩調和の形式 4. 配色の基本的な考え方 5. 色相を基準にした配色	60
11	講義：色彩調和 (2)	6. トーンを基準にした配色 7. 基本的な配色技法 8. 慣習的な配色技法 9. 秩序の原理による配色の形式 10. 配色とイメージ ※確認問題	60
12	演習：課題2	【課題2】PCCS色相とトーン 新配色カード199aを用いて以下の台紙を完成させる。 ①PCCSトーン別色相環 ②PCCS色相・トーン一覧表 ③色の心理効果	120
13	演習：課題3	【課題3】配色演習 新配色カード199aを用いて配色演習を行う。 ①色相を基準にした配色 ②トーンを基準にした配色 ③配色技法	60
14	講義：色のユニバーサルデザイン	1. 色弱者の見え方 2. 高齢者の見え方 3. ユニバーサルデザイン 4. 見えづらい例と改善例	60
15	まとめ	1. 講義のまとめ 2. 演習課題のまとめ 3. その他 色彩に関する検定試験について	30

<b>科目名</b>	福祉住環境	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建 築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	医療や福祉、建築について体系的で幅広い知識と専門能力を身に付け、高齢者や障がい者に対して住みやすい住環境を提案する能力を養 う。		
<b>達成目標</b>	クライアントに適切な住宅改修プランを提示することができる能力と福祉用具や諸施策情報などについても助言できるような知識身に 付ける。		
<b>受講資格</b>	人間生活学科 生活総合コース・建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	①期末試験80% ②確認テスト20%
<b>教科書</b>	福祉住環境コーディネーター新版公式テキスト		
<b>参考書</b>	その都度、提示する。		
<b>学生への要望</b>	予習・復習をして授業に臨むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜IV時限(14:30~16:00) 水曜IV時限(14:30~16:00)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	授業内容の説明。 福祉住環境コーディネーターの役割について。 住環境整備の留意点。	住環境整備の留意点を整理する。 60
2	高齢者・障がい者を取り巻く環境1	総人口や世帯数、高齢化率の推移等を把握する。また、改正介護保険制度に関する内容を改正点も踏まえつつ具体的なサービスの種類などについて学ぶ。さらに住宅施策の変遷や具体的な住宅施策についても世代別に名称や内容を理解する。	介護保険制度について理解を深める。 60
3	高齢者・障がい者を取り巻く環境2	障がい別の障がい者数や在宅・施設の割合、身体障がい者のバリアフリー化の状況について把握する。また、障がい者自立支援法にもとづくサービスの概要について理解し、障がい者向け住宅施策の変遷の概要と建設行政と福祉行政のおおまかな流れについて学ぶ。	高齢者・障がい者を取り巻く環境を理解する。 60
4	障がいの定義・捉え方と自立支援1	障がいの捉え方・リハビリテーションと自立支援について学ぶ。特に、リハビリテーションのあり方をはじめ、地域ケア、地域リハビリテーションの必要性について理解する。	地域ケア、地域リハビリテーションの重要性を理解する。 60
5	障がいの定義・捉え方と自立支援2	高齢者や障がい者の身体的、精神的特性、心理的特性について理解する。	高齢者および障がい者の特性について理解する。 60
6	疾患別・障がい別にみた不自由と住環境整備1	運動機能や記憶力、知能などが加齢とともにどのように変化するのかを理解する。	疾患別に見た住環境について理解を深める。 60
7	疾患別・障がい別にみた不自由と住環境整備2	高齢者の疾患について学ぶ。また、要介護状態の要因といわれる脳血管障害や廃用症候群、認知症などについて、よく理解する。	高齢者の疾患と住環境について理解を深める。 60
8	疾患別・障がい別にみた不自由と住環境整備3	肢体不自由の脊椎損傷、内部障害、視覚障害、聴覚言語障害について学び、各障がい別の不便・不自由を理解することで、住環境整備の留意点を理解する。	疾患別・障がい別に見た住環境整備について理解を深める。 60
9	在宅での福祉用具の活用	福祉用具の定義をはじめ、福祉用具の選択や適応における基本姿勢について学ぶ。また、各用具の目的、構造、種類を学び、住宅改修と福祉用具を併用することでより快適な住環境を実現できることを理解する。	福祉用具の種類や選択について理解し、住環境整備との併用について考える。 60
10	相談援助と福祉住環境整備	相談援助の基本的な考え方を踏まえ、より実践的な福祉住環境整備相談の進め方について学ぶ。	住環境整備を実践につなげるための基本的考え方について理解を深める。 60
11	福祉住環境整備の技術と実践1	福祉用具を活用しながら体験学習を行い、住環境整備を実現するための知識を養う。	福祉用具を活用し、体験学習した内容についてレポートにまとめる。 180
12	福祉住環境整備の技術と実践2	段差解消の手法や建具や把手の種類、スペースの配慮など、住環境整備の基本技術を理解する。	住環境整備の基本技術と方策について理解する。 60
13	福祉住環境整備の技術と実践3	外出から就寝までに関わる住環境整備について学ぶ。動作別にどのような配慮が必要となるのか、住環境整備の視点から考察する。	動作別に住環境整備の配慮点について整理する。 60
14	福祉住環境整備の技術と実践4	排泄や入浴動作などに関連する水回りの住環境整備について学ぶ。	水回りの住環境整備についてその配慮点を整理する。 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	現代社会に望まれる住環境とは	これまでに学んだことを通して、住環境整備とその必要性についてディスカッション・説明を行った後、ペーパーテストを行う。また、ペーパーテストの解説も行う。	社会的問題と福祉住環境整備の必要性について考察する。 120

<b>科目名</b>	建築設計製図Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学学科建築デザインコース 1年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	建築の設計には、たくさんの図面が必要です。本授業では図面の重要性を認識し、プランニングや模型制作を通して、建築設計における基礎的な製図の力や空間を考える能力を伸ばします。このことにより、立体感や創造力を身につけることを目的とします。また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけて下さい。		
<b>達成目標</b>	①製図用具の基本的取り扱いが習得できたか。 ②基礎的な図面表現を理解できたか。 ③住宅の基本モジュールを理解し、応用することができたか。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース1年生	<b>成績評価 方法</b>	製図及び模型等の課題提出80%、授業への取り組み、意欲20%
<b>教科書</b>	『新しい建築の製図』学芸出版社 その他、適宜プリントや参考図面を配布します。		
<b>参考書</b>	住宅雑誌等		
<b>学生への要望</b>	作品の提出期限を厳守してください。自宅や本学製図室で制作することを心がけてください。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日8:50~10:20 木曜日10:30~12:00 山形・阿部：本館3F No.1 住居学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	授業ガイダンス 課題1「線の練習、文字の練習」	ガイダンス（授業目標等） これからの授業のすすめ方、建築設計製図室や製図台の使用法やルール、製図用具の購入方法等について説明する。また、設計図の種類やそれぞれの役割、図面制作にあたって必要な心構えについて述べる。図面には「正確・速さ・綺麗」が要求されることを理解する。 課題説明・作図・レタリング 担当：山形・阿部・長田※他の授業との関係から担当教員は最低2名以上で指導する。	課題1作成
2	課題1「線の練習、文字の練習」	課題説明・作図・レタリング 製図における横線、縦線、斜線等の線の書き方の要領を平行定規や三角定規の使い方、シャープペンの持ち方等から理解し把握する。ケント紙とトレーシングペーパーの両方に描いてみることで、それぞれの違いを知る。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成
3	課題1「線の練習、文字の練習」	作図・レタリング 製図における横線、縦線、斜線等の線の書き方の要領を平行定規や三角定規の使い方、シャープペンの持ち方等から理解し把握する。ケント紙とトレーシングペーパーの両方に描いてみることで、それぞれの違いを知る。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成
4	課題1「線の練習、文字の練習」	作図・レタリング 製図における横線、縦線、斜線等の線の書き方の要領を平行定規や三角定規の使い方、シャープペンの持ち方等から理解し把握する。ケント紙とトレーシングペーパーの両方に描いてみることで、それぞれの違いを知る。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成
5	課題1「線の練習、文字の練習」	作図・レタリング 前授業に引き続き、線の練習を行う。さらに、製図文字の基本、テンプレートや字消し板の使い方を学ぶ。また、次回の授業で行うダイヤモンドリングの描きかたについて解説する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成
6	課題1「線の練習、文字の練習」提出	作図・レタリング・提出 前授業に引き続き、線の練習を行う。さらに、製図文字の基本、テンプレートや字消し板の使い方を学ぶ。また、次回の授業で行うダイヤモンドリングの描きかたについて解説する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	課題2 「ダイヤモンドリング制作」	課題説明・作図 線の練習のため、ダイヤモンドリングを制作する。コンパスで正確に円を等分することと、均一で強い線であれば、ダイヤモンドリングが綺麗に完成しないことを把握する。 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 60
8	課題2 「ダイヤモンドリング制作」	課題説明・作図 線の練習のため、ダイヤモンドリングを制作する。コンパスで正確に円を等分することと、均一で強い線であれば、ダイヤモンドリングが綺麗に完成しないことを把握する。 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 120
9	課題2 「ダイヤモンドリング制作」	作図・提出 前授業に引き続き、ダイヤモンドリングを制作し提出する。提出期限を厳守する。 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 120
10	課題3 「木造住宅トレース」	課題説明・平面図兼配置図、立面図、断面図作成 木造住宅（S=1/100）の平面図の描き方について説明する。建築基準法等（隣地境界線、建物の高さ、材料等）の関連や耐力壁等の構造面についても理解する。 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 60
11	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修する。	見学会レポート作成 60
12	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修する。	見学会レポート作成 60
13	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 木造住宅（S=1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 60
14	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 60
15	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 120
16	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 木造住宅（S=1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 120
17	課題3 「木造住宅トレース」	平面図兼配置図、立面図、断面図作成 木造住宅（S=1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 120
18	課題3 「木造住宅トレース」提出	平面図兼配置図、立面図、断面図作成・提出 木造住宅（S=1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 120
19	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	課題説明・エスキスチェック 平面を組み合わせることで立体物を創造する。造形的視点を養い、今後の設計課題で模型を製作できるように建築模型材料と道具の使い方を学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 60
20	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	エスキスチェック・模型製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス 60
21	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	エスキスチェック・模型製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス 120
22	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	エスキスチェック・模型製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・模型製作 120
23	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」	エスキスチェック・模型製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・模型製作 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
24	課題4 「造形制作演習 平面の組み合わせ」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・模型製作 120
25	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	課題説明・読書・エスキス 文学作品を読み、文章から住宅に関わるキーワードを抽出して空間を創造する。文字情報から空間を読み解く力を養う。 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 読書 60
26	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	読書・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 読書・エスキス 60
27	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	読書・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 読書・エスキス 120
28	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	読書・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 読書・エスキス 120
29	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」	読書・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 読書・エスキス・図面作図 120
30	課題5 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」提出	平面図作成・提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 読書・エスキス・図面作図 120

<b>科目名</b>	建築設計製図Ⅱ		<b>対象 単位数</b> 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 8単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明, 阿部 恵利子, 長田 城治			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	前期では、二級建築士程度の図面を時間内で設計し、完成させる能力を身につけることを目標とします。後期では、一級建築士製図試験問題を通して、鉄筋コンクリート造の概要を理解することと、オリジナルの一級建築士設計製図問題程度の図面を作成する力を養います。次にCADの基本操作を学び、オリジナル設計をCADで仕上げることを目標とします。また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけて下さい。			
<b>達成目標</b>	①二級建築士製図試験内容程度の木構造、鉄筋コンクリート構造の図面を時間内に完成させることができたか。 ②一級建築士製図試験内容程度の鉄筋コンクリート構造の図面を時間内に完成させることができたか。 ③CADで基礎的な図面を仕上げることができたか。			
<b>受講資格</b>	建築デザインコース2年	<b>成績評価 方法</b>	製図及び模型等の課題提出80%、授業への取り組み、意欲20%	
<b>教科書</b>	『新しい建築の製図』学芸出版社『コンパクト建築設計資料集』日本建築学会、彰国社 その他プリントを配布			
<b>参考書</b>	住宅雑誌等			
<b>学生への要望</b>	空き時間に製図を描く練習をするように心がけて下さい。			
<b>オフィスタイム</b>	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14：30～16：00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10：30～12：00 山形・阿部：本館3F No.1 住居学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス	ガイダンス（前期授業目標等） これからの授業のすすめ方、課題への取り組み方について説明する。また、設計図の種類やそれぞれの役割、図面制作にあたって必要な心構えについて述べる。図面には「正確・速さ・綺麗」が要求されることを理解する。 担当：山形・阿部・長田※担当教員は最低2名以上で指導する。	課題1作成	60
2	課題1 「透視図」提出	透視図作成・提出 透視図の作成方法を習得する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成	60
3	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題2作成	60
4	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題2作成	60
5	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題2作成	120
6	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題2作成	120
7	課題2 「木造住宅トレース」	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題2作成	120
8	課題2 「木造住宅トレース」提出	図面作成・提出 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題2作成	120
9	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	課題説明・エスキスチェック 二級建築士試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	エスキスチェック 二級建築試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス 60
11	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	エスキスチェック 二級建築試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス 60
12	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	エスキスチェック 二級建築試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 作図 60
13	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 作図 60
14	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 作図 60
15	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 作図 120
16	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 作図 120
17	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」	平面図、立面図、矩計図の作成 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 作図 120
18	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」提出	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 作図 120
19	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学	見学会レポート作成 60
20	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学	見学会レポート作成 60
21	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」	課題説明・平面図、立面図、矩計図の作成 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 120
22	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 120
23	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 120
24	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」提出	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 120
25	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	課題説明・平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。 縮尺に沿った図面表記方法を身につける。 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 60
26	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。 縮尺に沿った図面表記方法を身につける。 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 60
27	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。 縮尺に沿った図面表記方法を身につける。 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
28	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。 縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 120
29	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。 縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 120
30	課題5 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」提出	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。 縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 120
31	授業ガイダンス・課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	ガイダンス（後期授業目標等）・課題説明 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 60
32	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 60
33	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 60
34	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 60
35	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 120
36	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 120
37	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 120
38	課題6 「RC造ラーメン構造トレース」提出	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 120
39	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修	見学会レポート作成 60
40	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修	見学会レポート作成 60
41	課題7 「造形創造演習」	課題説明・エスキス 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。 担当：山形・阿部・長田	課題7作成 エスキス 120
42	課題7 「造形創造演習」	エスキスチェック 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。 担当：山形・阿部・長田	課題7作成 エスキス 120
43	課題7 「造形創造演習」	エスキスチェック 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。 担当：山形・阿部・長田	課題7作成 エスキス・模型製作 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
44	課題7 「造形創造演習」 提出	提出・プレゼンテーション 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法 で造形物を想像できるよう訓練を行う。 担当：山形・阿部・長田	課題7作成 模型製作 120
45	課題8 「複合施設トレース」	課題説明・図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記 方法を習得する。 担当：山形・阿部・長田	課題8作成 120
46	課題8 「複合施設トレース」	図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記 方法を習得する。 担当：山形・阿部・長田	課題8作成 120
47	課題8 「複合施設トレース」	図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記 方法を習得する。 担当：山形・阿部・長田	課題8作成 120
48	課題8 「複合施設トレース」 提出	図面作成・提出 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記 方法を習得する。 担当：山形・阿部・長田	課題8作成 120
49	課題9 「複合施設オリジナル設計」	課題説明・資料収集 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設 計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題9作成 エスキス 60
50	課題9 「複合施設オリジナル設計」	資料収集・エスキスチェック 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設 計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題9作成 エスキス 60
51	課題9 「複合施設オリジナル設計」	資料収集・エスキスチェック 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設 計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題9作成 エスキス 120
52	課題9 「複合施設オリジナル設計」	エスキス・図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設 計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題9作成 エスキス・図面作図 120
53	課題9 「複合施設オリジナル設計」	図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設 計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題9作成 図面作図 120
54	課題9 「複合施設オリジナル設計」 提出	図面作成・提出 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設 計し、各種図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題9作成 図面作図 120
55	課題10 「デジタルデザイン演習」	課題説明・CADの操作方法 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面 を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題10作成 CAD作図 60
56	課題10 「デジタルデザイン演習」	CADの操作方法 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面 を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題10作成 CAD作図 60
57	課題10 「デジタルデザイン演習」	CADの操作方法 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面 を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題10作成 CAD作図 120
58	課題10 「デジタルデザイン演習」	図面作成 (CAD) Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面 を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題10作成 CAD作図 120
59	課題10 「デジタルデザイン演習」	図面作成 (CAD) Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面 を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題10作成 CAD作図 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
60	課題10 「デジタルデザイン演習」提出	図面作成 (CAD) ・提出 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題10作成 CAD作図 120

<b>科目名</b>	建築設計製図Ⅲ		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 10単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明, 阿部 恵利子, 長田 城治			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	建築設計製図Ⅲでは、建築設計製図Ⅱで修得した時間内で設計をまとめる力を伸ばします。さらに、オリジナル設計を通して、手書きやCADでのプレゼンテーション（表現力）テクニックを身につけることを主目的とします。 また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけて下さい。			
<b>達成目標</b>	①建築構造、計画、法規上の制限を満たしたオリジナル設計ができているか。 ②設計課題に基づいたオリジナル設計を期限内に完成することができたか。 ③プレゼンテーション用の図面を完成させることができたか。			
<b>受講資格</b>	建築デザインコース 3年	<b>成績評価 方法</b>	製図及び模型等の課題提出80%、授業への取り組み（二級建築士試験対策問題を含む）20%。	
<b>教科書</b>	『新しい建築の製図』学芸出版社			
<b>参考書</b>	住宅雑誌、新建築など			
<b>学生への要望</b>	各種建築の見学や雑誌等で近年の建築を研究することを習慣づけてください。			
<b>オフィスタイム</b>	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14：30～16：00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10：30～12：00 山形・阿部：本館3F No.1 住居学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	授業ガイダンス・課題1「女性が考える理想住宅」	ガイダンス（前期授業目標等）・課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田※担当教員は最低2名以上で指導する。	課題1作成 エスキス・資料収集	60
2	課題1「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・資料収集 二級建築士対策問題	90
3	課題1「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・資料収集 二級建築士対策問題	90
4	課題1「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-1】	課題1作成 エスキス・資料収集	60
5	課題1「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・資料収集 二級建築士対策問題	90
6	課題1「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・資料収集 二級建築士対策問題	90
7	課題1「女性が考える理想住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-2】	課題1作成 エスキス・資料収集	60
8	課題1「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作 二級建築士対策問題	90
9	課題1「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作 二級建築士対策問題	90
10	課題1「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-3】	課題1作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作	60
11	課題1「女性が考える理想住宅」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作 二級建築士対策問題	90
12	課題1「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作 二級建築士対策問題	90
13	課題1「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-4】	課題1作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作	60
14	課題1「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作	60
15	課題1「女性が考える理想住宅」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成	120
16	課題1「女性が考える理想住宅」	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成	120
17	課題1「女性が考える理想住宅」提出	提出、プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
18	課題1 「女性が考える理想住宅」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成 120
19	課題2 「事務所」	課題説明・資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 資料収集・エスキス 120
20	課題2 「事務所」	資料収集・エスキスチェック・図面作成 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 資料収集・エスキス・CAD図面作成 二級建築士対策問題 150
21	課題2 「事務所」提出	提出 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 エスキス・CAD図面作成 二級建築士対策問題 150
22	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	課題説明・資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-5】	課題3作成 資料収集・エスキス 60
23	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
24	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
25	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-6】	課題3作成 資料収集・エスキス 60
26	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 60
27	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学する。	見学会レポート作成 60
28	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学する。	見学会レポート作成 60
29	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題 90
30	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題 90
31	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-8】	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 60
32	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 60
33	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキスチェック・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 60
34	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 60
35	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 60
36	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 120
37	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 120
38	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 120
39	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 120
40	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田	商業施設士対策問題 パース図作成 60
41	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田	商業施設士対策問題 パース図作成 60
42	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田	商業施設士対策問題 パース図作成 60
43	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田	商業施設士対策問題 パース図作成 60
44	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田	商業施設士対策問題 パース図作成 60
45	商業施設士2次試験対策講座	平面図、パース図面作成 担当：山形・阿部・長田	商業施設士対策問題 パース図作成 60
46	授業ガイダンス・課題4 「美術館」	ガイダンス(後期授業目標等)・課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
47	授業ガイダンス・課題4「美術館」	資料収集 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
48	課題4「美術館」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-1】	課題4作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
49	課題4「美術館」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
50	課題4「美術館」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-2】	課題4作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
51	課題4「美術館」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
52	課題4「美術館」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-3】	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作 二級建築士対策問題 90
53	課題4「美術館」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作 二級建築士対策問題 90
54	課題4「美術館」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-4】	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成 120
55	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修する。	見学会レポート作成 60
56	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修する。	見学会レポート作成 60
57	課題4「美術館」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成 120
58	課題4「美術館」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題 150
59	課題4「美術館」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題 150
60	課題5「RC造(ラーメン)住宅」	課題説明・資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-5】	課題5作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
61	課題5「RC造(ラーメン)住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
62	課題5「RC造(ラーメン)住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-6】	課題5作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
63	課題5「RC造(ラーメン)住宅」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
64	課題5「RC造(ラーメン)住宅」	エスキスチェック・図面作成 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-7】	課題5作成 エスキス・図面作成 120
65	課題5「RC造(ラーメン)住宅」	エスキスチェック・図面作成 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 エスキス・図面作成 120
66	課題5「RC造(ラーメン)住宅」提出	エスキスチェック・図面作成 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 エスキス・図面作成 二級建築士対策問題 150
67	課題5「RC造(ラーメン)住宅」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題5作成 エスキス・図面作成 二級建築士対策問題 150
68	課題6「建築再生__リノベーション」	課題説明・資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-8】	課題6作成 資料収集・エスキス・図 面作成 60
69	課題6「建築再生__リノベーション」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 資料収集・エスキス・図 面作成 60
70	課題6「建築再生__リノベーション」	資料収集・エスキスチェック 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 資料収集・エスキス・図 面作成 60
71	課題6「建築再生__リノベーション」	製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 CAD図面作成・模型製作 60
72	課題6「建築再生__リノベーション」	製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
73	課題6 「建築再生__リノベーション」	製図 (CAD) ・ 模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成 120
74	課題6 「建築再生__リノベーション」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成 120
75	課題6 「建築再生__リノベーション」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成 120

<b>科目名</b>	建築設計製図Ⅳ		<b>対象 単位数 必修</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 10単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明, 阿部 恵利子, 長田 城治			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	建築設計製図Ⅳ前期では、これまでに修得した構造、法規、計画等を踏まえた綿密な各種計画を基に、各自のオリジナリティを表現することを目的とします。後期では4年間の集大成として、卒業設計制作に取り組みます。また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけて下さい。			
<b>達成目標</b>	①実施設計に結びつく程度の完成度でオリジナル設計ができたか。 ②適切なテーマ設定、計画で卒業設計に取り組むことができたか。 ③計画したスケジュールに沿って卒業設計を完成できたか。			
<b>受講資格</b>	建築デザインコース4年	<b>成績評価 方法</b>	製図及び模型等の課題提出80%、授業への取り組み（二級建築士試験対策問題を含む）20%。	
<b>教科書</b>	『新しい建築製図』学芸出版社			
<b>参考書</b>	課題に対応した参考書を随時紹介します。			
<b>学生への要望</b>	プレゼンテーション能力を高めるよう心掛けてください。			
<b>オフィスタイム</b>	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00 山形・阿部：本館3F No.1 住居学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス、課題1「病院」	ガイダンス（前期授業目標等）・課題説明・資料収集 課題1「病院」についてコンセプトの重要性と設計上の注意点などについて説明する。 担当：山形・阿部・長田※担当教員は最低2名以上で指導する。	課題1作成 エスキス	60
2	課題1「病院」	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス	60
3	課題1「病院」	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス	60
4	課題1「病院」	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス	60
5	課題1「病院」	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス 二級建築士対策問題	90
6	課題1「病院」	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス 二級建築士対策問題	90
7	課題1「病院」	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策 1-1】	課題1作成 エスキス	60
8	課題1「病院」	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス 二級建築士対策問題	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	課題1「病院」	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス 二級建築士対策問題 90
10	課題1「病院」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-2】	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作 60
11	課題1「病院」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作 二級建築士対策問題 90
12	課題1「病院」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作 二級建築士対策問題 90
13	課題1「病院」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田 要求図面をCADにて作成する。 【二級建築士試験対策1-3】	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作 60
14	課題1「病院」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作 二級建築士対策問題 90
15	課題1「病院」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作 二級建築士対策問題 90
16	課題1「病院」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-4】	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作 60
17	課題1「病院」	製図(CAD)・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 CAD図面・模型製作 60
18	課題1「病院」	製図(CAD)・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 CAD図面・模型製作・パネル作成 120
19	課題1「病院」	製図(CAD)・模型制作 要求図面をCADにて作成する。 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 CAD図面・模型製作・パネル作成 120
20	課題1「病院」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 CAD図面・模型製作・パネル作成 120
21	課題1「病院」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題1作成 CAD図面・模型製作・パネル作成 120
22	課題2「狭小住宅」	課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 資料収集・エスキス 60
23	課題2「狭小住宅」	資料収集 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
24	課題2「狭小住宅」	資料収集・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題 90
25	課題2「狭小住宅」	資料収集・エスキス 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-5】	課題2作成 資料収集・エスキス 60
26	課題2「狭小住宅」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製作 60
27	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学	見学会レポート作成 60
28	建設現場見学会	基礎工事や躯体工事、設備工事などを見学	見学会レポート作成 60
29	課題2「狭小住宅」	製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 CAD図面・模型製作 二級建築士対策問題 90
30	課題2「狭小住宅」	製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 CAD図面・模型製作 二級建築士対策問題 150
31	課題2「狭小住宅」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-7】	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル作成 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
32	課題2「狭小住宅」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題 150
33	課題2「狭小住宅」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題 150
34	課題3「建築で地域活性化」	課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策1-8】	課題3作成 資料収集・エスキス 60
35	課題3「建築で地域活性化」	資料収集 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 資料収集・エスキス 60
36	課題3「建築で地域活性化」	資料収集 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 資料収集・エスキス 60
37	課題3「建築で地域活性化」	資料収集・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 資料収集・エスキス 60
38	課題3「建築で地域活性化」	資料収集・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 資料収集・エスキス 60
39	課題3「建築で地域活性化」	資料収集・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 資料収集・エスキス 60
40	課題3「建築で地域活性化」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面・模型製作 60
41	課題3「建築で地域活性化」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面・模型製作 60
42	課題3「建築で地域活性化」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成 120
43	課題3「建築で地域活性化」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成 120
44	課題3「建築で地域活性化」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成 120
45	課題3「建築で地域活性化」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題3作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成 120
46	授業ガイダンス・課題4「卒業設計」	ガイダンス(後期授業目標等)・課題説明・資料収集 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス 60
47	課題4「卒業設計」	資料収集 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス 60
48	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス・現地サーベイ 120
49	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス・現地サーベイ 120
50	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス・現地サーベイ 二級建築士対策問題 150
51	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス・現地サーベイ 二級建築士対策問題 150
52	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキス 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-1】	課題4作成 資料収集・エスキス・現地サーベイ 二級建築士対策問題 150
53	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキス 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 資料収集・エスキス・現地サーベイ 二級建築士対策問題 150
54	課題4「卒業設計」	資料収集・現地サーベイ・エスキスチェック・敷地決定 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-2】	課題4作成 資料収集・エスキス・現地サーベイ 120
55	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修	見学会レポート作成 60
56	建築物見学会	県外の歴史的建造物や現代建築を見学し、建築技術や設計意図、地域ごとの特徴を学修	見学会レポート作成 二級建築士対策問題 90
57	課題4「卒業設計」	エスキス・製図(CAD)・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題 90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
58	課題4「卒業設計」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-3】	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作 二級建築士対策問題 90
59	課題4「卒業設計」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題 150
60	課題4「卒業設計」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-4】	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成 120
61	課題4「卒業設計」中間提出	中間提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成 120
62	課題4「卒業設計」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題 150
63	課題4「卒業設計」	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・ 模型製作 二級建築士対策問題 90
64	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-5】	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 60
65	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 二級建築士対策問題 90
66	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-6】	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 二級建築士対策問題 90
67	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 二級建築士対策問題 90
68	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-7】	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 二級建築士対策問題 90
69	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 二級建築士対策問題 90
70	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田 【二級建築士試験対策2-8】	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 60
71	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 60
72	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 120
73	課題4「卒業設計」	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 120
74	課題4「卒業設計」提出	提出・プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 120
75	課題4「卒業設計」	プレゼンテーション 担当：山形・阿部・長田	課題4作成 CAD図面作成・模型製作・ パネル作成 120

<b>科目名</b>	工業概論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	工業が人間生活に及ぼしてきた影響を、利便性や快適性等のプラス面及び公害等マイナス面の両方から捉え、これからの工業技術者のあり方を考えさせる。さらに、建築分野における耐震問題やコンピューターによる情報の漏洩問題等から、技術者としての法遵守の意義及び人間生活に貢献する自覚をもたせる。		
<b>達成目標</b>	工業技術と人間生活との関わり及び工業が日本の発展に果たした役割を理解させるとともに、技術者としての使命と倫理観を育てる。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	①学習への意欲20%、理解度30% ②課題並びにプレゼンテーションの総合評価50%
<b>教科書</b>	プリント等配布		
<b>参考書</b>	適宜紹介する		
<b>学生への要望</b>	工業技術と人間生活に感心を持ち、予習して授業に臨むこと		
<b>オフィスタイム</b>	山形敏明(月曜Ⅰ・Ⅱ限)、石原正道(月曜Ⅴ限、火曜Ⅴ限)、長谷川貴弘(火曜Ⅴ限、水曜Ⅳ限)、山口猛(月曜Ⅱ・Ⅳ限)各研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	工業の歴史	産業革命以降、工業が人間生活や社会を一変させた歴史について。(長谷川)	授業内容を復習	60
2	工業分野の変遷	産業革命以降の工業分野における変遷(蒸気機関車から電気、電子技術等へ)について。(長谷川)	授業内容を復習	60
3	戦前の電気製品	わが国の戦前における電気製品の導入と生活との関連について。(石原)	授業内容を復習	60
4	戦後の電気製品	わが国の戦後における電気製品の導入と生活との関連について。(石原)	レポート準備	90
5	戦後の工業技術	わが国における戦後の工業技術(自動車産業、土木・建築等)について、世界的に牽引的立場にあったことを理解させ、技術者として誇りを持たせる。(山形)	授業内容を復習	60
6	工業と建築	工業におけるさまざまな分野の集大成として建築が成立することを理解させる。(山形)	授業内容を復習	60
7	公害の歴史	わが国における公害問題の歴史について。(長谷川)	授業内容を復習	60
8	公害法の成立	工業の発達と公害法の成立について。(長谷川)	授業内容を復習	60
9	自然保護法の成立	工業の発達と自然保護法の成立について。(長谷川)	授業内容を復習	60
10	世界的視点からの公害	世界的視点から大気汚染、二酸化炭素問題、温暖化、さらに京都議定書について説明する。(長谷川)	レポート準備	90
11	耐震疑惑問題Ⅰ	建築における耐震疑惑問題から、技術者が人間生活の安全と安心を提供しなければならないことや、法遵守の意義を理解させる。(山形)	授業内容を復習	60
12	耐震疑惑問題Ⅱ	建築における耐震疑惑問題等の法に背く行為が起こった社会背景について考えさせる。(山形)	授業内容を復習	60
13	コンピューターの歴史	コンピューターの歴史と今日の情報化社会について。(山口)	レポート準備	60
14	プライバシー保護	コンピューターとプライバシー保護の問題について。(山口)	レポート準備	60
15	総括	これまでの授業を総括し、工業及び工業技術者とは何かを考えさせる。(山形)	レポート準備	60

<b>科目名</b>	職業指導	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	長田 城治		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	職業指導とは、高校生が自己の将来の「進路・職業」を選択できるように援助する教育活動のことである。高等学校において職業指導は、進路指導という名の基に実践され、生徒の進学や就職に関わる事項だけでなく、個々の人生設計や自己の在り方生き方を主体的に創造するための教育活動として重要な役割を担っている。そのためこの科目では、自分自身と職業への理解を促すキャリア教育を実践し、それらの指導力を身につけていくことを目標とする。また、工業高等学校での教員の経験を活かして、工業高等学校ならではの進路傾向や業界の現状、進路指導の実践について解説する。 実務経験：工業高等学校（神奈川県）で教員として勤務		
<b>達成目標</b>	①高等学校の進路指導について、地域の事例を把握することができたか。 ②生徒のキャリア発達を促す方策について具体的な例を挙げることができるか。 ③学生自身の人生設計を具体的にプランニングできたか。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース	<b>成績評価 方法</b>	①報告書（相談カルテなど）40% ②課題（模擬面談など）30% ③レポート（自己PR、業界研究など）30%
<b>教科書</b>	特になし 必要に応じてプリントを配布します。		
<b>参考書</b>	特になし		
<b>学生への要望</b>	本授業は、アクティブラーニングの手法を用いて、学生の主体的な活動や意見交換をしながら行うため、遅刻・欠席がないよう注意すること。 事前学修：新聞やニュースなどで取り上げられた建設業界に関する記事を読み、最新の動向についても把握するように努めること。（1時間）		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日8:50～10:20 水曜日14:30～16:00 本館1F No.2 住居学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	ガイダンス	「職業指導」15回の授業の概要について講義し、本授業で何を学ぶかを理解する。また、工業高校とはどのような特色を持つ高校なのかを理解する。	120
2	教職員として基本的な資質	工業高校の教職員として必要な基本的な資質・能力を学ぶ。	120
3	職業指導から進路指導への転換とその背景	高等学校で実施された職業指導の実践内容を学習し、現在実施される進路指導に転換した歴史的背景を学ぶ。	120
4	大学入試の現状と問題点	現在の大学入試の方法を学習し、これから変更となる入試制度の概略を理解する。	120
5	職業観をめぐる諸問題	職業の概念について理解する。	120
6	家庭や地域と連携・協力した職業指導の実践	開かれた学校づくりを目指して、地域や保護者との連携を図った職業指導の実践方法について学習する。	120
7	自己理解	自身を理解し、自己PRやES（エントリーシート）を作成して発表する。	120
8	就職指導慣行と新しい選考方法	従来の就職活動で実施された選考の方法を学習する。	120
9	工業系高校の進路傾向とその業界研究1	高等学校における進路の傾向を学び、どのような職種を選択し、その業界がどのような特徴を持つのかについて、特徴的な企業を例に出しながら講義を行う。	120
10	工業系高校の進路傾向とその業界研究2	高等学校における進路の傾向を学び、どのような職種を選択し、その業界がどのような特徴を持つのかについて、特徴的な企業を例に出しながら講義を行う。	120
11	工業系高校の進路傾向とその業界研究3	高等学校における進路の傾向を学び、どのような職種を選択し、その業界がどのような特徴を持つのかについて、特徴的な企業を例に出しながら講義を行う。	120
12	職業指導の実践1	授業内で出される課題に取り組み、これまでの授業で得た知識を活かして職業・進路指導の実践を行う（模擬面談）。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	職業指導の実践2	授業内で出される課題に取り組み、これまでの授業で得た知識を活かして職業・進路指導の実践を行う（模擬面談）。	120
14	職業指導の実践3	授業内で出される課題に取り組み、これまでの授業で得た知識を活かして職業・進路指導の実践を行う（模擬面談）。	120
15	職業指導の問題と今後の在り方	少子化による生徒数の減少と情報化社会における職業の多様化に伴い、今後の職業指導に対するスキルは、多くの知識や経験が必要になるであろう。本講義では、これまでの授業内で得た知識を振り返り、今後どのようにして生徒指導、進路指導すべきか課題をまとめ、今後の方策を考える講義を行う。	120

<b>科目名</b>	卒業研究 I	<b>対象 単位数 必選</b>	人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	2年次までに学んだ建築学と個々人の将来を見据えて、興味ある卒業研究テーマを決定する。		
<b>達成目標</b>	研究方法やその進め方、各種分析の方法を把握し、論文構成や文体を学ぶ。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース3年生	<b>成績評価 方法</b>	①自主性・積極性などの取り組み姿勢50% ②研究報告・発表50%
<b>教科書</b>	資料を配布する。		
<b>参考書</b>	個々に指導・提示する。		
<b>学生への要望</b>	様々な論文を読み、積極的に調査をすすめること。また、建築に関わることに問題意識を持つこと。		
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	今後のゼミの進め方	研究テーマ決定の際に研究の目的や、独自性、研究結果の仮設が重要であることについて解説する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。
2	研究方法について	研究の目的によって、研究方法が多数あることを事例を踏まえて述べる。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。
3	研究の時間配分	限られた時間の中で研究を達成する為に、研究に要する時間の配分について、各々が考えることを促す。また、この作業が社会に出てからの仕事にも重要であること述べる。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。
4	章立てについて	予め論文の章立てをすることにより、全体を掌握することの重要性について述べる。	研究テーマに沿った章立てをすることで、研究の方向性を明確にする。
5	アンケート調査について	アンケート調査の質問方法について、事例を用いて説明する。質問方法によって回答を導くことの弊害等についても述べる。また、SD法の質問による統計処理について説明する。	アンケート調査の事例を整理する。
6	統計処理 1	統計処理の利点と弊害について述べる。続いてアンケート調査に必要な単純集計の手法について述べる。	統計処理の手法について理解を深める。
7	統計処理 2	クロス集計の手法と意義について述べる。	クロス集計の手法について理解を深める。
8	統計処理 3	SD法による調査における、相関関係、相関係数について説明する。	SD法による調査法について理解を深める。
9	統計処理 4	エクセルを用いて因子分析の意味と手法を学ぶ。	エクセルを用いた因子分析について理解を深める。
10	統計処理 5	例題を与えて因子分析の分析結果を読む学習を行う。	エクセルを用いた因子分析について理解を深める。
11	統計処理 6	エクセルを用いて主成分分析の意味と手法を学ぶ。	エクセルを用いた主成分分析について理解を深める。
12	統計処理 7	例題を与えて主成分分析の分析結果を読む学習を行う。	エクセルを用いた主成分分析について理解を深める。
13	研究テーマの模索 1	興味のある研究テーマについて考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。
14	研究テーマの模索 2	引き続き、興味のある研究テーマについて考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。
15	研究テーマの決定 1	個々に研究テーマを決定する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。
16	先行研究の調査 1	研究の独自性が最も重要であることから、先行研究の調査が必要であることを述べ、先行研究に親しむことを促す。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。
17	先行研究の調査 2	決定した研究テーマに関する先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。
18	先行研究の調査 3	引き続き、先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
19	先行研究の調査4	引き続き、先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
20	研究方法決定	テーマに対する有効性を検討し、研究方法を決定する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
21	論文構成の検討	論文全体の構成を考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にし、構成を考える。	60
22	論文の章立て	論文の章立てについて検討する。	構成と章立てを整理する。	60
23	研究テーマ発表	個々に研究テーマ・研究方法・章立てについて発表し、その有効性について討論する。	研究テーマについて先行研究等を踏まえてその有効性を検討する。	60
24	研究テーマの決定2	前回のテーマに関して、改善点を検討する。以後、個人指導とする。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
25	研究計画と資料収集1	研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
26	研究計画と資料収集2	継続して、研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
27	調査研究と資料収集3	研究計画の基づき、調査研究を開始する。また、テーマに沿った資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
28	調査研究と資料収集4	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
29	調査研究と資料収集5	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
30	研究経過報告	これまでの作業を振り返って、来年度の論文完成に向けての予定を立てる。	論文完成に向けて計画を立てる。	60

<b>科目名</b>	卒業研究 I	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	石原 正道		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	卒業研究の内容は物理・情報に関する研究のみならず、計量文献学・応用統計など非常に多岐に渡ります。卒業研究Iでは主に研究を進めるための基礎的な知識と技術を得ることを目的とします。テーマによって異なりますが、統計処理・数的な処理(数式の演算)・プログラミングなどを学ぶこととなります(建築デザインコース向けの研究では数式は扱うものと考えてください)。		
<b>達成目標</b>	卒業研究では(1)問題を発見する力を養うこと、(2)課題を解決するために、資料を収集し、考察を行い、結論を導く力を得ること、(3)結論を伝達するための、論理的な文章の作成力・発表技術を身につけること、を養成することを目標とします。卒業研究Iでは、これらの目標を達成するための基礎的な知識と技術を得るため、(1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、(2)数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、(3)大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を目標とします。		
<b>受講資格</b>	なし	<b>成績評価 方法</b>	研究を進める上で必要となる基礎的な知識と能力の習得状況により判定します。 具体的には、(1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、(2)数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、(3)大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を評価対象とします。評価割合は(1)を40%、(2)を30%、(3)を30%とします。ただし研究テーマによって(1)から(3)で不必要な項目がある場合は、不必要な項目を除いた残りの項目を均等(50%)に評価します。
<b>教科書</b>	適宜提示する。		
<b>参考書</b>	適宜提示する。		
<b>学生への要望</b>	卒業研究を完了するには自学自習する必要があります。目標を明確にし自学自習を進めてください。		
<b>オフィスタイム</b>	<p>前期 月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育 研究室 木曜日 12:50-14:20, 情報処理教育 研究室 後期 月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育 研究室 火曜日 16:10-17:05, 情報処理教育 研究室</p> <p>他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koryama-kgc.ac.jp</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。	事前に自分の興味のある事柄について整理しておくこと。 30
2	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。	事前に自分の興味のある事柄について整理しておくこと。 30
3	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。 60
4	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。 60
5	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。 60
6	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。 60
7	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
9	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
10	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
11	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
12	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
13	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
14	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
15	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
16	基礎事項習得状況の確認	卒業研究前半の基礎事項習得状況を確認します。	これまでに学んだ事項について整理・確認しておくこと。	120
17	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることに。また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
18	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることに。また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
19	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることに。また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
20	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることに。また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
21	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
22	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
23	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
24	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。 90
25	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。 90
26	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。 90
27	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。 90
28	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。 90
29	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。 90
30	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。 90

平成31年度

<b>科目名</b>	卒業研究 I	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
<b>担当教員</b>	山形 敏明			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	これまでに学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、研究テーマを指導教員と相談の上決定し、自主的に実験・調査を行い、論文としてまとめる基礎力を修得する。			
<b>達成目標</b>	卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了している。			
<b>受講資格</b>	建築デザインコース3学年	<b>成績評価 方法</b>	毎週のレポート提出70%、プレゼンテーション30%	
<b>教科書</b>	適宜、資料配付			
<b>参考書</b>	適宜、紹介する。			
<b>学生への要望</b>	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	ガイダンス	卒業研究に関する概論。 研究テーマの設定についての方向性を明確にする。	卒業研究を進める
2	テーマ設定に向けて(1)	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める
3	テーマ設定に向けて(2)	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める
4	研究テーマ決定	卒研究テーマ(仮)を決定する。	卒業研究を進める
5	論文の書き方について	卒業論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める
6	論文の書き方について	卒業論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める
7	論文の書き方について	梗概集等の論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める
8	既往論文の研究(1)	研究テーマにおける既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める
9	既往論文の研究(2)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める
10	既往論文の研究(3)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める
11	既往論文の研究(4)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める
12	研究方法について(1)	研究テーマに沿って、既往研究の研究方法について研究する。	卒業研究を進める
13	研究方法について(2)	継続して、研究テーマに沿った既往研究の研究方法について研究する。	卒業研究を進める
14	研究方法について(3)	研究テーマにおける、研究方法を決定する。	卒業研究を進める
15	研究計画(1)	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。	卒業研究を進める
16	研究計画(2)	継続して、研究テーマに沿った研究計画を策定する。	卒業研究を進める
17	研究計画(3)	策定した研究計画の妥当性を検討する。	卒業研究を進める
18	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を開始する。	卒業研究を進める
19	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める
20	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める
21	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める
22	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める
23	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
24	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める 60
25	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める 60
26	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める 60
27	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める 60
28	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める 60
29	プレゼンテーション	これまでの、実験及び調査研究結果について、プレゼンテーションを行い、討論する。	卒業研究を進める 60
30	実験及び調査研究の評価	卒業研究 I 全般の、研究結果を評価し、改善等を加える。	卒業研究を進める 60

<b>科目名</b>	卒業研究 I	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	長田 城治		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行う。 2年次までに学んだ建築に関する知識を活かし、ゼミ内で実施する各種外部調査活動に参加することで、自身が興味ある卒業研究テーマを決定する。具体的な課題を通して、研究方法やその進め方、各種分析の方法を習得し、論文の書き方を習得する。 また、実地課題では現地調査を実施し、調査研究能力だけでなく、社会性やコミュニケーション能力の向上を図ること。		
<b>達成目標</b>	①各種調査活動に参加し、自身が興味を持つテーマを設定する。 ②先行研究を調査し、自身のテーマの新規性を把握する。 研究テーマにおいて、自身の研究が「対象」・「視点」・「方法」のうち、どの部分が新しいのかを把握して、研究目的を執筆すること。 ③論文の書き方を習得すること。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース3年生	<b>成績評価 方法</b>	提出課題80%、作業姿勢や対応20%
<b>教科書</b>	資料を配布する。		
<b>参考書</b>	個々に指導する。		
<b>学生への要望</b>	積極的に調査活動をすすめること。関連する様々な論文を読破し、建築に関わることに問題意識を持つこと。		
<b>オフィスタイム</b>	通年：月曜日 8:50~10:20 木曜日 8:50~10:20 本館1F No.2 住居学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	卒業論文作成のための手引き1	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1. 論文とレポート・報告の違いについて 2. 論文に必要な新規性を有すには 対象・視点・方法	指導内容を配布資料を用いて復習する 30
2	卒業論文作成のための手引き2	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1. 先行研究の探し方と要点の把握について	指導内容を配布資料を用いて復習する 60
3	卒業論文作成のための手引き3	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1. 文章の書き方について 2. 資料の収集方法について	指導内容を配布資料を用いて復習する 60
4	実地課題1	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査場所を選定するための基礎調査 60
5	実地課題2	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査場所を選定するための基礎調査 60
6	実地課題3	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	実地課題4	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査 120
8	実地課題5	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	調査成果をまとめる 60
9	実地課題6	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	調査成果をまとめる 60
10	実地課題7	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査に関するレジュメとプレゼン資料作成 120
11	実地課題発表	機器を用いて実地課題をビジュアルに発表します。	実地調査に関するレジュメとプレゼン資料作成 120
12	文献・史料課題1	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	実地調査場所を選定するための基礎調査 60
13	文献・史料課題2	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	外部施設で資料調査 120
14	文献・史料課題3	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	外部施設で資料調査 120
15	文献・史料課題4	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる 60
16	文献・史料課題5	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる 60
17	文献・史料課題6	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
18	文献・史料課題7	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	レジュメとプレゼン資料作成 120
19	文献・資料課題発表	機器を用いて文献・資料課題をビジュアルに発表します。	レジュメとプレゼン資料作成 120
20	テーマ設定のための基礎調査1	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査 60
21	テーマ設定のための基礎調査2	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査 60
22	テーマ設定のための基礎調査3	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査 60
23	テーマ設定のための基礎調査4	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査 60
24	テーマ設定のための基礎調査5	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	レジュメとプレゼン資料作成 120
25	卒業論文テーマ発表	これまでの調査・検討内容を踏まえ、研究の目的と方法を明確にします。 これから行う卒業研究が対象・方法・視点のうち、どの点に新規性を有すのか、他の研究との比較を通して発表します。	レジュメとプレゼン資料作成 120
26	先行研究の整理と研究計画の決定1	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理 60
27	先行研究の整理と研究計画の決定2	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理 60
28	先行研究の整理と研究計画の決定3	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理 60
29	先行研究の整理と研究計画の決定4	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理 60
30	先行研究の整理と研究計画の決定5	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理 60

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	阿部 恵利子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	研究の意義、目的意識をしっかりとって4年間の集大成としての論文をまとめることにより、文章力、分析力を養う。		
<b>達成目標</b>	研究テーマについて、深い知識と論理的思考力を身に付け、ものの見方・考え方を深める。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース4年生	<b>成績評価 方法</b>	①取り組む姿勢20% ②研究報告・発表30% ③論文の完成度50%
<b>教科書</b>	適宜、資料を提示する。		
<b>参考書</b>	テーマに沿った参考書をその都度提示する。		
<b>学生への要望</b>	先行研究をしっかりと読み、主体的・積極的な姿勢で取り組むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	住居学研究室 月曜Ⅳ時限（14：30～16：00） 水曜Ⅳ時限（14：30～16：00）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	春季期間の研究経過報告	春季期間の研究経過を確認し、研究テーマ、研究方法、章立て等について再検討する。	研究テーマ、研究方法、章立てについて再検討する。 60
2	論文の文体について	論文の文体について、接続詞の使い方等の論文の文体について解説する。グラフや表の表現方法について、再確認する。	論文の文体、グラフや表の表現方法について整理する。 60
3	研究データ整理 1	研究データの整理をする。	研究データの整理をする。 60
4	研究データ整理 2	引き続き、研究データの整理をする。	研究データの整理をする。 60
5	研究データ整理 3	引き続き、研究データの整理をする。	研究データの整理をする。 60
6	研究データ整理 4	中間発表に向けて表やグラフ、写真を整理する。	研究データの整理をする。 60
7	研究データ整理 5	引き続き、中間発表に向けて表やグラフ、写真を整理する。	研究データの整理をする。 60
8	論文執筆 1	論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 180
9	論文執筆 2	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 180
10	論文執筆 3	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 180
11	論文執筆 4	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 180
12	論文執筆 5	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 180
13	論文執筆 6	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 180
14	中間発表準備	研究成果の確認と発表に向けての準備を行う。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。 300
15	プレゼンテーションの練習 1	中間発表に向けてプレゼンテーションのテクニックをマスターする。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。 300
16	プレゼンテーションの練習 2	引き続き、中間発表に向けてプレゼンテーションのテクニックをマスターする。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。 300
17	論文執筆 7	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 300
18	論文執筆 8	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 300
19	論文執筆 9	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 300
20	論文執筆 10	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 300
21	論文執筆 11	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 300
22	論文執筆 12	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 300
23	論文執筆 13	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 300
24	論文執筆 14	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。 300
25	本発表の準備	本発表の内容と研究成果を確認し、本発表の準備を進める。	本発表に向けて、パワーポイントを作成する。 360
26	プレゼンテーションの練習 3	本発表に向けてプレゼンテーションの準備を進める。	本発表に向けて、パワーポイントを作成する。 360
27	プレゼンテーションの練習 4	本発表に向けてプレゼンテーションを実施する。	本発表に向けて、プレゼンテーションの練習をする。 360
28	本発表	研究テーマについての研究成果を発表する。	本発表に向けてプレゼンテーションの練習をする。 360
29	論文仮提出	執筆した論文を仮提出する。	論文を見直し、誤字・脱字を訂正する。 180
30	論文完成	研究発表後、論文の加筆修正を行い、製本する。	論文を修正する。 300

平成31年度

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	卒業研究Ⅰで決定した研究テーマについて、これまで学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、自主的に実験・調査研究を行い、論文としてまとめ、プレゼンテーションを行う。 また、大学で学んだことの集大成であるとともに、実社会での仕事の基礎となる部分も多いので、自主的かつ積極的に取り組むことが必要である。		
<b>達成目標</b>	卒業研究Ⅰで決定した研究テーマについて、これまで学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、自主的に実験・調査研究を行い、論文としてまとめ、プレゼンテーションを行う。 また、大学で学んだことの集大成であるとともに、実社会での仕事の基礎となる部分も多いので、自主的かつ積極的に取り組むことが必要である。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース4年	<b>成績評価 方法</b>	研究への取り組み姿勢25%、レポート提出期限の厳守25%、卒業研究中間発表20%、卒業研究発表30%
<b>教科書</b>	特に指定しない。		
<b>参考書</b>	適宜、紹介する。		
<b>学生への要望</b>	自ら問題意識をもち、計画的に実験や調査を行いデータをまとめる能力やまとめた成果を発表する能力を身につけるよう努力すること。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	最終学年に向けて、卒業研究の意義を再確認し、卒業研究Ⅰでの進捗状況の発表を行う。	卒業研究を進める 60
2	研究計画の妥当性	卒業研究Ⅰでの研究計画について、その妥当性を再検討する。	卒業研究を進める 60
3	論文構成(1)	論文作成に向けて、論文構成を行う。	卒業研究を進める 60
4	論文構成(2)	論文構成の妥当性を確認する。	卒業研究を進める 60
5	実験・調査の継続(1)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
6	実験・調査の継続(2)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
7	実験・調査の継続(3)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
8	実験・調査の継続(4)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
9	実験・調査の継続(5)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
10	実験・調査の継続(6)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
11	実験・調査の継続(7)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
12	実験・調査の継続(8)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
13	実験・調査の継続(9)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
14	中間発表の準備(1)	中間発表に向けて、研究成果の確認と発表準備。	卒業研究を進める 60
15	中間発表の準備(2)	プレゼンテーション用の構成を行う。	卒業研究を進める 60
16	中間発表の準備(3)	プレゼンテーション内容の確認を行う。	卒業研究を進める 60
17	中間発表の準備(4)	中間発表の練習。	卒業研究を進める 60
18	実験・調査内容の再確認	中間発表での指摘及び指導に対して、今後の研究内容の追加等について確認する。	卒業研究を進める 60
19	実験・調査の継続(10)	追加実験及び調査研究の確認を踏まえて、実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
20	実験・調査の継続(11)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
21	実験・調査の継続(12)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
22	実験・調査の継続(13)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
23	実験・調査の継続(14)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
24	実験・調査の継続(15)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
25	実験・調査の継続(16)	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める 60
26	プレゼンテーション	実験・調査結果のプレゼンテーションを行う。	卒業研究を進める 60
27	論文の仮提出	卒業研究論文の仮提出。	卒業研究を進める 60
28	本発表の準備	卒業研究本発表に向けた、発表内容の確認を行う。	卒業研究を進める 60
29	本発表	本発表と論文の仮提出を行う。	卒業研究を進める 60
30	論文提出	卒業研究論文の提出。	卒業研究を進める 60

平成31年度

<b>科目名</b>	卒業研究Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	長田 城治		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行う。 研究の意義や目的意識をしっかりと持ち、4年間の集大成としての論文をまとめることにより文章力や分析力を養い、地域の課題などを解決する能力を身に付けること。 研究テーマによっては現地に訪れることを推奨し、建物実測調査や聞き取り調査、資料調査などを実施して研究成果をまとめ、調査研究能力だけでなく、社会性やコミュニケーション能力の向上を図ること。		
<b>達成目標</b>	①客観性のある分析と論理的な文章構成を習得し、卒業論文を製作する。 ②地域に貢献に寄与する研究を実施し、研究成果を地域に公表および還元すること。		
<b>受講資格</b>	建築デザインコース4年生	<b>成績評価 方法</b>	論文完成度80% 研究への取り組み20%
<b>教科書</b>	適宜、資料を配布する		
<b>参考書</b>	特になし		
<b>学生への要望</b>	研究に対する目的意識や問題意識をもつこと。 論理的に考察する能力や順序立てて説明するプレゼンテーション能力を身につけるよう努力すること。		
<b>オフィスタイム</b>	通年：月曜日8:50～10:20 木曜日8:50～10:20 本館1F No.2 住居学研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	テーマ決定	卒業論文のテーマを明確にし、研究活動をはじめると共に、10月の中間発表、1月の本発表にむけた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める 120
2	先行研究の整理1	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理 120
3	先行研究の整理2	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理 120
4	先行研究の整理3	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理 120
5	先行研究の整理4	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理 120
6	先行研究の整理5	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理 プレゼン作成 120
7	進捗状況発表1	研究目的を明確にすることを目的に、口頭発表を行う。自身の研究の新規性のある部分について、先行研究と比較しながらまとめ、何をどんな方法で明らかにするのか、研究の骨子となる部分を明瞭にする。また、これまでの進捗状況を整理し、今後の研究計画について発表する。	指導を参考に研究を進める 調査準備 120
8	調査活動1	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て(聞いて)、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査準備 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	調査活動2	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめ、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 現地調査 120
10	調査活動3	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめ、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析 120
11	調査活動4	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめ、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析 120
12	調査活動5	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめ、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析 120
13	調査活動6	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめ、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析 120
14	調査活動7	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめ、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析 プレゼン作成 120
15	進捗状況発表2	調査などで得られた情報を整理し、今後の研究計画について発表する。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成 120
16	進捗状況発表3	夏季休暇中に行った内容について発表する。	指導を参考に研究を進める 120
17	プレゼンテーション作成	中間発表会に向けたプレゼンテーションを作成する。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成 120
18	中間発表練習	中間発表に向けた練習を行う。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成 120
19	研究計画の整理1	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める 120
20	研究計画の整理2	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める 120
21	論文の執筆1	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 120
22	論文の執筆2	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 120
23	論文の執筆3	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 120
24	論文の執筆4	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 プレゼン作成 120
25	進捗状況発表4	これまでの進捗状況について発表する。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 120
26	論文の執筆5	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 120
27	論文の執筆6	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 120
28	論文の執筆7	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
29	発表練習	本発表に向けた発表練習を行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習 120
30	本発表と論文投稿	本発表に向けて、発表データを作成し、投稿にむけて論文を完成させる。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習 120